

令和6(2024)年度

# 渋谷区立松濤美術館

THE SHOTO MUSEUM OF ART

年報 第28号 / 紀要 第3号

ANNUAL REPORT No.28 / BULLETIN No.3



撮影:上野則宏

令和6(2024)年度

# 渋谷区立松濤美術館

THE SHOTO MUSEUM OF ART

年報 第28号 / 紀要 第3号

ANNUAL REPORT No.28 / BULLETIN No.3

## 目 次

### 年報 第28号

I 施設概要	003
II 展観	005
令和6(2024)年度	005
III 展覧会カタログ・関連書籍 等	029
IV 館蔵品貸出状況	032
V 教育普及	033
1 講演会	033
2 美術教室	033
3 コンサート	034
4 ギャラリートーク	034
5 展覧会関連イベント	035
6 建築ツアー	036
VI 入館状況	037
VII 日誌抄	038
VIII 組織	039
IX 利用案内	040

### 紀要 第3号

#### 「塊人社」研究① 荒居徳亮

野城今日子 (渋谷区立松濤美術館 学芸員)	042
-----------------------	-----

#### 資料紹介

#### 渋谷区立松濤美術館 野島康三関連美術作品及び資料一覧

大平奈緒子 (渋谷区立松濤美術館 学芸員)	057
-----------------------	-----

# I 施設概要

## 建物概要

位 置	東京都渋谷区松濤二丁目14番14号
建物構造	鉄筋コンクリート造 地下2階地上2階建
敷地面積	1,034.57㎡
建築面積	618.40㎡
延床面積	2,027.18㎡
階層別面積	塔屋 29.48㎡ 2階 461.20㎡ 1階 305.50㎡ 地下1階 623.95㎡ 地下2階 607.05㎡
建築着工	昭和53（1978）年12月21日
竣 工	昭和55（1980）年 5月 8日
建築工事	株式会社 竹中工務店
設 計	白井晟一研究所
開 館	昭和56（1981）年10月 1日

## 各室面積

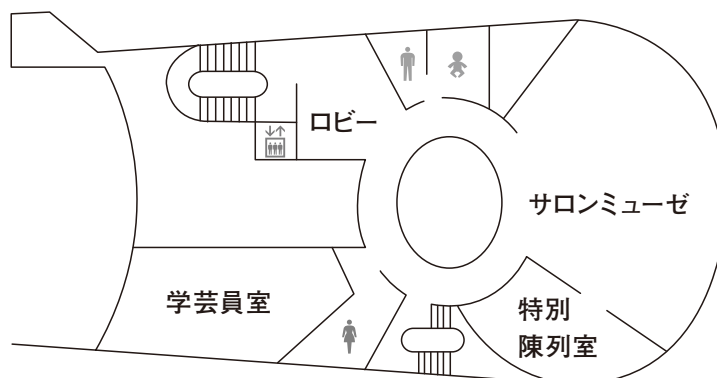
[2階]	特別陳列室	30.00㎡
	サロンミュージゼ	148.00㎡
	館長室	41.00㎡
	学芸員室	43.50㎡
[1階]	ロッカー室	11.50㎡
	ギャラリー	35.00㎡
	事務室	58.00㎡
	ロビー	64.50㎡
[地下1階]	陳列室	203.00㎡
	荷解室	15.50㎡
	格納室	28.50㎡
	収蔵庫	78.50㎡
	機械室	34.50㎡
	倉庫	10.00㎡
[地下2階]	ホール	121.00㎡
	映写室	6.50㎡
	第一制作室	37.00㎡
	第二制作室	34.50㎡
	講師控室	18.50㎡
	機械室	94.00㎡

# 平面図

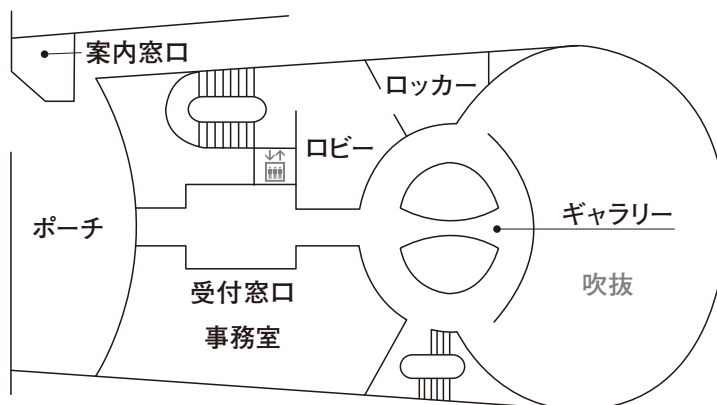
凡例



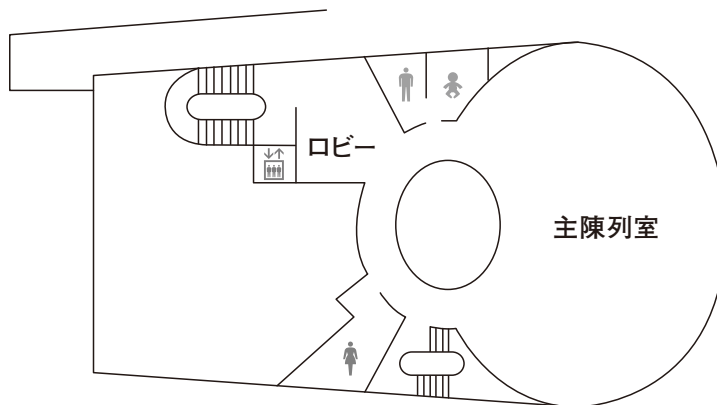
2 階



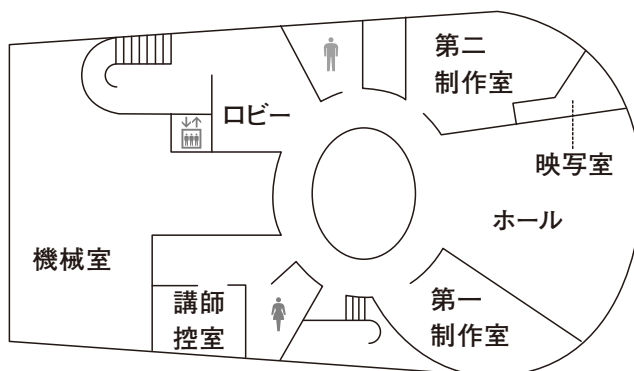
1 階



地下1階



地下2階



## Ⅱ 展観

### 令和6(2024)年度

特別展『没後120年 エミール・ガレ展 奇想のガラス作家

Émile Gallé: The Inspirational Glass Artist』…………… 006

特別展『111年目の中原淳一

Junichi Nakahara: Year 111』…………… 010

特別展『空の発見

Discovering the Sky』…………… 016

特別展『須田悦弘

SUDA YOSHIHIRO』…………… 021

2025 松濤美術館公募展

2025 Shoto Museum of Art Exhibition of Works by the General Public …… 024

サロン展『温故知新 古典技法で名画の魅力をまなぶ —青山学院中等部のとりくみ—

特別陳列:小企画 渋谷区立松濤美術館所蔵作品展示「人と動物のカタチ」』…………… 025

令和6(2024)年度

特別展

## 没後120年 エミール・ガレ展 奇想のガラス作家 Émile Gallé: The Inspirational Glass Artist

会期＝令和6(2024)年4月6日(土)～6月9日(日)

前期:4月6日(土)～5月6日(月・休)

後期:5月8日(水)～6月9日(日)

※会期中、一部展示替え

会場＝地下1階主陳列室、2階サロンミュゼ、特別陳列室

主催＝渋谷区立松濤美術館

協力＝ベル・デ・ベル

企画協力＝アートプランニングレイ

エミール・ガレは、19世紀末のヨーロッパで花開いた装飾芸術運動「アール・ヌーヴォー」の旗手のひとりとして知られる工芸家である。ガレは、草花、昆虫などをモチーフにした美しい曲線と鮮やかな色彩が特徴のガラス作品を数多く制作し、ガラス工芸を芸術に高めた作家だった。可憐でありながら、エネルギーみなぎるガレの作品は、日本でも人気が高く、国内の多くのコレクターから愛されてきた。

ガラスの天才・ガレの没後120年記念として開催した本展は、これまで紹介される機会が少なかった国内の個人コレクター所蔵の貴重な作品を中心にガレの足跡を全3章構成で紹介した。芸術はもとより、文学、植物、鉱物などの幅広い知識を有しながら、それを生かしてガラス作家、アートディレクター、植物学者として多彩な活動を展開したガレ。多岐にわたる仕事の中で自然美を追求していく情熱と信念を持ち続けたガレの生き方を、全120件の華麗なる作品から浮かびあがらせた。

会期中には、本展監修者の鈴木潔氏による記念講演会「エミール・ガレのガラス工芸／奇想と黙示の象徴芸術」のほか、特別ワークショップ「キラキラ☆宝石石けんをつくろう」などを開催した。



## 出品目録

No	作品名	制作年	寸法	所蔵	展示期間
			高さ(H)×幅(W)×奥行(D) cm		
1	ゴブレット(霊獣)	1880年代	H19.5 W21.0 D17.2	個人蔵	
2	花器(狩猟図)	1878年頃	H20.5 W14.0	個人蔵	
3	香水瓶(湖水風景図)	1878-1900年	H18.5 W9.0	個人蔵	
4	香水瓶(狩猟図)	1878年頃	H11.0 W11.0	個人蔵	
5	月型小物入れ	1880-1884年	H4.8 W11.1 D11.0	個人蔵	
6	リキュールセット(騎士、アザミ)	1875年頃	酒瓶(Bottle) :各H22.5 W12.5 トレイ(Tray) :H4.0 W31.0 D23.0 グラス(Glass) :各H4.5 W4.5	個人蔵	
7	花器(ニンフ、唐草)	1880-1886年頃	H14.0 W21.5 D16.5	個人蔵	
8	花器(湖水風景図)	1878-1889年頃	H20.3 W20.0 D16.0	個人蔵	
9	花器(セミ)	1882年頃	H34.0 W14.0	個人蔵	
10	水差(キンギョ)	1878年(初版) 1900年(復刻版)	H14.5 W12.0	個人蔵	
11	花器(アラバスク)	1889年	H23.0 W14.0	個人蔵	前期
12	花器(樹下人物図)	1898年頃	H14.8 W9.0	個人蔵	
13	花器(ユリ)	1878-1889年頃	H31.0 W11.5	松江北堀美術館蔵	
14	角鉢(カエル、ハス)	1880-1884年頃	H5.0 W20.0	松江北堀美術館蔵	
15	花器(貝殻)	1885-1889年頃	H22.5 W22.0 D14.0	松江北堀美術館蔵	
16	婦人用卓上鏡	1863-1876年頃	H35.0 W23.0	松江北堀美術館蔵	
17	猫型置物	1865-1890年代	H33.0 W14.0 D17.0	松江北堀美術館蔵	
18	猫型置物	1865-1890年代	H34.0 W15.0 D12.0	大一美術館蔵	
19	猫型置物	1865-1890年代	H34.0 W15.0 D12.0	大一美術館蔵	
20	犬型置物	1865-1890年代	H31.6 W21.8 D14.8	ポーラ美術館蔵	
21	香炉(ヘラクレスオオカブト)	1870-1878年頃	H17.5 W19.5 D16.0	松江北堀美術館蔵	
22	食器皿「フロラル」(コスモス)	1881年	Φ 21.0	松江北堀美術館蔵	
23	食器皿「フロラル」(オダマキ)	1881年	Φ 21.0	松江北堀美術館蔵	
24	食器皿「フロラル」(ヒオウギ)	1881年	Φ 21.0	松江北堀美術館蔵	
25	装飾扇「一羽の雌鶏が突然現れた、 するとほら鬨に火がついた」	1878年頃	H4.3 W36.0 D31.5	松江北堀美術館蔵	前期
26	装飾扇(キク、チョウ)	1878年頃	H4.5 W35.9 D31.5	松江北堀美術館蔵	前期
27	装飾団扇(アイリス、サラマンダー)	1879年頃	W22.0 D31.5	松江北堀美術館蔵	後期
28	装飾団扇(ジャポニスム)	1878-1880年頃	W21.0 D29.5	松江北堀美術館蔵	後期
29	花器(カゲロウ、草花)	1878-1880年頃	各 H24.0 W14.0 (2点一組)	松江北堀美術館蔵	
30	小物入れ(トンボ)	1880-1884年頃	H11.0 W24.0	松江北堀美術館蔵	
31	四連容器(ザクロ)	1878-1884年頃	H16.0 W18.5 D16.5	松江北堀美術館蔵	
32	植込鉢(エジプト風)	1880-1884年頃	H18.0 W57.0	松江北堀美術館蔵	
33	大杯(貝に跨るカエル、コイ)	1883年頃	H32.2 W45.3 D20.0	松江北堀美術館蔵	
34	花器(セミ)	1884年頃	H27.0 W18.0	松江北堀美術館蔵	
35	インク入れ(パンジー)	制作年不詳	H7.5 W22.0 D16.0	松江北堀美術館蔵	
36	鳥型置物	1877-1889年頃	H24.5 W13.0 D10.0	松江北堀美術館蔵	
37	小鉢(チョウ、草花)	1889年頃	H8.5 W13.0	松江北堀美術館蔵	
38	煙草入れ(トンボ、ブルーベル)	1884年	H11.0 Φ18.0	個人蔵	後期
39	花器(チョウ、草花)	1878-1880年頃	H21.5 W21.0 D16.2	個人蔵	
40	花器(ワスレナグサ)	1878-1880年頃	H11.4 W27.4 D9.5	個人蔵	
41	台付容器(カゲロウ、草花)	1884-1889年頃	H12.5 W8.0 D5.2	個人蔵	
42	花器(トンボ、ススキ)	1900年頃	H24.5 W10.0	個人蔵	
43	飾り棚(エリキウム)	1896-1898年頃	H151.0 W66.0 D47.0	松江北堀美術館蔵	
44	裁縫台(クレマチス)	1900年	H76.0 W70.5 D37.5	松江北堀美術館蔵	
45	小卓(チョウ)	1900-1902年頃	H75.0 W74.5 D40.0	松江北堀美術館蔵	
46	脚付杯(昆虫)	1889年	H10.8 Φ8.3	個人蔵	
参考資料	玉滴石(ハイアライト) Hyalite			個人蔵	
47	花器(オモダカの花、コウホネの花)	1889-1900年頃	H41.5 W13.0	個人蔵	
48	台付花器(スマイレ)	1889年	H11.3 W7.4	ヤマザキマザック美術館蔵	

No	作品名	制作年	寸法	所蔵	展示期間
			高さ(H)×幅(W)×奥行(D) cm		
49	台付花器(バラ)	1890年頃	H18.0 W10.5 (台座(base) H4.5 W9.5)	個人蔵	
50	花器(コイ)	1900年頃	H26.0 W12.0	個人蔵	
51	花器「地質学」	1889年	H16.0 Φ11.8	個人蔵	
52	花器(ジャンヌ・ダルク)	1889年頃	H25.5 W13.5	個人蔵	
53	酒瓶とグラス(ジュニパー)	1900年	酒瓶(Bottle) :H29.0 Φ11.2 グラス(Glass) :H10.2 Φ5.0	個人蔵	
54	蓋付函(アラベスク)	1882年頃	H14.7 W19.0 D11.0	個人蔵	
55	花器(ツクシ、オオバコ)	1889年頃	H19.0 W18.2	個人蔵	前期
56	花器(セミ)	1892-1893年	H14.1 W17.2	個人蔵	後期
57	花器(セミ)	1890年頃	H20.0 W16.5	個人蔵	前期
58	花器(ケマンソウ)	1890年頃	H27.8 W23.0 D18.0	個人蔵	
59	花器(ヤマユガ、カエル)	1895年頃	H35.0 W21.5	個人蔵	
60	花器(ラン、キノコ)	1890-1894年頃	H22.3 W14.0	個人蔵	前期
61	蓋物(ラン)	1890-1894年頃	H11.3 W15.5	個人蔵	後期
62	花器(ネコヤナギ、ハチ)	1890年代	H15.2 Φ13.0	個人蔵	後期
63	花器(ケシ、セミ)	1890年頃	H18.2 Φ13.8	個人蔵	
64	花器(ヴェロニカ)	1900年頃	H16.5 W14.5	個人蔵	前期
65	花器(ヴェロニカ)	1900年頃	H34.5 W12.0	個人蔵	後期
66	花器(サイネリア)	1890-1894年頃	H49.0 W22.8	個人蔵	
67	花器(トンボ、スイレン)	1889-1900年頃	H26.3 W7.5	個人蔵	
68	花器(キク)	1900年頃	H63.2 W18.9	ポーラ美術館蔵	後期
69	花器(キク)	1900年頃	H41.2 W13.6	ポーラ美術館蔵	前期
70	花器(バイカモ)	1900年頃	H9.5 W9.0	個人蔵	
71	鉢(ニチニチソウ)	1900年頃	H8.5 W11.3	個人蔵	
72	花器(セミ)	1889-1904年	H10.5 W8.5	個人蔵	
73	花器(クジャクヤママユ)	1900年頃	H25.2 W14.5	個人蔵	
74	花器(アイリス)	1900年頃	H25.0 W19.5	個人蔵	
75	花器(プリムラ)	1900年頃	H29.5 W17.0	個人蔵	
76	花器(グラジオラス)	1895-1904年	H35.0 W13.5	個人蔵	
77	花器(ラン)	1897年頃	H16.0 W10.5	個人蔵	
78	台付花器(オモダカ)	1890-1900年頃	H25.0 W12.0 (台座(base) H5.8 W10.0)	個人蔵	
79	花器(チューリップ)	1900年頃	H31.5 W15.0	個人蔵	
80	花器(アネモネ)	1890-1900年頃	H24.0 W15.0	個人蔵	
81	花器(カエデ、クモ、クモの巣)	1889-1900年頃	H34.0 W12.0	個人蔵	前期
82	花器(カゲロウ)	1890-1900年頃	H18.3 W7.0	個人蔵	
83	脚付杯(トンボ)	1890-1900年頃	H12.0 W11.5	個人蔵	
84	脚付杯(ハギ)	1895-1900年頃	H13.5 W14.0	個人蔵	
85	花器(ユリの実、スズメ)	1898-1900年頃	H30.0 W10.0	個人蔵	後期
86	花器(プラタナス)	1890年頃	H16.0 W9.5	個人蔵	
87	蓋付瓶(アーモンド)	1900-1904年	H28.0 W12.0	個人蔵	
88	台付花器(ユリ)	1889-1900年頃	H20.0 W15.8	個人蔵	
89	鉢(アジサイ)	1900年	H15.0 W22.5	個人蔵	
90	花器(ルナリア)	1903年	H17.4 W13.8	個人蔵	
91	花器(アネモネ)	1900年頃	H18.0 W13.0	個人蔵	
92	花器(タマネギ)	1900年頃	H17.5 W8.5	個人蔵	
93	花器(アイリス)	1900年頃	H23.1 W10.5	個人蔵	
94	花器(サクラソウ)	1900年	H24.6 W15.4	個人蔵	
95	花器(イヌサフラン)	1898年頃	H42.6 Φ11.3	個人蔵	
96	花器(シクラメン)	1900年頃	H23.3 W11.5	個人蔵	
97	花器(オダマキ)	1898-1900年	H37.3 W10.5	ヤマザキマザック美術館蔵	
98	花器(アザミ)	1900年	H45.0 W34.0	個人蔵	
99	花器(アイリス)	1900年頃	H50.5 W16.0	ヤマザキマザック美術館蔵	後期
100	蓋付瓶(ブドウ)	1900-1902年頃	H20.0 W9.7 D8.7	ポーラ美術館蔵	前期

No	作品名	制作年	寸法		所蔵	展示期間
			高さ(H)	幅(W)×奥行(D) cm		
101	花器(ヤグルマギク)	1898-1900年頃	H21.0	W11.0	個人蔵	
102	花器(チョウ)	1898-1899年	H30.7	W8.0	個人蔵	
103	ペン皿「緑色の善良な小市民」	1900年	H5.2	W24.0 D8.6	ヤマザキマザック美術館蔵	
104	花器(ソテツ)	1900-1904年頃	H15.0	W27.0	個人蔵	
105	脚付杯(バラ)	1901-1904年	H24.5	W13.5	個人蔵	
106	花器(バラ)	1901年頃	H19.0	W9.0	大一美術館蔵	
107	花器(タツノオトシゴ)	1901-1903年頃	H17.5	W14.0	個人蔵	
108	花器(タツノオトシゴ)	1903年頃	H29.2	W10.2	ヤマザキマザック美術館蔵	
109	壺(貝殻)	1901年頃	H12.8	Φ12.5	個人蔵	
110	鉢(海藻、貝殻)	1900-1904年	H9.5	W14.0	個人蔵	
111	脚付杯(トンボ)	1900-1914年	H10.5	W16.5 (台座(base) H3.3 W9.0)	個人蔵	
112	ランプ(ジャンヌ・ダルク)	1903年	H82.0		大一美術館蔵	後期
113	ランプ(ナス)	1900年	H88.0	W20.0 (台座(base) H5.4)	大一美術館蔵	
114	ランプ(リンドウ)	1902-1904年頃	H40.5	Φ16.5 (台座(base) W20.0)	個人蔵	前期
115	ランプ(ツバメ)	1902-1904年頃	H64.5	Φ29.3	個人蔵	
116	ランプ(山岳風景図)	1902-1931年	H67.0	Φ34.0	個人蔵	後期
117	ランプ(オウトウ)	1918-1931年	H47.0	Φ31.0	個人蔵	前期
118	花器(アサガオ)	1900-1904年	H37.8	W15.5	個人蔵	
119	花器(ゾウ)	1924-1931年	H38.0	W31.0	個人蔵	

## 特別展

# 111年目の中原淳一

## Junichi Nakahara: Year 111

会期＝令和6(2024)年6月29日(土)～9月1日(日)

前期:6月29日(土)～8月4日(日)

後期:8月6日(火)～9月1日(日)

※会期中、一部展示替え

会場＝地下1階主陳列室、2階サロンミュージーゼ、特別陳列室

主催＝渋谷区立松濤美術館、朝日新聞社

協力・監修＝ひまわりや

企画協力＝島根県立石見美術館

イラストレーション、雑誌編集、ファッションデザイン、インテリアデザインなどマルチクリエイターと呼ぶべき多彩な活動で知られる中原淳一(1913-1983)。彼は、戦前に雑誌『少女の友』でデビューをし、挿絵や表紙を手がけ人気を博したほか、編集にも関わった。1937年に日中戦争が勃発すると、戦時色が強まる中で同誌を去ることを余儀なくされるが、中原の雑誌制作への情熱は絶えることはなく、終戦の翌年の1946年には自身が編集長を務める『それいゆ』を創刊。その後も『ひまわり』、『ジュニアそれいゆ』、『女の部屋』などの雑誌を手がけた。

中原の生誕111年目を記念し開催された本展では、こうした数々の雑誌に掲載された挿絵や表紙の原画をはじめ、衣服、絵画、人形などを全4章にわたり紹介した。中原が「再び人々が夢と希望を持って、美しい暮らしを志せる本をつくりたい」という想いのもとに生み出したクリエイションの数々、全252件をご覧いただいた。

会期中には中原淳一の長女、中原芙蓉氏の記念講演会「父・中原淳一との思い出」のほか、株式会社ひまわりや代表取締役で本展監修者の中原利加子氏によるアートトーク「中原淳一展開催にあたって」を開催した。



## 出品目録

・本リストは巡回展に出品された作品のうち渋谷区立松濤美術館で展示された作品のみを掲載しています。

No.	作品名	制作年	所蔵	展示期間
1章 新しい少女のために				
1-1	『少女の友』	1935-1940年	個人蔵	
1-2	新春(『少女の友』第28巻第1号表紙原画)	1935年	早稲田大学 會津八一記念博物館	
1-3	祈りの鐘(『少女の友』第33巻第12号口絵原画)	1939年頃	早稲田大学 會津八一記念博物館	
1-4	早春(『少女の友』第33巻第3号表紙原画)	1940年	早稲田大学 會津八一記念博物館	
1-5	セルのころ(『少女の友』第33巻第5号表紙原画)	1940年	早稲田大学 會津八一記念博物館	
1-7	薔薇ひらく(『少女の友』第33巻第6号口絵原画)	1940年	早稲田大学 會津八一記念博物館	後期
1-8	お客さま(『少女の友』第33巻第1号口絵原画)	1940年	早稲田大学 會津八一記念博物館	前期
1-9	花言葉枝折(しおり)(『少女の友』第26巻第10号付録)	1933年	個人蔵	
1-10	春への贈りもの(『少女の友』第27巻3号付録)	1934年	個人蔵	
1-12	スーヴニール—思い出(『少女の友』第30巻第1号付録)	1937年	個人蔵	
1-13	暁の聖歌(『少女の友』第30巻第4号付録)	1937年	個人蔵	
1-14	四つ葉(『少女の友』第31巻第4号付録)	1938年	個人蔵	
1-15	フラワーゲーム(『少女の友』第31巻第1号付録)	1938年	個人蔵	
1-16	女学生譜(『少女の友』第31巻第6号付録)	1938年	個人蔵	
1-17	聖き鈴蘭—少女の友の歌(『少女の友』第32巻第7号)	1939年	個人蔵	
1-18	啄木かるた(『少女の友』第32巻第1号付録)	1939年	個人蔵	
1-20	ランドゲーム(『少女の友』第33巻第1号付録)	1940年	個人蔵	
1-22	女学生服装帖 宝塚にヒントを得たスタイル(『少女の友』第31巻第1号)	1938年	個人蔵	
1-23	女学生服装帖 スマートに見える歩き方と姿勢(『少女の友』第31巻第2号)	1938年	個人蔵	
1-24	女学生服装帖 8つの浴衣のドレス(『少女の友』第31巻第8号)	1938年	個人蔵	
1-25	女学生服装帖 古い生地で作る仕事着(『少女の友』第31巻第9号)	1938年	個人蔵	
1-26	女学生服装帖 お下髪髪工の工夫(『少女の友』第31巻第10号)	1938年	個人蔵	
1-28	夏休みの女学生服装帖 夏に作る8つのスタイル(『少女の友』第32巻第8号)	1939年	個人蔵	
1-29	女学生服装帖 お正月のドレス(『少女の友』第33巻第1号)	1940年	個人蔵	
1-30	女学生服装帖 リボンのいろいろ(『少女の友』第33巻第2号)	1940年	個人蔵	
1-31	スタイルブック(『少女の友』第29巻第10号付録)	1936年	個人蔵	
1-32	ファッションブック(『少女の友』第30巻第8号付録)	1937年	個人蔵	
1-33	夏姿乙女五人(『少女の友』第30巻第7号付録)	1937年	個人蔵	
1-34	スタイルブック(『少女の友』第31巻第8号付録)	1938年	個人蔵	
1-37	扉絵原画(吉屋信子『花物語』)	1939年	個人蔵	
1-38	吉屋信子小説装丁本『花物語』『小さき花々』『伴先生』	『花物語』1939年 『小さき花々』1936年 『伴先生』1940年	個人蔵	
1-39	川端康成『乙女の港』	1946年	個人蔵	
1-40	表紙原画(『乙女の港』)	1946年	個人蔵	
1-41	表紙絵草稿(『乙女の港』)	1946年	個人蔵	
1-45	松田瓊子『紫苑の園』(ひまわり・らいぶらりい)	1947年	個人蔵	
1-46	山川彌千枝『薔薇は生きてる』(ひまわり・らいぶらりい)	1947年	個人蔵	
1-47	北畠八穂『女人百様』(ひまわり・らいぶらりい)	1947年	個人蔵	
1-48	吉屋信子『憧れ知る頃』(初版)(ひまわり・らいぶらりい)	1948年	個人蔵	
1-49	川端康成『女学生』(ひまわり・らいぶらりい)	1948年	個人蔵	
1-50	ルイザ・オルコット 安藤一郎訳『四人姉妹』(ひまわり・らいぶらりい)	1948年	個人蔵	
1-51	松田瓊子『香澄』(ひまわり・らいぶらりい)	1948年	個人蔵	
1-52	川端康成『花日記』(ひまわり・らいぶらりい)	1948年	個人蔵	
1-53	竹内てるよ『静かなる愛』(ひまわり・らいぶらりい)	1949年	個人蔵	
1-54	吉屋信子『憧れ知る頃』(再版)(ひまわり・らいぶらりい)	1949年	個人蔵	
1-55	松田瓊子『七つの蕾』(ひまわり・らいぶらりい)	1949年	個人蔵	
1-56	松田瓊子『サフランの歌』(ひまわり・らいぶらりい)	1949年	個人蔵	

No.	作品名	制作年	所蔵	展示期間
1-57	『七人のお姫さま』	1968年	個人蔵	
1-58	口絵原画(『七人のお姫さま』)	1968年	ギャラリー港屋	
1-59	ひまわりやパンフレット	1938年	個人蔵	
1-61	ヒマワリ商品 私の女学生生活	1941年	個人蔵	
1-62	ヒマワリ商品 花カレンダー	1943年	個人蔵	
1-64	ヒマワリパンフレット	制作年不詳	個人蔵	
1-65	ショップ包装紙	制作年不詳(戦前)	個人蔵	
1-66	ヒマワリ商品 クリスマスカード	制作年不詳(戦前)	個人蔵	
1-67	ヒマワリ商品 クリスマスカード	制作年不詳(戦前)	個人蔵	
1-69	ヒマワリ商品 花言葉はり絵 第二輯	制作年不詳(戦前)	個人蔵	
1-71	ヒマワリ商品 便箋「トランプの占い」	制作年不詳(戦前)	個人蔵	
1-74	ヒマワリ商品 手帳	制作年不詳(戦前)	個人蔵	
1-75	ヒマワリ商品 ノート「思ひ出」	制作年不詳(戦前)	個人蔵	
1-76	ヒマワリ商品 扇子	制作年不詳(戦前)	個人蔵	
1-77	ヒマワリ商品 ヒマワリ アルバム No.1 (本体、原画)	制作年不詳(戦前)	個人蔵	
1-78	ヒマワリ商品 オハナシブローチ	制作年不詳(戦前)	個人蔵	
1-80	皇軍慰問お人形帖(『少女の友』第31巻第9号付録)	1938年	鳥根県立石見美術館	
1-81	キヨト社商品 慰問用うつし絵とシール	1940年代前半	個人蔵	
1-82	キヨト社商品 慰問用淳一うつし絵第二集	1940年代前半	個人蔵	
1-83	ヒマワリ商品 慰問絵はがき	1940年代前半	個人蔵	
1-84	慰問絵はがき(東京株式会社日本創作社出版)	1940年代前半	個人蔵	
1-85	『きものノ絵本』	1940年	個人蔵	
1-86	裏表紙原画(『きものノ絵本』)	1940年	個人蔵	
1-87	扉絵原画(『きものノ絵本』)	1940年	個人蔵	
1-88	スタイル画(『きものノ絵本』原画)	1940年	個人蔵	
1-89	カルピス広告(『きものノ絵本』原画)	1940年	個人蔵	
参考作品	秋の服装帖(『少女の友』第30巻第12号付録)	1937年	個人蔵	
参考作品	ヒマワリ商品 花の日記	1941年	個人蔵	
参考作品	ヒマワリ商品 はなのシール	制作年不詳(戦前)	個人蔵	

## 2章 美しい暮らしのために

	『ソレイユ』創刊号	1946年	個人蔵	
2-1	『それいゆ』	1946-60年	個人蔵	
2-2	表紙原画(『それいゆ』第31号)	1954年	個人蔵	
2-3	表紙原画(『それいゆ』第34号)	1955年	個人蔵	
2-4	表紙原画(『それいゆ』第36号)	1955年	個人蔵	
2-5	表紙原画(『それいゆ』第37号)	1956年	個人蔵	
2-6	表紙原画(『それいゆ』第39号)	1956年	個人蔵	
2-7	表紙原画(『それいゆ』第47号)	1957年	ギャラリー港屋	
2-8	表紙原画(『それいゆ』第55号)	1959年	個人蔵	
2-9	きものをデザインする(『ソレイユ』創刊号原画)	1946年	個人蔵	
2-10	夏のため(『ソレイユ』創刊号原画)	1946年	個人蔵	
2-11	BLOUSES (『ソレイユ』創刊号原画)	1946年	個人蔵	
2-13	それいゆばたん(『ソレイユ』第5号口絵原画)	1947年	個人蔵	
2-14	きものはなし(『ソレイユ』第4号原画)	1947年	個人蔵	
2-18	PARIS (『それいゆ』第18号原画)	1951年	個人蔵	
2-19	パリファッションショー(『それいゆ』第22号原画)	1952年	個人蔵	
2-21	SOLEIL PATTERN (『それいゆ』第25号口絵原画)	1953年	個人蔵	
2-22	筒を着る(『それいゆ』第28号原画)	1953年	個人蔵	
2-24	夏は軽やかなサンダルシューズの足もとで… (『それいゆ』第34号原画)	1955年	個人蔵	
2-26	初秋はスーターとスカートの季節(『それいゆ』第35号原画)	1955年	個人蔵	
2-30	『きものノ絵本』	1953年	個人蔵	
2-31	表紙原画(『きものノ絵本』)	1953年	個人蔵	
2-32	スタイル画(『きものノ絵本』原画)	1953年	個人蔵	

No.	作品名	制作年	所蔵	展示期間
2-33	『590スタイル ブラウス集』	1953年	個人蔵	
2-34	表紙原画(『590スタイル ブラウス集』)	1953年	個人蔵	
2-36	スタイル画(『590スタイル ブラウス集』原画)	1953年	個人蔵	
2-37	ボタンに印象をおく(『590スタイル ブラウス集』原画)	1953年	個人蔵	
2-39	『それいゆ臨時増刊 590スタイル スーツとセパレーツ』	1953年	個人蔵	
2-40	表紙原画(『それいゆ臨時増刊 590スタイル スーツとセパレーツ』原画)	1953年	個人蔵	
2-41	スタイル画(『それいゆ臨時増刊 590スタイル スーツとセパレーツ』)	1953年	個人蔵	
2-42	表紙原画(『それいゆ臨時増刊 冬のスタイルブック』)	1953年	個人蔵	
2-43	布地と毛糸と毛糸の房を組合せる (『それいゆ臨時増刊 スタイルブック1954』原画)	1953年	個人蔵	
2-44	コーデロイの楽しさ(『それいゆ臨時増刊 スタイルブック1954』原画)	1953年	個人蔵	
2-45	表紙原画(『月刊それいゆ 臨時増刊 ワンピース』)	1954年	個人蔵	
2-46	『中原淳一ブラウス集』	1955年	個人蔵	
2-47	表紙原画(『中原淳一ブラウス集』)	1955年	個人蔵	
2-48	扉絵原画(『中原淳一ブラウス集』)	1955年	個人蔵	
2-49	表紙原画(『それいゆ増刊 ブラウス・590スタイル』)	1956年	個人蔵	
2-50	裏表紙原画(『それいゆ増刊 ブラウス・590スタイル』)	1956年	個人蔵	
2-51	つぎはぎの服(『ソレイユ』第4号原画)	1947年	個人蔵	
2-52	アップリケは子供服の童話(『それいゆ』第16号原画)	1951年	個人蔵	
2-53	アップリケの図案(『それいゆ』第16号原画)	1951年	個人蔵	
2-57	正方形から作る二つのエプロン(『それいゆ臨時増刊 あっぶりけ』原画)	1955年	個人蔵	
2-59	木綿の裕(あわせ)のスカート	1955年	個人蔵	
2-60	アップリケのフレアスカート	1955年	個人蔵	
2-61	フェルトのサーキュラスカート	1955年頃	個人蔵	
2-62	フェルトのフレアスカート	1956年	個人蔵	
2-63	サーキュラスカート「つぎはぎのたのしき」	1957年	個人蔵	
2-64	緋のスカート	1957年	個人蔵	
2-67	ゆかた「ひまわり」	1956年	個人蔵	
2-71	ゆかた「リボン」	1958年	個人蔵	
2-73	パッチワークの二部式きもの	1953年	個人蔵	
2-74	果物柄のアップリケのきもの	1954年	個人蔵	
2-76	帯	1955年	個人蔵	
2-80	毛糸を刺しゅうしたきもの	1956年	個人蔵	
2-84	きもの「つぎはぎのたのしき」	1957年	個人蔵	
2-87	きもの「春を待つところ」	1958年	個人蔵	
2-88	ビニールレザーの帯	1958年	個人蔵	
2-92	帯「花の帯」	1959年	個人蔵	
2-93	夏の髪五題(『ソレイユ』第7号原画)	1948年	個人蔵	
2-95	髪をつける(『それいゆ』第34号原画)	1955年	個人蔵	
2-96	新春を彩どる 紐をかざる髪(『それいゆ』第36号原画)	1955年	個人蔵	
2-98	『中原淳一 子供のきもの』	1954年	個人蔵	
2-99	『中原淳一 こども服の絵本』	1962年	個人蔵	
2-100	『可愛い子供服 中原淳一デザイン集』	1962年	個人蔵	
2-101	『お母様の見る子供服の絵本』	1967年	個人蔵	
2-102	ふたりはこんな部屋に住む(『それいゆ』第14号原画)	1950年	個人蔵	
2-103	子供は大人のおさがりばかりで楽しく暮らす(『それいゆ』第16号原画)	1951年	個人蔵	
2-107	部屋の中を楽しく ビール箱(『それいゆ』第35号原画)	1955年	個人蔵	
2-108	男の子は果物 女の子は花 魚のバッグ (『それいゆ臨時増刊 あっぶりけ』原画)	1955年	個人蔵	
2-111	『女の部屋』第1号-第5号	1970-71年	個人蔵	
2-112	表紙原画(『女の部屋』第2号)	1970年	個人蔵	前期
2-115	巷に雨の降るごとく(『女の部屋』第3号原画)	1970年	個人蔵	前期
2-116	秋(『女の部屋』第4号原画)	1970年	個人蔵	後期
2-117	COLOUR and COLOUR 白(『女の部屋』第1号原画)	1970年	個人蔵	前期
2-118	COLOUR and COLOUR 赤(『女の部屋』第1号原画)	1970年	個人蔵	

No.	作品名	制作年	所蔵	展示期間
2-119	COLOUR and COLOUR 茶色(『女の部屋』第1号原画)	1970年	個人蔵	前期
2-120	COLOUR and COLOUR チャコールグレー (『女の部屋』第1号原画)	1970年	個人蔵	後期
2-121	COLOUR and COLOUR 黒(『女の部屋』第1号原画)	1970年	個人蔵	後期
2-122	COLOUR and COLOUR 夏はどこかに白をつかいます (『女の部屋』第2号原画)	1970年	個人蔵	
2-123	COLOUR and COLOUR 夏はどこかに白をつかいます (『女の部屋』第2号原画)	1970年	個人蔵	
2-125	表紙原画(『女の部屋』のために制作)	1970年頃	個人蔵	前期
2-126	表紙原画(『女の部屋』のために制作)	1970年頃	個人蔵	後期
2-127	表紙原画(『女の部屋』のために制作)	1971年	個人蔵	後期
2-128	表紙原画(『女の部屋』第5号)	1971年	ギャラリー港屋	
参考作品	『月刊それいゆ 臨時増刊 ワンピース』	1954年	個人蔵	

### 3章 平和な時代の少女のために

3-1	『ひまわり』	1947-1952年	個人蔵	
3-3	表紙原画(『ひまわり』第2巻第4号)	1948年	個人蔵	
3-11	表紙原画(『ひまわり』臨時増刊第4巻第6号)	1950年	個人蔵	
3-12	表紙原画(『ひまわり』第4巻第7号)	1950年	個人蔵	
3-13	表紙原画(『ひまわり』第4巻第9号)	1950年	個人蔵	
3-14	表紙原画(『ひまわり』第5巻第5号)	1951年	個人蔵	
3-15	表紙原画(『ひまわり』第5巻第6号)	1951年	弥生美術館	
3-16	表紙原画(『ひまわり』第6巻第9号)	1952年	個人蔵	
3-17	表紙原画(『ひまわり』第6巻第10号)	1952年	弥生美術館	
3-18	貴女の部屋にこんな机が欲しいとは思いませんか (『ひまわり』第2巻第8号原画)	1948年	個人蔵	
3-19	押入れの工夫(『ひまわり』第2巻第10号原画)	1948年	個人蔵	
3-20	こたつのある茶の間(『ひまわり』第2巻第11号原画)	1948年	個人蔵	
3-23	手紙はこんなにして整理する(『ひまわり』第3巻第9号原画)	1949年	個人蔵	
3-27	みだしなみせくしょん 少女のみだしなみのエチケット (『ひまわり』第1巻第5号原画)	1947年	個人蔵	
3-28	みだしなみせくしょん COLLARを作りませう(『ひまわり』第1巻第8号原画)	1947年	個人蔵	
3-30	みだしなみせくしょん(『ひまわり』第2巻第7号原画)	1948年	個人蔵	
3-31	みだしなみせくしょん 生まれかわるきもの(『ひまわり』第2巻第5号原画)	1948年	個人蔵	
3-32	みだしなみせくしょん 秋の仕度はこんなに(『ひまわり』第2巻第10号原画)	1948年	個人蔵	
3-33	みだしなみせくしょん お台所で楽しく(『ひまわり』第2巻第2号原画)	1948年	個人蔵	
3-37	みだしなみせくしょん ネッカチーフ・ハンカチーフのつかひ方 (『ひまわり』第4巻第4号原画)	1950年	個人蔵	
3-40	みだしなみせくしょん(『ひまわり』第5巻第7号原画)	1951年	個人蔵	
3-42	みだしなみせくしょん 夏の終りのきもの(『ひまわり』第6巻第9号原画)	1952年	個人蔵	
3-44	パリのお店 夢のような花屋(『ひまわり』第5巻第7号原画)	1951年	個人蔵	
3-46	パリのお店 街角の本屋(『ひまわり』第5巻第7号原画)	1951年	個人蔵	
3-47	屋根裏部屋の少女(『ひまわり』第5巻第9号原画)	1951年	個人蔵	
3-50	バースデイブック(『ひまわり』第1巻第1号付録)	1947年	個人蔵	
3-51	ひまわり すたいるぶっく(『ひまわり』第1巻第6号付録)	1947年	個人蔵	
3-52	ひまわり 少女の夏のスタイルブック(『ひまわり』第3巻第6号付録)	1949年	個人蔵	
3-53	思い出の虹(『ひまわり』第3巻第6号付録)	1949年	個人蔵	
3-54	ひまわり日記(『ひまわり』第4巻第1号付録)	1950年	個人蔵	
3-56	ひまわり 夏休み手帖(『ひまわり』第4巻第8号付録表紙原画)	1950年	個人蔵	
3-57	ひまわり 夏休み手帖(『ひまわり』第4巻第8号付録)	1950年	個人蔵	
3-58	花々のしをり(『ひまわり』第4巻第10号付録原画)	1950年	個人蔵	
3-59	ひまわり 夏のスタイルブック(『ひまわり』第4巻第7号付録)	1950年	個人蔵	
3-60	ひまわり バースデーブック(『ひまわり』第5巻第1号付録原画)	1951年	個人蔵	
3-64	ひまわり社商品 シルエット封筒	制作年不詳	個人蔵	
3-65	ひまわり社商品 ひまわり自由日記	制作年不詳	個人蔵	
3-68	ひまわり社商品 コンパクト	制作年不詳	個人蔵	
3-69	ひまわり社商品 化粧品「レートジュニアクリーム」	1953年	個人蔵	
3-70	ひまわり社商品 コップ	1957年	個人蔵	
3-71	ひまわり社商品 ゆのみ	制作年不詳	個人蔵	

No.	作品名	制作年	所蔵	展示期間
3-72	ひまわり社商品 コースター	1958年	個人蔵	
3-73	ひまわり社商品 紙製ナプキン	1958年	個人蔵	
3-74	ひまわり社商品 紙袋	1957年	個人蔵	
3-75	『それいゆジュニア』、『ジュニアそれいゆ』	1953-60年	個人蔵	
3-76	表紙原画(『ジュニアそれいゆ』第6号)	1955年	個人蔵	
3-77	白い襟は三つ作る(『ジュニアそれいゆ』第4号原画)	1955年	個人蔵	
3-78	夏のために锚のバッグ(『ジュニアそれいゆ』第5号原画)	1955年	個人蔵	
3-79	残り布で作るお揃いのサンダル(『ジュニアそれいゆ』第5号原画)	1955年	個人蔵	
3-80	贈り物には暮しのたのしさ(『ジュニアそれいゆ』第6号原画)	1955年	個人蔵	
3-81	冬のお部屋の工夫をしましょう(『ジュニアそれいゆ』第7号原画)	1956年	個人蔵	
3-82	表紙原画(『ジュニアそれいゆ』第24号)	1958年	個人蔵	
3-83	表紙原画(『ジュニアそれいゆ』第25号)	1959年	個人蔵	
3-84	表紙原画(『ジュニアそれいゆ』第28号)	1959年	個人蔵	
3-85	それいゆじゅにあばたーん(『ジュニアそれいゆ』第4号口絵原画)	1955年	個人蔵	
3-86	ジュニアそれいゆばたーん(『ジュニアそれいゆ』第6号口絵原画)	1955年	個人蔵	
3-87	それいゆジュニアばたーん(『ジュニアそれいゆ』第12号口絵原画)	1956年	個人蔵	
3-88	それいゆジュニアばたーん(『ジュニアそれいゆ』第15号口絵原画)	1957年	個人蔵	
3-89	それいゆジュニアばたーん(『ジュニアそれいゆ』第19号口絵原画)	1958年	個人蔵	
3-90	スタイルをきめる時には(『ジュニアそれいゆ』第22号)	1958年	個人蔵	前期
3-91	春の支度のために(『ジュニアそれいゆ』第25号原画)	1959年	個人蔵	後期
3-92	それいゆジュニアばたーん(『ジュニアそれいゆ』第28号口絵原画)	1959年	個人蔵	
3-93	シンデレラ姫(『ひまわり』第1巻第1号原画)	1947年	個人蔵	
3-95	白鹿姫(『ひまわり』第2巻第11号原画)	1948年	個人蔵	
3-99	若草物語(『ジュニアそれいゆ』第7号原画)	1956年	個人蔵	
参考作品	レターペーパー シンデレラ姫(『ひまわり』第3巻第9号付録)	1949年	個人蔵	
参考作品	イノック・アーデン(『ひまわり』第4巻第5号付録)	1950年	個人蔵	
参考作品	御手紙セット(『ひまわり』第5巻第5号付録)	1951年	個人蔵	

#### 4章 中原淳一の原点と人形制作

4-1	暗き心	1929年	個人蔵	
4-2	画帳断簡	1929年	個人蔵	
4-4	叙情詩画集 第1集	1929年頃	個人蔵	前期
4-5	叙情詩画集 第2集	1929年頃	個人蔵	後期
4-6	中原英子(えいこ)の肖像	1930年頃	個人蔵	
4-7	抒情詩画集 第3集	制作年不詳	個人蔵	前期
4-8	抒情詩画集 第4集	制作年不詳	個人蔵	後期
4-9	人形	1931年	個人蔵	
4-10	人形「花束」	1932年	個人蔵	
4-11	中原淳一個展「第1回フランス・リリック人形展」出品目録	1932年	個人蔵	
4-19	過ぎた日の日記(『ひまわり』第5巻第1号口絵原画)	1951年	個人蔵	
4-24	表紙原画(『それいゆ臨時増刊号 590スタイル 子供のスタイルブック』)	1953年	個人蔵	
4-26	お人形帖(『少女の友』第27巻第9号付録)	1934年	個人蔵	
4-28	お人形帖青い鳥(『少女の友』第28巻第12号付録)	1935年	個人蔵	
4-31	手藝の本(『少女の友』第30巻第3号付録)	1937年	個人蔵	
4-35	ギニョール指人形 赤頭巾(『ひまわり』第2巻第8号付録原画)	1948年	個人蔵	
4-36	ギニョール指人形 赤頭巾(『ひまわり』第2巻第8号付録)	1948年	個人蔵	
4-37	雛祭のために(『ひまわり』第2巻第3号原画)	1948年	個人蔵	
4-39	半日でできるお人形(『愉しく新しく』原画)	1954年	個人蔵	
4-41	人形	1962年	個人蔵	
4-42	人形	1967年	個人蔵	前期
4-43	人形	1969年	個人蔵	後期
4-44	蝶々夫人(絶筆)	1976年	個人蔵	
参考作品	私のお人形(『少女の友』第26巻第2号付録)	1933年	個人蔵	
参考作品	三人のスリ	制作年不詳	個人蔵	

## 特別展

# 空の発見

## Discovering the Sky

会期＝令和6(2024)年9月14日(土)～11月10日(日)

前期:9月14日(土)～10月14日(月・祝)

後期:10月16日(水)～11月10日(日)

※会期中、一部展示替え

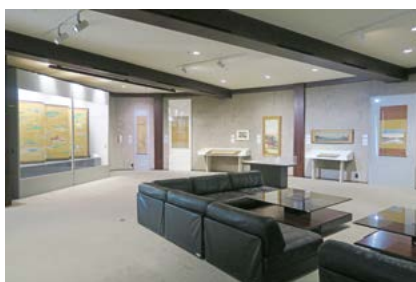
会場＝地下1階主陳列室、2階サロン・ミュージーゼ、特別陳列室

主催＝渋谷区立松濤美術館

私たちが毎日見ているはずの「空」は自明の存在に思われる。ところが今日定型表現となっている「青空と白雲」は日本の美術のなかであまり描かれてこなかった。伝統的な障屏画では、金地や金雲などがその空間を占め、水墨画では単なる余白に近い扱いであることもある。洋風画や浮世絵に「青空」が広がりだすのは、西洋の画法などの影響を受けた近世以降となる。またそもそも、私たちの視点は通常、地上の活動に向けられ、絵画中で「空」が主役となることは稀だった。翻って「空」が大きく描かれるとき、それは震災や戦争などの地上の異変の表象ともなった。現代、かつては従属的であった「空」を中心に据えることで、表現に活路を見出すアーティストたちも出現している。本展は、こうした日本の「空」の表現の変遷を通じて、そこに写し込まれる私たちの認識の揺らぎを浮かび上がらせようとしたものである。空や雲が描かれた江戸から現代までの日本の絵画、比較対象としての西洋絵画、気象写真資料などをふくめ、全国の約30の所蔵先からの出品による97件の作品で構成した。

本展は日本の美術のなかで近世まで空が再現的に描かれなかった現象に着目し、それが変化する過程や要因を、作品に基づいて検証していく問題提起型のテーマ展だった。このため専門家の協力や助言が必須と考え、江戸美術の専門である板橋区立美術館の植松有希氏や近代日本美術が専門の千葉工業大学の河田明久氏に図録への寄稿を依頼した。

また出品作家の阪本トクロー氏やAKI INOMATA氏などの若手作家によるアーティストトーク、担当学芸員による特別講座といった関連イベントも開催した。



## 出品目録

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	材質・技法	所蔵	展示期間
<b>1章 日本美術に空はあったのか？—青空の輸入</b>							
1	松川龍椿		京都名所図屏風	江戸末期(19世紀)	六曲一双 屏風	国立歴史民俗博物館	右隻:前 左隻:後
2	狩野栄信 (伊川院)	1775-1828 (安永4-文政11)年	平家物語図(左幅)	江戸時代	絹本着色、軸装	板橋区立美術館	後期
3	藤田錦江		花鳥図	江戸時代	絹本着色、軸装	板橋区立美術館	
4	狩野探幽 (隠元隆琦賛)	1602-1674 (慶長7-延宝2)年	富士山図	1665(寛文5)年	絹本墨画	板橋区立美術館	
5	春木南溟	1795-1878 (寛政7-明治11)年	富士曼荼羅図	江戸時代後期 (19世紀)	絹本着色、軸装	山梨県立博物館	前期
6	作者不詳		西洋風俗図	桃山-江戸時代 (17世紀)	紙本着色	歸空庵コレクション	
7	若杉五十八	1759-1805 (宝暦9-文化2)年	鷹匠図	江戸時代	油彩・カンヴァス、 額装	東京藝術大学	後期
8	司馬江漢	1747-1818 (延享4-文政元)年	駿河湾富士遠望図	1800(寛政12)年	絹本油彩、額装	個人蔵	後期
9	司馬江漢	1747-1818 (延享4-文政元)年	犬のいる風景図	寛政(1789-1801) 末期	絹本・油彩、額装	千葉市美術館	前期
10	龍山		三保松原富士図	江戸時代 (18-19世紀)	絹本油彩	歸空庵コレクション	
11	司馬口雲坡		泥絵 江戸城堀端図	江戸時代	紙に彩色	国立歴史民俗博物館	前期
12	作者不詳		泥絵 霞が関	江戸時代	紙に彩色	国立歴史民俗博物館	後期
13-1	作者不詳		江戸及び諸国名所泥絵集のうち 相模江之嶋七里ヶ浜	江戸-明治時代	紙に彩色	国立歴史民俗博物館	後期
13-2	作者不詳		江戸及び諸国名所泥絵集のうち 江戸日本橋	江戸-明治時代	紙に彩色	国立歴史民俗博物館	前期
13-3	作者不詳		江戸及び諸国名所泥絵集のうち 江戸桜田御門	江戸-明治時代	紙に彩色	国立歴史民俗博物館	前期
13-4	作者不詳		江戸及び諸国名所泥絵集のうち 江戸本所臥龍梅	江戸-明治時代	紙に彩色	国立歴史民俗博物館	後期
14	葛飾北斎	1760-1849 (宝暦10-嘉永2)年	富嶽三十六景 山下白雨	江戸時代(19世紀)	大判 錦絵	埼玉県立歴史と民俗の博物館	前期
15	葛飾北斎	1760-1849 (宝暦10-嘉永2)年	富嶽三十六景 山下白雨	江戸時代(19世紀)	大判 錦絵	埼玉県立歴史と民俗の博物館	後期
16	北尾政美	1764-1824 (明和元-文政7)年	浮絵東都 日本橋小田原町 魚市之図	天明(1781-1789)	大判 錦絵	神奈川県立歴史博物館	前期
17	歌川広重	1797-1858 (寛政9-安政5)年	東海道五拾三次之内日本 橋	江戸時代(19世紀)	大判 錦絵	埼玉県立歴史と民俗の博物館	前期
18	歌川豊国 (二代)	1802頃-1835頃 (享和2頃-天保6頃)年	名勝八景 富士暮雪 下仙元從宮中宿全図	天保(1830-1844) 初期	大判 錦絵	神奈川県立歴史博物館	前期
19	歌川豊国 (二代)	1802頃-1835頃 (享和2頃-天保6頃)年	名勝八景 玉川秋月 玉川 鮎波の図	天保(1830-1844) 初期	大判 錦絵	神奈川県立歴史博物館	後期
20	歌川国芳	1797-1861 (寛政9-文久元)年	東都富士見三十六景 昌平坂の遠景	江戸時代後期 (19世紀)	大判 錦絵	東京都江戸東京博物館	後期
<b>2章 開いた窓から空を見る—西洋美術における空の表現</b>							
21	ヤン・ボト／ コルネリス・ ファン・ プレンブルフ	1618頃-1652年／ 1595頃-1667年	ニンフのいる風景	1640年代頃	油彩・カンヴァス	国立西洋美術館	
22	ジョン・ コンスタブル	1776-1837年	デダムの谷	1805-1817年頃	油彩・カンヴァス	栃木県立美術館	

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	材質・技法	所蔵	展示期間
23	ジョン・コンスタブル	1776-1837年	『イングランドの風景』より ウェイマス湾	1830年	メゾチント/ ポर्टフォリオ	郡山市立 美術館	
24	ジョン・コンスタブル	1776-1837年	『イングランドの風景』より 荒野(ヒース)	1830-1832年	メゾチント/ ポर्टフォリオ	郡山市立 美術館	
25	ジョン・コンスタブル	1776-1837年	『イングランドの風景』より 夏の朝	1830-1832年	メゾチント/ ポर्टフォリオ	郡山市立 美術館	
26	ジョン・コンスタブル	1776-1837年	『イングランドの風景』より 夏の夕	1830-1832年	メゾチント/ ポर्टフォリオ	郡山市立 美術館	
27	ジョン・コンスタブル	1776-1837年	『イングランドの風景』より 夏の午後	1830-1832年	メゾチント/ ポर्टフォリオ	郡山市立 美術館	
28	ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	1775-1851年	海と空の習作	1825年頃	メゾチント	郡山市立 美術館	
29	ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	1775-1851年	ソルウェー・モス	制作年不詳	エッチング、 メゾチント・紙	郡山市立 美術館	
30	ウジェーヌ・ブーダン	1824-1898年	ノルマンディーの風景	1854-1857年	油彩・板	丸沼芸術の森 (埼玉県立近代 美術館に寄託)	

### 3章 近代日本にはさまざまな空が広がる

31	高橋由一	1828-1894 (文政11-明治27)年	不忍池図	1880(明治13)年頃	油彩・カンヴァス	愛知県美術館	
32	チャールズ・ワーグマン	1832-1891 (天保3-明治24)年	海岸風景	19世紀後半	油彩・カンヴァス	栃木県立 美術館	
33	五姓田義松	1855-1915 (安政2-大正4)年	朝陽の富士	1903-1905 (明治36-38)年頃	油彩・麻布、額装	茨城県 近代美術館	
34-1	亀井竹二郎	1857頃-1879 (安政4頃-明治12)年	〈石版『懐古東海道五十三 驛真景』油彩原画)より 舞阪驛 自渡口望荒井	1877(明治10)年	油彩・紙	郡山市立 美術館	
34-2	亀井竹二郎	1857頃-1879 (安政4頃-明治12)年	〈石版『懐古東海道五十三 驛真景』油彩原画)より 島田驛	1877(明治10)年	油彩・紙	郡山市立 美術館	
34-3	亀井竹二郎	1857頃-1879 (安政4頃-明治12)年	〈石版『懐古東海道五十三 驛真景』油彩原画)より 静岡驛 浅間山不二望	1877(明治10)年	油彩・紙	郡山市立 美術館	
34-4	亀井竹二郎	1857頃-1879 (安政4頃-明治12)年	〈石版『懐古東海道五十三 驛真景』油彩原画)より 蒲原驛 富士川	1877(明治10)年頃	油彩・紙	郡山市立 美術館	
34-5	亀井竹二郎	1857頃-1879 (安政4頃-明治12)年	〈石版『懐古東海道五十三 驛真景』油彩原画)より 大磯驛 海濱晴景	1877(明治10)年頃	油彩・紙	郡山市立 美術館	
34-6	亀井竹二郎	1857頃-1879 (安政4頃-明治12)年	〈石版『懐古東海道五十三 驛真景』油彩原画)より 品川驛 自濱川上流望海面	1877(明治10)年頃	油彩・紙	郡山市立 美術館	
35	浅井忠	1856-1907 (安政3-明治40)年	雲	1903-1907 (明治36-40)年	水彩・紙	静岡県立 美術館	
36	横山大観	1868-1958 (明治元-昭和33)年	峠の夕	1903(明治36)年	絹本・彩色、軸装	茨城県 近代美術館	
37	武内鶴之助	1881-1948 (明治14-昭和23)年	アラシの夕	1912(明治45)年	油彩・カンヴァス	埼玉県立 近代美術館	
38	武内鶴之助	1881-1948 (明治14-昭和23)年	英国風景	1909-1912 (明治42-45)年頃	パステル・紙	静岡県立 美術館	
39	武内鶴之助	1881-1948 (明治14-昭和23)年	雷鳴	制作年不詳	パステル・紙	目黒区美術館	
40	武内鶴之助	1881-1948 (明治14-昭和23)年	ロンドン郊外	1910-1912 (明治43-45)年頃	パステル・紙	目黒区美術館	
41	武内鶴之助	1881-1948 (明治14-昭和23)年	雲	1910-1912 (明治43-45)年頃	パステル・紙	目黒区美術館	
42	武内鶴之助	1881-1948 (明治14-昭和23)年	雲	1910-1912 (明治43-45)年頃	パステル・紙	目黒区美術館	後期
43	武内鶴之助	1881-1948 (明治14-昭和23)年	雲	1910-1912 (明治43-45)年頃	パステル・紙	目黒区美術館	
44	武内鶴之助	1881-1948 (明治14-昭和23)年	雲	1910-1912 (明治43-45)年頃	パステル・紙	目黒区美術館	前期
45	武内鶴之助	1881-1948 (明治14-昭和23)年	風景	1910-1912 (明治43-45)年頃	パステル・紙	目黒区美術館	

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	材質・技法	所蔵	展示期間
46	武内鶴之助	1881-1948 (明治14-昭和23)年	風景	1910-1912 (明治43-45)年頃	パステル・紙	目黒区美術館	
47	武内鶴之助	1881-1948 (明治14-昭和23)年	風景	1910-1912 (明治43-45)年頃	パステル・紙	目黒区美術館	
48	阿部正直	1891-1966 (明治24-昭和41)年	雲の写真7 No.16-No.24 (阿部正直コレクション: 気象観察記録資料)	1929(昭和4)年 12月25日	写真、鉛筆・紙	東京大学 総合研究 博物館	
49	黒田清輝	1866-1924 (慶応2-大正13)年	上汐	1913(大正2)年頃	油彩・板	東京都 現代美術館	
50	黒田清輝	1866-1924 (慶応2-大正13)年	引汐	1913(大正2)年頃	油彩・板	東京都 現代美術館	
51	栗原忠二	1886-1936 (明治19-昭和11)年	洋上の日の出	1924(大正13)年 以降	水彩・紙	静岡県立 美術館	
52	萬鉄五郎	1885-1927 (明治18-昭和2)年	雲のある自画像	1912 (明治45・大正元) 年	油彩・カンヴァス	公益財団法人 大原芸術財団 大原美術館	
53	萬鉄五郎	1885-1927 (明治18-昭和2)年	太陽の麦畑	1913(大正2)年頃	油彩・板	東京国立 近代美術館	
54	岸田劉生	1891-1929 (明治24-昭和4)年	窓外夏景	1921(大正10)年	油彩・麻布、額装	茨城県 近代美術館	
55	岸田劉生	1891-1929 (明治24-昭和4)年	五月の砂道	1918(大正7)年	油彩・カンヴァス	群馬県立 近代美術館	
56	岸田劉生	1891-1929 (明治24-昭和4)年	路傍初夏	1920(大正9)年	油彩・カンヴァス	埼玉県立 近代美術館	
57	柏木俊一	1894-1971 (明治27-昭和46)年	道	大正時代	油彩・カンヴァス	静岡県立 美術館	
58	山田睦三郎	1901-1984 (明治34-昭和59)年	樹間風景	1919(大正8)年	油彩・画布	愛知県美術館	
59	中村岳陵	1890-1969 (明治23-昭和44)年	残照	1961(昭和36)年	絹本着色、額装	静岡県立 美術館	
60	藤田鶴夫	1902-1957 (明治35-昭和32)年	懊悩	1936(昭和11)年	油彩・カンヴァス	板橋区立 美術館	
61	渡辺武	1916-1945 (大正5-昭和20)年	祈り	1938(昭和13)年	油彩・カンヴァス	板橋区立 美術館	
62	米倉壽仁	1905-1994 (明治38-平成6)年	早春	1940(昭和15)年	油彩・カンヴァス	山梨県立 美術館	
63	南薫造	1883-1950 (明治16-昭和25)年	生家の近く	1949(昭和24)年頃	油彩・カンヴァス	渋谷区立 松濤美術館	
64	宮脇晴	1902-1985 (明治35-昭和60)年	月と雲と山	1967(昭和42)年	油彩・カンヴァス	愛知県美術館	
65	曾宮一念	1893-1994 (明治26-平成6)年	毛無連峯	1970(昭和45)年	油彩・カンヴァス	静岡県立 美術館	

#### 4章 宇宙への意識、夜空を見上げる

66	葛飾北斎	1760-1849 (宝暦10-嘉永2)年	『富嶽百景』 浅草鳥越の不二図	1834-36 (天保5-7)年頃	半紙判濃淡墨摺絵本	千葉市美術館	前期
67	歌川国芳	1797-1861 (寛政9-文久元)年	高祖御一代略図 九月十三夜依智星降	1831(天保2)年	大判 錦絵	神奈川県立 歴史博物館	前期
68	歌川広重	1797-1858 (寛政9-安政5)年	東海道五拾三次之内 蒲原 夜之雪	1833(天保4)年頃	大判 錦絵	神奈川県立 歴史博物館	前期
69	歌川広重	1797-1858 (寛政9-安政5)年	木曾海道六拾九次之内 洗馬	1835-1839 (天保6-10)年	大判 錦絵	神奈川県立 歴史博物館	前期
70	歌川広重	1797-1858 (寛政9-安政5)年	金沢八景 瀬戸秋月	天保 (1830-1844)年	大判 錦絵	神奈川県立 歴史博物館	前期
71	歌川広重	1797-1858 (寛政9-安政5)年	近江八景 石山秋月	1857(安政4)年	大判 錦絵	神奈川県立 歴史博物館	後期
72	歌川広重	1797-1858 (寛政9-安政5)年	名所江戸百景 真乳山山谷堀夜景	1857(安政4)年	大判 錦絵	神奈川県立 歴史博物館	後期
73	歌川広重 (二代)	1826-1869 (文政9年-明治2)年	諸国名所百景 東都青山百人町星燈籠	1861(文久元)年	大判 錦絵	神奈川県立 歴史博物館	後期
74	高橋由一	1828-1894 (文政11-明治27)年	中洲月夜の図	1878(明治11)年	油彩・カンヴァス	宇都宮美術館	
75	駒井哲郎	1920-1976 (大正9-昭和51)年	星座	1962(昭和37)年	アクアチント (サンドペーパー使用)、 ディープ・エッチング	東京都 現代美術館	後期
76	駒井哲郎	1920-1976 (大正9-昭和51)年	CONSTELLATION I (星座 I)	1971(昭和46)年	モノタイプ	東京都 現代美術館	前期

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	材質・技法	所蔵	展示期間
77	柄澤齊	1950(昭和25) -	『死と変容』第2集 洪水より「洪水A」	1989-1990 (平成元-平成2)年	木口木版・紙	栃木県立 美術館	
78	柄澤齊	1950(昭和25) -	『死と変容』第2集 洪水より「洪水B」	1989-1990 (平成元-平成2)年	木口木版・紙	栃木県立 美術館	前期
79	柄澤齊	1950(昭和25) -	『死と変容』第2集 洪水より「洪水C」	1989-1990 (平成元-平成2)年	木口木版・紙	栃木県立 美術館	後期
80	瑛九	1911-1960 (明治44-昭和35)年	宇宙	1959(昭和34)年	油彩・カンヴァス	埼玉県立 近代美術館	

## 5章 カタストロフィーと空の発見

81	鹿子木孟郎	1874-1941 (明治7-昭和16)年	大正12年9月1日	制作年不詳	油彩・カンヴァス	東京都 現代美術館	
82	池田遙邨	1895-1988 (明治28-昭和63)年	災禍の跡	1924(大正13)年	絹本着色、六曲一隻 屏風	倉敷市立 美術館	
83	北山善夫	1948(昭和23)年 -	宇宙図 この世界の全死者 に捧ぐ	1995(平成7)年	インク・鳥の子紙	モルガン・ スタンレー・ ジャパン コレクション	
84	中村研一	1895-1967 (明治28-昭和42)年	北九州上空野辺軍曹機の 体当たり B29二機を撃墜す	1945(昭和20)年	油彩・カンヴァス	東京国立 近代美術館 (アメリカ合衆 国より無期限 貸与)	
85-1	織田信大	1888-1964 (明治21-昭和39)年	東京戦災スケッチ28 エビス麦酒会社裏坂上伊 達町	1945(昭和20)年 6月22日	水彩・紙	東京都 江戸東京 博物館	後期
85-2	織田信大	1888-1964 (明治21-昭和39)年	東京戦災スケッチ43 杉並区馬橋にて	1945(昭和20)年 7月5日	水彩・紙	東京都 江戸東京 博物館	後期
85-3	織田信大	1888-1964 (明治21-昭和39)年	東京戦災スケッチ49 渋谷区景丘町にて横手氏 濠舎ヨリ	1945(昭和20)年 7月8日	水彩・紙	東京都 江戸東京 博物館	前期
85-4	織田信大	1888-1964 (明治21-昭和39)年	東京戦災スケッチ51 青山高樹町都電停留場前	1945(昭和20)年 7月9日	水彩・紙	東京都 江戸東京 博物館	前期
86	濱谷浩	1915-1999 (大正4-平成11)年	敗戦の日の太陽	1945(昭和20)年	ゼラチン・シルバー・ プリント	東京都 写真美術館	
87	佐田勝	1914-1993 (大正3-平成5)年	廃墟	1945(昭和20)年	油彩・カンヴァス	板橋区立 美術館	
88	香月泰男	1911-1974 (明治44-昭和49)年	青の太陽	1969(昭和44)年	油彩、方解末、 木炭・カンヴァス	山口県立 美術館	

## 6章 私たちはこの空間に何を見るのか？

89	野村仁	1945-2023 (昭和20-令和5)年	a spin in curved air	1981(昭和56)年	タイプCプリント	栃木県立 美術館	
90	野村仁	1945-2023 (昭和20-令和5)年	a spin in curved air	1982(昭和57)年	タイプCプリント	栃木県立 美術館	
91	ホンマタカシ	1962(昭和37)年 -	「TOKYO SUBURBIA 東京郊外」 幕張ベイタウン、千葉県	1995-1998 (平成7-10)年	発色現像方式印画	東京都 現代美術館	
92	米田知子	1965(昭和40)年 -	道-サイパン島在留邦人 玉砕があった崖に続く道	2003(平成15)年	発色現像方式印画	東京都 写真美術館	
93	Chim ↑ Pom		BLACK OF DEATH	2007-2008 (平成19-20)年	インスタレーション: 映像(9分13秒)、写真	東京都 現代美術館	
94	小林正人	1957(昭和32)年 -	絵画=空	1985-1986 (昭和60-61)年	油彩・カンヴァス	東京国立 近代美術館	
95	小林孝亘	1960(昭和35) -	Cloud	1998(平成10)年	油彩・カンヴァス	群馬県立 近代美術館 寄託	
96	阪本トクロウ	1975(昭和50)年 -	ディスカバー	2005(平成17)年	アクリル・綿布	山梨県立 美術館	
97	AKI INOMATA		あの日の空を覚えている 1926年4月20日、 1929年12月25日、 1932年12月12日	2024(令和6)年	デジタルタイプCプ リント、 ステレオスコープ、 4Kビデオ	作家蔵 撮影:若林隼人 助成:公益財団 法人 小 笠原敏晶 記念財団	

## 特別展

# 須田悦弘

## SUDA YOSHIHIRO

会期＝令和6(2024)年11月30日(土)～令和7(2025)年2月2日(日)

会場＝地下1階主陳列室、2階サロンミュゼ、特別陳列室

主催＝渋谷区立松濤美術館

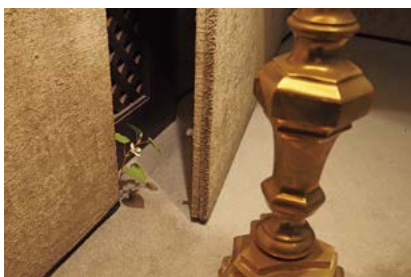
協力＝ギャラリー小柳

須田悦弘(1969-)が生み出す作品は、本物と見紛うほどに精巧な、道端で見かけるような草花や雑草の木彫である。多摩美術大学グラフィックデザイン科で学んだ須田は大学時代から独学で木彫の技術を磨き、朴の木で様々な植物の彫刻を制作してきた。須田によって生み出される植物は全て実物大で、それらを思いがけない場所に、自然に生えたかのように設置することで空間と作品が一体となり、独自の世界をつくりあげている。

本展は、東京都内の美術館では25年ぶりとなる須田の個展であった。須田の初期作品やドローイング、近年取り組んでいる古美術品の欠損部分を木彫で補う補作の作品のほか、初公開である商品パッケージのためのイラスト原画等、約50点を展覧した。そのうち13点は本展のための新作であった。さらに、会期中にもバラの花びらを少しずつ増やし、公開制作で出来上がった雑草を新たに設置するなど、さりげない変化のある展示となった。

当館の建築は、「哲学の建築家」とも評される白井晟一(1905-1983)によるもので、他にはない空間が来館者を迎える。本展では展示室外にも作品を設置し、白井建築を舞台にした当館ならではの展覧会であった。

会期中は公開制作やアーティストトーク、学芸員によるギャラリートークを開催。公開制作は、当館周辺の雑草をモデルに制作し、展示室内に設置するまでをご覧いただいた。本展を記念するグッズとして、須田が撮影した会場写真入りの図録のほか、ポストカードとマスキングテープ2種を作成した。



## 出品目録

No.	作品名	作家名	制作年	材質・技法	所蔵
1	雑草		2024年	木に彩色	
2	クロユリ		2024年	木に彩色	
3	雑草(金)		2007年	金	
4	枝		2024年	木に彩色	
5	スルメ		1988年	木に彩色	
6	チューリップ		1989年頃	木に彩色	
7	象		1988 - 1992年頃	木に彩色	
8	朴の木		1992年	ミクストメディア	
9	東京インスタレーション		1994年	ミクストメディア	山梨県立美術館寄託
10	東京インスタレーション制作時の資料		1994年	紙、写真	
11	バラ		2024年	木に彩色	
12	チューリップ		2024年	木に彩色	
13	ヒナゲシ		2024年	木に彩色	
14	ミケリテ		2018年	木に彩色	
15	雑草		1995、2024年	木に彩色	
16	雑草		2002年	木に彩色	
17	雑草		2024年	木に彩色	
18	雑草(プラチナ)		2007年	プラチナ	
19	サザンカ		2024年	木に彩色	
20	ガーベラ		1997年	木に彩色	東京都現代美術館 賛美小舎 上田國昭氏・ 上田克子氏寄贈
21	ガーベラ		1998年以降(記された年は描かれた彫刻作品の制作年)	水彩、鉛筆・紙	横浜美術館 賛美小舎 上田國昭氏・ 上田克子氏寄贈
22	ベルリン		1997年	木に彩色	練馬区立美術館 賛美小舎 上田國昭氏・ 上田克子氏寄贈
23	ベルリン		1998年以降(記された年は描かれた彫刻作品の制作年)	水彩、鉛筆・紙	横浜美術館 賛美小舎 上田國昭氏・ 上田克子氏寄贈
24	雑草		1994年	木に彩色	練馬区立美術館 賛美小舎 上田國昭氏・ 上田克子氏寄贈
25	雑草		1995年以降(記された年は描かれた彫刻作品の制作年か)	水彩、鉛筆・紙	横浜美術館 賛美小舎 上田國昭氏・ 上田克子氏寄贈
26	朝顔		2024年	木に彩色	
27	木蓮		2024年	木に彩色	
28	スズメウリ		2024年	木に彩色	
29	木蓮		1991年	紙、顔料・パネル	
30	紫木蓮		1992年	顔料・パネル	
31	木蓮		1993年頃	木に彩色	
32	コブシ		1994年頃	木に彩色	
33	ドクダミ		2024年	木に彩色	
34	沙羅双樹		1997年	木に彩色	
35	沙羅双樹		2002年頃	木に彩色	
36	雑草		2020年	木に彩色	
37	春日若宮神鹿像 五鬘文殊菩薩掛仏	須田悦弘補作: 角・櫛・鞍・瑞雲	春日若宮神鹿像: 鎌倉時代(13～14世紀) 五鬘文殊菩薩掛仏:鎌倉時代 角・櫛・鞍:平成時代 瑞雲:令和時代	春日若宮神鹿像:木彫 五鬘文殊菩薩掛仏:板 絵著色 角・櫛・鞍・瑞雲:木 に彩色	公益財団法人 小田原文化財団
38	隨身坐像	須田悦弘補作: 手・弓	平安時代 手・弓:平成時代	木彫 手・弓:木に彩色	個人蔵
39	狛犬	須田悦弘補作:左頬	平安時代 左頬:平成時代	木彫 左頬:木に彩色	個人蔵

No.	作品名	作家名	制作年	材質・技法	所蔵
40	優填王像	須田悦弘補作:台座	平安時代 台座:平成時代	銅製鑄造 台座:木に彩色	個人蔵、金峯山伝来
41	ぶどう		1990年代	アクリル・紙	株式会社 日本デザインセンター 寄託
42～45	アサヒ飲料 「アサヒ 十六茶」原画		2010-2019年	アクリル・紙	株式会社 日本デザインセンター 寄託
46	アサヒビール 「ニッカ弘前 生シールド」 原画		2023年	アクリル・紙	株式会社 日本デザインセンター 寄託
47	アサヒビール 「ニッカ弘前 生シールド 玉林」 原画		2024年	アクリル・紙	株式会社 日本デザインセンター 寄託
48	ニッカウキスキー 「竹鶴ビュアマルト」 複製原画		1990年代	複製	
49	ニッカウキスキー 「シングルモルト余市」 複製原画		1990年代	複製	
50	ニッカウキスキー 「シングルモルト宮城峡」 複製原画		1990年代	複製	
会期中追加	雑草		2024年	木に彩色	
会期中追加	雑草		2024年	木に彩色	
会期中追加	雑草		2025年	木に彩色	

作家名の記載がないものは須田悦弘作、所蔵の記載がないものは作家蔵

## 2025松濤美術館公募展

# 2025 Shoto Museum of Art Exhibition of Works by the General Public

会期＝令和7(2025)年2月23日(日・祝)～3月16日(日)

会場＝地下1階主陳列室

主催＝渋谷区立松濤美術館

松濤美術館公募展は、今回で42回目となった。本展は、渋谷区に在住、在勤および在学の方々の創作活動の活性化を目的として、1981年の美術館開館の翌年から始められた。これまで、平面作品を募集の対象とし、油彩や水彩、日本画や版画等、様々な素材・技法による作品の応募を受け付けてきた。

昨年からの募集を開始した写真やデジタルアートの枠をさらに拡張し、今年度からは電源を使用した映像作品、グラフィックデザイン、イラストレーションも対象に加え、応募要項にも明記した。15歳から84歳までの幅広い年齢層の方々から107点の力作が応募され、厳正な審査の結果、78点が入選し、さらにその中から14点の受賞作品を決定した。受賞者も10代から80代まで各年代にわたっている。

また、前年度まで表彰式内で実施していた審査員講評を、今年度は「講評会」として独立させ、表彰式と同日に開催した。これにより、審査員と制作者が直接意見を交わす場が整い、より密度の高い講評の時間を確保できた。

### 審査状況

応募作品総数 107点

入選作品総数 78点

### 審査委員

村岡 貴美男氏(日本画家・審査委員長)

鈴木 のぞみ氏(美術家)

沢山 遼氏 (美術評論家)

### 【松濤美術館賞】

金子 智子 《一期一会 -京都の夏-》

### 【優秀賞】

檜原 太郎 《Utopian Dystopia 理想郷的退廃社会》

榎並 瑛子 《森の中へ》

### 【学生優秀賞】

殿岡 祐天 《太陽と壁》

### 【奨励賞】

井元 菜々子《解凍翹》

森下 利典 《diaspora 2024 II》

本多 優貴 《鼓翼》

阿山 燿子 《Over the Rainbow》

成清 一生 《生命の樹》

寺尾 風次 《魅了され枠を付けて覗く》

今井 政男 《夢幻》

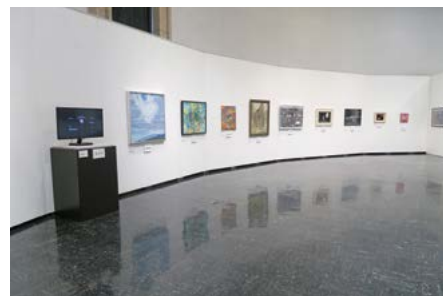
drivxthru 《Anatomy of Violence》

江口 真理子《オマージュ 祖母の鼓 祖父の謠本》

矢野 涼平 《進化》



松濤美術館賞  
金子智子 《一期一会 -京都の夏-》



## サロン展

# 温故知新 古典技法で名画の魅力をまなぶ

## —青山学院中等部のとりくみ—

### 特別陳列：小企画 渋谷区立松濤美術館所蔵作品展示 「人と動物のカタチ」

令和7(2025)年2月23日(日・祝)～3月16日(日)

会場＝2階サロンミュージゼ、特別陳列室

主催＝渋谷区立松濤美術館

西洋絵画の表現は、現代、一般によく知られている油彩画を含め、テンペラ、フレスコ、あるいは額制作にいたるまで、歴史的に様々に発達してきた高度な「絵画技法」によって支えられてきた。青山学院中等部では、これら古典技法を研究する筒井祥之先生の指導のもと、生徒らが名画に倣いながら古典技法でみずからも制作をし、実践を通して絵画をよりよく理解しようとする授業が行われている。今回のサロン展ではこうした現代の渋谷の学校で行われている、「故きを温ね、新しきを知る」ユニークな美術教育の取り組みの様子や、古典技法で生みだされた生徒たちの作品を紹介した。

また特別陳列室では、小企画「人と動物のカタチ」と題し、美術館所蔵品のなかから、近年ご寄贈を受けた森芳雄のドローイング作品をはじめ、村田勝四郎の彫刻、海老原喜之助の絵画など、渋谷ゆかりの作家たちが生きとし生けるものの姿の描写を重ね、その生命を造形上にとどめようとした作品を紹介した。



## 出品目録

### 温故知新 古典技法で名画の魅力をまなぶ ―青山学院中等部のとりくみ―

No.	制作者名	所属	タイトル	制作年	材質、技法	所蔵
1	筒井 祥之		シモーネ・マルティニー 《受胎告知》 1333年(模写)	1992年	絵画:板、石膏、金箔水押し、 パンチング、卵黄テンペラ、 ミッショーネ 額縁:木、石膏、パスティー リア、パンチング、古色仕 上げ	個人蔵
2	筒井 祥之		ミケランジェロ・ブオナローティ システーナ礼拝堂天井画 《デルフォイの巫女》 1508-1512年(模写)	2022年	絵画:合板、石灰、川砂 額縁:木、ステイン、ワックス	個人蔵
3	筒井 祥之		18世紀 ボローニャ額縁(模刻)	2014年	板、彫刻、石膏、ポーロ、金 箔水押し	個人蔵
4	筒井 祥之		16世紀 マーケッタリー額縁(模刻)	2012年	板、突板、油、アクリル	個人蔵
5	筒井 祥之		15世紀 フランボワイアン・ゴシック 額縁(模刻)	2016年	板、木、彫刻、石膏、ポーロ、 金箔水押し、古色仕上げ	個人蔵
6	石井 晴子		額縁工程見本	2022年	額縁:木、石膏、ポーロ、パ スティーリア、金箔水押し、グ ラフフィート、	個人蔵
7	筒井 祥之		孤島の修道院2018	2018年	額縁:木、ステイン、ワックス	個人蔵
8	筒井 祥之		孤島の修道院2019	2019年	絵画:板、綿布、白亜、油彩 額縁:木、石膏、デトランプ	個人蔵
9	筒井 祥之		中空の修道院2021	2021年	絵画:板、綿布、白亜、油彩 額縁:木、石膏、デトランプ	個人蔵
10	佐藤 莉子	青山学院中等部 制作時:3年生	ヨハネス・フェルメール 《地理学者》 1668年 (模写)	2024-25年	テンペラ・ミスタ	個人蔵
11	長瀬 遥香	青山学院中等部 制作時:3年生	メアリー・カサット 《青い肘掛け椅子の少女》 1878年 (模写)	2024-25年	テンペラ・ミスタ	個人蔵
12	西岡 鼓太郎	青山学院中等部 制作時:3年生	ピエール＝オーギュスト・ルノワール 《読書するクロード・モネ》 1872年 (模写)	2024-25年	テンペラ・ミスタ	個人蔵
13	西野 寧珠	青山学院中等部 制作時:3年生	ジャン・オノレ・フラゴナール 《読書する娘》 1769年 (模写)	2024-25年	テンペラ・ミスタ	個人蔵
14	守屋 アオサ	青山学院中等部 制作時:3年生	ベルト・モリゾ 《舞踏会にて》 1875年 (模写)	2024-25年	テンペラ・ミスタ	個人蔵
15	湯本 泰雅	青山学院中等部 制作時:3年生	ヨハネス・フェルメール 《真珠の耳飾りの少女》 1665年 (模写)	2024-25年	テンペラ・ミスタ	個人蔵
16	梶原 爽	青山学院中等部 制作時:3年生	ジョン・シンガー・サージェント 《エドワード・D・ボイドの娘たち》 1882年 (模写)	2024-25年	テンペラ・ミスタ	個人蔵
17	榎本 悠花	青山学院中等部 制作時:3年生	ジョン・シンガー・サージェント 《カーネーション・リリー・リ リー・ローズ》 1885年 (模写)	2024-25年	テンペラ・ミスタ	個人蔵
18	相場 由奈	青山学院中等部 制作時:3年生	ピエール＝オーギュスト・ルノワール 《ルグラン嬢の肖像》 1875年 (模写)	2024-25年	テンペラ・ミスタ	個人蔵
19	白川 礼	青山学院中等部 制作時:3年生	アンリ・ジュリアン・フェリック ス・ルソー 《ティーポットと果物のある静物》 1910年 (模写)	2024-25年	テンペラ・ミスタ	個人蔵
20	山田 梨紗子	青山学院中等部 制作時:3年生	ジョシュア・ハーグレイヴ・サム ズ・マン 《初めてのイヤリング》 制作年不詳 (模写)	2024-25年	テンペラ・ミスタ	個人蔵
21	吉田 侍人	青山学院中等部 制作時:3年生	カルロ・クリヴェリ 《聖ペテロ》 1476年 (模写)	2024-25年	テンペラ・ミスタ	個人蔵
22	吉田 紗弥花	青山学院中等部 制作時:3年生	ルイーゼ・コックス 《5月の花》 1911年 (模写)	2024-25年	テンペラ・ミスタ	個人蔵

No.	制作者名	所属	タイトル	制作年	材質、技法	所蔵
23	渡邊 光	青山学院中等部 制作時:3年生	シャルル・シャブラン 《シャボン玉》 1865年頃 (模写)	2024-25年	テンペラ・ミスタ	個人蔵
24	松山 千紘	青山学院中等部 制作時:3年生	アクセリ・ガッレン＝カッレラ 《ケイテレ湖》 1906年(模写)	2023-24年	テンペラ・ミスタ	個人蔵
25	山内 紗彩	青山学院中等部 制作時:3年生	ルネ・マグリット 《大家族》 1963年(模写)	2023-24年	テンペラ・ミスタ	個人蔵
26	市川 陽彩	青山学院中等部 制作時:3年生	トマス・ゲインズバラ 《犬と水差しを持つ田舎娘》 1785年(模写)	2022-23年	テンペラ・ミスタ	個人蔵
27	山形 英莉沙	青山学院中等部 制作時:3年生	ジョン・シンガー・サージェント 《エドワード・ダリー・ボイドの娘 たち(部分)》 1882年(模写)	2022-23年	テンペラ・ミスタ	個人蔵
28	宇田川 りな	青山学院中等部 制作時:3年生	ジャン・オノレ・フラゴナール 《ブランコ》 1766年(模写)	2022-23年	テンペラ・ミスタ	個人蔵
29	佐々木 梨歩	青山学院中等部 制作時:3年生	カスパー・ダーヴィト・フリードリヒ 《雲海の上の旅人》 1819年(模写)	2022-23年	テンペラ・ミスタ	個人蔵
30	筒井 祥之		「モザイク画工程見本」	2023年	板、石灰、ガラスモザイク	個人蔵
31	筒井 祥之		「フレスコ画工程見本」	2022年	板、ボンド、川砂、石灰	個人蔵
32	井上 雅未花		「黄金背景テンペラ画工程見本」	2022年	板、麻布、石膏、ポーロ、金箔、卵黄テンペラ	個人蔵
33	筒井 祥之		「フランドル派工程見本」	2022年	板、麻布、白亜、卵黄テンペラ、油彩	個人蔵
34	筒井 祥之		「ヴェネツィア派工程見本」	2023年	板、麻布、白亜、卵黄テンペラ、油彩	個人蔵
35	筒井 祥之		技法工程見本作品 ヤン・ファン・エイク 《アルノルフィーニ夫妻の肖像》 (1434年) (模写)	2024年		個人蔵
36	筒井 祥之		技法工程見本作品 フラ・アンジェリコ 「楽奏の天使」《リナイオーリの壁祭壇(部分)》より (1432-1435年) (模写)	2024年		個人蔵

特別陳列:小企画 渋谷区立松濤美術館所蔵作品展示「人と動物のカタチ」

No.	作家名	作品名	制作年	材質、技法	所蔵
37	森 芳雄	無題(スケッチ) 4点	制作年不詳	木炭、紙	渋谷区立松濤美術館 門田正子氏寄贈
38	森 芳雄	無題	制作年不詳	木炭、紙	渋谷区立松濤美術館 門田正子氏寄贈
39	森 芳雄	無題	制作年不詳	鉛筆、紙	渋谷区立松濤美術館 門田正子氏寄贈
40	森 芳雄	無題	制作年不詳	鉛筆、紙	渋谷区立松濤美術館 門田正子氏寄贈
41	森 芳雄	スケッチブック 2冊	制作年不詳	鉛筆、紙	渋谷区立松濤美術館 門田正子氏寄贈
42	村田 勝四郎	鶴	1936年	ブロンズ	渋谷区立松濤美術館 古関登代子氏寄贈
43	村田 勝四郎	カワウ	1936年 (原型制作)	ブロンズ	渋谷区立松濤美術館 作者寄贈
44	村田 勝四郎	牛	1958年	ブロンズ	渋谷区立松濤美術館 作者寄贈
45	村田 勝四郎	雉と少年	1973年	ブロンズ	渋谷区立松濤美術館 作者寄贈
46	村田 勝四郎	サギと少女	1965年	ブロンズ	渋谷区立松濤美術館 作者寄贈
47	海老原 喜之助	無題(スケッチ) 5点	1950-51年頃	デッサン、ペン、インク、紙	渋谷区立松濤美術館 海老原義氏寄贈
48	海老原 喜之助	群馬	1960年代	リトグラフ、紙	渋谷区立松濤美術館 海老原義氏寄贈

No.	作家名	作品名	制作年	材質、技法	所蔵
49	海老原 喜之助	牛小屋	1940年代中頃	油彩、カンヴァス	渋谷区立松濤美術館 海老原義氏寄贈
50	海老原 喜之助	農家	1940年代中頃	油彩、カンヴァス	渋谷区立松濤美術館 海老原義氏寄贈
51	海老原 喜之助	幾何学人物	1960年代	リトグラフ、紙	渋谷区立松濤美術館 海老原義氏寄贈
52	南 薫造	海辺の馬	制作年不詳	油彩、カンヴァス	渋谷区立松濤美術館 南建氏寄贈
53	南 薫造	吊るされた雉	制作年不詳	油彩、カンヴァス	渋谷区立松濤美術館 南建氏寄贈

### Ⅲ 展覧会カタログ・関連書籍 等

令和6（2024）年度（記載の肩書きは開催当時のもの）



#### 『没後120年 エミール・ガレ展』

発行：株式会社アートプランニングレイ

発行日：2024年4月6日

サイズ：20.0×21.0cm

総ページ数：155ページ（うちカラー 120ページ）

#### 論考及びコラム

「エミール・ガレ、象徴的芸術への道程」（鈴木潔 美術史家）

「日本のガレ好き」と時代背景」（野城今日子 渋谷区立松濤美術館学芸員）

#### 技法・用語解説

エミール・ガレ(1846-1904)年譜

作品リスト・作品解説



#### 『111年目の中原淳一』

発行：株式会社青幻舎

発行日：2024年1月16日（初版）、2024年4月23日（第2刷）

サイズ：21.6×18.5cm

総ページ数：272ページ（うちカラー 253ページ、章解説対英訳）

#### インタビュー

「美の思想家、中原淳一」（宇山あゆみ 昭和雑貨コレクター／人形作家）

「中原淳一が手掛けた雑誌は、美への祈りだった。」（マツオヒロミ イラストレーター）

「自分がいなくなった後に、誰かが愛してくれるから。」（松浦浩之 現代アート作家）

「1000年後の未来を描き出すために。」（松井龍哉 ロボットデザイナー／美術家）

#### エッセイ

「新しい時代のフィロソフィー」（増田セバスチャン アーティスト）

「渋谷と中原淳一」（西美弥子 渋谷区立松濤美術館学芸員）

「中原淳一「美しい暮らし」が目指すもの」（南目美輝 鳥根県立石見美術館学芸課長）

#### 年譜

作品リスト



### 『空の発見』

発行: 渋谷区立松濤美術館

発行日: 2024年9月14日

サイズ: B5版 (25.7×18.2cm)

総ページ数: 167ページ (うちカラー 134ページ)

#### 論考

「江戸の青空」(植松有希 板橋区立美術館学芸員)

「江戸の「残照」- 高橋由一の風景画」(河田明久 千葉工業大学教授)

「空と空のあいだ」(平泉千枝 渋谷区立松濤美術館学芸員)

#### コラム

「司馬江漢と泥絵の青空」、「北斎と空への好奇心」、「雲の発見と英国風景画」、「近代日本と雲の発見 - 雲の伯爵阿部正直」(平泉千枝)

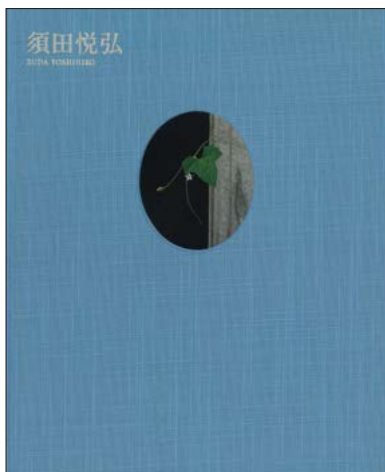
「震災と空」、「戦争と空」(木原天彦 渋谷区立松濤美術館学芸員)

作家・作品解説

主要参考文献

作品リスト (対英訳)

Chapter Introductions



### 『須田悦弘』

発行: 渋谷区立松濤美術館

発行日: 2024年12月25日

サイズ: 21.0×17.5cm

総ページ数: 112ページ (うちカラー 66ページ、会場写真掲載)

#### 論考

「螺旋の時間 - 須田悦弘における虚ろの美」(森啓輔 千葉市美術館学芸員)

「『須田悦弘』展開催にあたって」(大平奈緒子 渋谷区立松濤美術館学芸員)

須田悦弘 インタビュー

須田悦弘 略年譜

「須田悦弘」展 主要参考文献 + 須田悦弘文献 (2021年以降)

作品リスト (対英訳)

館内マップ

論考ならびにインタビュー英訳



「2025 松濤美術館公募展」

発行:渋谷区立松濤美術館

発行日:2025年2月23日

サイズ:B5版(25.7×18.2cm)

総ページ数:32ページ(うちカラー 27ページ)

「2025松濤美術館公募展審査の感想」(審査委員長 村岡貴美男)

「松濤美術館公募展の審査を終えて」(審査委員 鈴木のぞみ)

「審査を終えて」(審査委員 沢山遼)

2025松濤美術館公募展 作品目録

2025松濤美術館公募展 応募・入選状況

## IV 館蔵品貸出状況

作家名	作品名 ( )内は「渋谷区立松濤美術館所蔵品目録Ⅱ」の番号	展覧会名	貸出先	会期	貸出期間
安井仲治	以下の通り、全29点	生誕120年 安井仲治 僕の大切な写真	愛知県美術館	2023年 10月6日～ 11月27日	
			兵庫県立美術館	2023年 12月16日～ 2024年 2月12日	2023年 9月23日～ 2024年 4月19日
			東京ステーション ギャラリー	2024年 2月23日～ 4月14日	

- 1 《或る船員の像》(写575)
- 2 《静物》(写576)
- 3 《雨もよひ》(写578)
- 4 《(童女スケッチ)》(写579)
- 5 《(農夫喫煙)》(写580)
- 6 《路傍閑語》(写581)
- 7 《(童女スケッチ)》(写582)
- 8 《子供》(写583)
- 9 《馬場町》(写584)
- 10 《平野町》(写586)
- 11 《(警官)》(写589)
- 12 《工事場》(写590)
- 13 《検束》(写592)
- 14 《メーデーの写真》(写594)
- 15 《海辺》(写600)
- 16 《ばせを》(写601)
- 17 《海濱》(写609)
- 18 《微風》(写614)
- 19 《「どん底」》(写615)
- 20 《アクター》(写616)
- 21 《男》(写617)
- 22 《球のある構図》(写620)
- 23 《魚》(写621)
- 24 《蝶》(写622)
- 25 《モニュメント》(写623)
- 26 《白衣勇士》(写632)
- 27 《地上》(写634)
- 28 《風景》(写635)
- 29 《強い葉と枯れる草》(写636)

## V 教育普及

### 1 講演会

専門家や関係者を招き、各特別展の展覧内容に関連した講演会を開催。

#### 令和6(2024)年度実績

期日	テーマ	講師(経歴は当時のもの)	参加者
4月27日(土) 午後2時～	エミール・ガレのガラス工芸／奇想と黙示の象徴芸術	鈴木潔(本展監修者、美術史家)	35人
7月20日(土) 午後2時～	父・中原淳一との思い出	中原芙蓉(中原淳一長女)	54人
1月11日(土) 午後2時～	アーティストトーク	須田悦弘	73人

### 2 美術教室

区内在住、在勤、在学者を対象に絵画の実技指導を行う。

#### 令和6(2024)年度実績

教室	講師	期間・回数	曜日・時間	参加者(応募者)
油絵・アクリル画教室	原良介	8月10日、11日・2回	土、日曜日・ 午前10時30分～午後4時30分	12人(18)
デッサン教室	手嶋遥	8月24日、25日・2回	土、日曜日・ 午前10時30分～午後4時30分	12人(23)
子ども美術教室	宇山あゆみ	8月2日、3日・2回	金、土曜日・ 午後2時～4時	金:13人(28) 土:10人(10)
木版画教室	内山良子 (助手:磯上尚江)	10月10日～11月7日・5回	木曜日・ 午前11時～午後1時	10人(10)
水彩画教室	武政朋子	10月11日～11月8日・5回	金曜日・午後2時～4時	12人(26)

### 3 コンサート

#### 令和6(2024)年度実績

実施日	コンサート名	出演者	演奏曲	参加人数
5月19日(日) 午後2時～	春のピアノコンサート エミール・ガレ展によせて	高橋絵里子 (ピアノ奏者)	ガレと同時代の楽曲や、 ガレにちなんだ植物を題材にした楽曲などを演奏。	59人

### 4 ギャラリートーク

#### 令和6(2024)年度実績

実施日	展覧会名	参加者
4月12日(金)	没後120年 エミール・ガレ展 奇想のガラス作家	48人
4月20日(土)	〃	42人
5月5日(日・祝)	〃	74人
7月13日(土)	111年目の中原淳一	34人
7月28日(日)	〃	35人
8月23日(金)	〃	39人
9月20日(金)	空の発見	31人
10月5日(土)	〃	20人
10月20日(日)	〃	32人
12月14日(土)	須田悦弘	31人
12月27日(金)	〃	41人
1月19日(日)	〃	85人
2月23日(日・祝)	サロン展 温故知新 古典技法で名画の魅力をまなぶ —青山学院中等部のとりくみ— 特別陳列:小企画 渋谷区立松濤美術館所蔵作品展示 「人と動物のカタチ」	16人
3月16日(日)	〃	12人

## 5 展覧会関連イベント

### 令和6(2024)年度実績

実施日	イベント名	出演者	参加者
①5月11日(土) 午前10時30分～	特別ワークショップ キラキラ☆宝石石けんをつくろう	Junko (石けん作家)	①8人
②5月11日(土) 午後2時～			②8人
5月26日(日) 午後2時～	昼さがりのアートレクチャー エミール・ガレ展開催について	野城今日子(本展担当学芸員)	57人
6月1日(土) 午後2時～	ガレ風 プラ板リングをつくろう!	当館学芸員	100人
8月18日(日) 午後2時～	アートトーク 中原淳一展開催にあたって	中原利加子(株式会社ひまわりや代表取締役／本展監修者)	55人
9月28日(土) 午後3時～	アーティスト・トーク1 無有に遊ぶ	阪本トクロウ(画家、本展出品作家)	53人
10月12日(土) 午後3時～	アーティスト・トーク2 空をのむ	AKI INOMATA (現代美術家、本展出品作家)	32人
10月26日(土) 午後3時～	特別講座 空の発見 見えているけど、見えていないものはどのように描かれてきたか	平泉千枝(本展担当学芸員)	45人
12月15日(日) 午前10時30分～	公開制作	須田悦弘	425人

## 6 建築ツアー

白井晟一設計の当館内を建築に関する説明を聞きながら見学します。

### 令和6(2024)年度実績

実施日	時間は3月1日を除き各日午後6時～。3月1日は午後2時～	参加者
	4月12日(金)	25人
	4月19日(金)	19人
	4月26日(金)	25人
	5月3日(金・祝)	75人(2グループ合計)
	5月10日(金)	23人
	5月17日(金)	25人
	5月24日(金)	38人
	5月31日(金)	60人(2グループ合計)
	6月7日(金)	65人(2グループ合計)
	7月5日(金)	22人
	7月12日(金)	26人
	7月19日(金)	22人
	7月26日(金)	20人
	8月2日(金)	25人
	8月9日(金)	20人
	8月16日(金)	台風7号接近のため開催中止
	8月23日(金)	28人
	8月30日(金)	25人
	9月20日(金)	26人
	9月27日(金)	11人
	10月4日(金)	25人
	10月11日(金)	30人
	10月18日(金)	18人
	10月25日(金)	24人
	11月1日(金)	23人
	11月8日(金)	37人
	12月6日(金)	36人
	12月13日(金)	31人
	12月20日(金)	26人
	12月27日(金)	31人
	1月10日(金)	39人
	1月17日(金)	51人
	1月24日(金)	55人
	1月31日(金)	98人
	3月1日(土)	87人(2グループ合計)

※1月17日(金)、24日(金)、31日(金)は参加者多数のため、B2ホールでの着座式スライドトークに切り替えた。

## VI 入館状況

### 令和6(2024)年度実績

展覧会名	期間	入館者数	1日平均入館者数
没後120年 エミール・ガレ展 奇想のガラス作家	4/ 6(土)～ 6/ 9(日) 56日間	30,422人	543人
111年目の中原淳一	6/29(土)～ 9/ 1(日) 56日間	14,958人	267人
空の発見	9/14(土)～11/10(日) 50日間	14,601人	292人
須田悦弘	11/30(土)～2025/ 2/ 2(日) 51日間	30,250人	593人
2025 松濤美術館公募展			
サロン展 温故知新 古典技法で名画の魅力をまなぶ －青山学院中等部のとりくみ－/ 特別陳列:小企画 渋谷区立松濤美術館所蔵作品展示 「人と動物のカタチ」	2025/2/23(日・祝)～3/16(日) 19日間	2,353人	124人

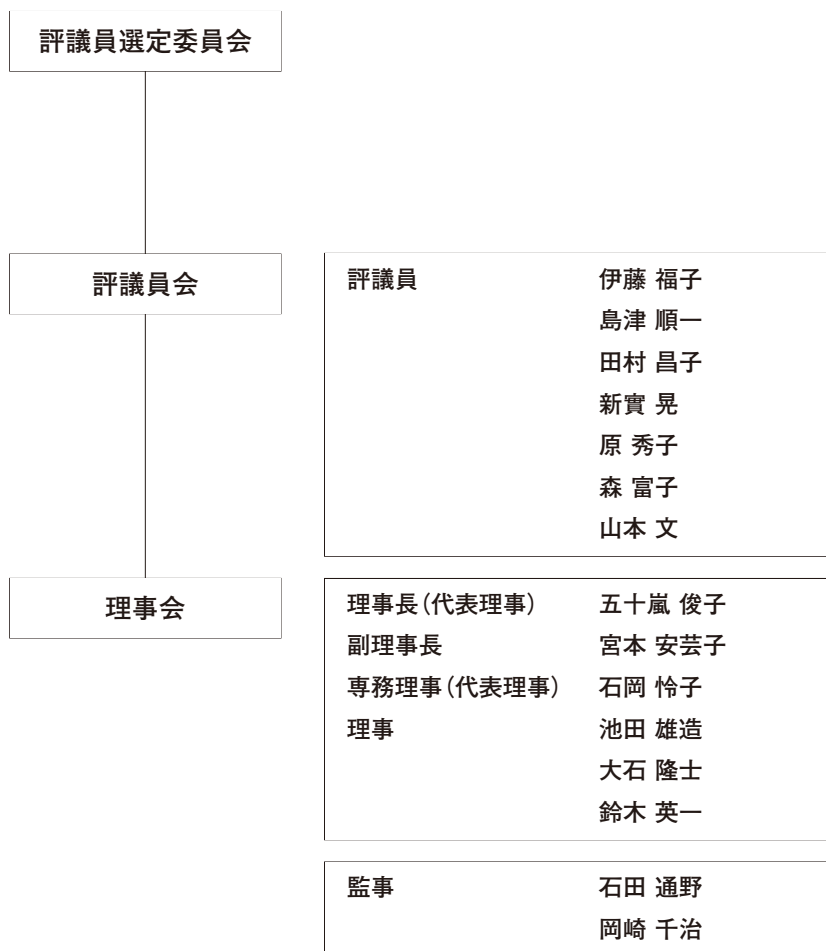
## 令和6(2024)年度実績

4月5日(金)	特別展「没後120年 エミール・ガレ展 奇想のガラス作家」特別披露
4月6日(土)	特別展「没後120年 エミール・ガレ展 奇想のガラス作家」始まる
4月27日(土)	記念講演会:「エミール・ガレのガラス工芸／奇想と黙示の象徴芸術」 講師:鈴木潔(本展監修者、美術史家)
5月14日(火)	理事会
5月30日(木)	評議員会
5月31日(金)	理事会
6月9日(日)	特別展「没後120年 エミール・ガレ展 奇想のガラス作家」終了
6月28日(金)	特別展「111年目の中原淳一」展特別披露
6月29日(土)	特別展「111年目の中原淳一」展始まる
7月20日(土)	記念講演会:「父・中原淳一との思い出」 講師:中原芙蓉(中原淳一長女)
9月1日(日)	特別展「111年目の中原淳一」展終了
9月13日(金)	特別展「空の発見」展特別披露
9月14日(土)	特別展「空の発見」展始まる
11月10日(日)	特別展「空の発見」展終了
11月29日(金)	特別展「須田悦弘」展特別披露
11月30日(土)	特別展「須田悦弘」展始まる
1月11日(土)	アーティストトーク 講師:須田悦弘
2月2日(日)	特別展「須田悦弘」展終了
2月13日(木)	理事会
2月22日(土)	「2025 松濤美術館公募展」授賞式
2月23日(日・祝)	「2025 松濤美術館公募展」始まる サロン展「温故知新 古典技法で名画の魅力をまなぶー青山学院中等部のとりくみー」始まる 特別陳列:小企画「渋谷区立松濤美術館所蔵作品展示「人と動物のカタチ」」始まる
2月28日(金)	評議員会
3月16日(日)	「2025 松濤美術館公募展」終了 サロン展「温故知新 古典技法で名画の魅力をまなぶー青山学院中等部のとりくみー」終了 特別陳列:小企画「渋谷区立松濤美術館所蔵作品展示「人と動物のカタチ」」終了

## VIII 組織

### 公益財団法人渋谷区文化・芸術振興財団

当館は、渋谷区の委託を受けて、公益財団法人渋谷区文化・芸術振興財団が運営している。企画展等に関わる諸事業は、機敏でしかも柔軟な経理活動が伴わなければ効果的に推進することが難しいため、行政の公会計制度から独立した財団の財務会計によって計画的な事業を推進することで区民文化の振興を目指している。財団は区の出資により設立され、独自の組織と所要経費をもち、開館時間、休館日、入館料等の美術館の基本的利用条件の決定を除き、施設の維持管理、展覧事業及び文化活動の全般にわたって委託されている。



※令和7年3月31日現在

## IX 利用案内

### 開館時間

#### 〔特別展〕

午前10時～午後6時

\* 金曜日は午後8時まで開館

\* 最終入館は閉館30分前まで

#### 〔公募展・サロン展〕

午前9時～午後5時

\* 最終入館は閉館30分前まで

### 休館日

毎週月曜日（祝日は除く）

国民の祝日の翌日（土・日曜日は除く）

年末年始（12月29日～1月3日）

展示替期間

### 入館料

展覧会毎に異なります。

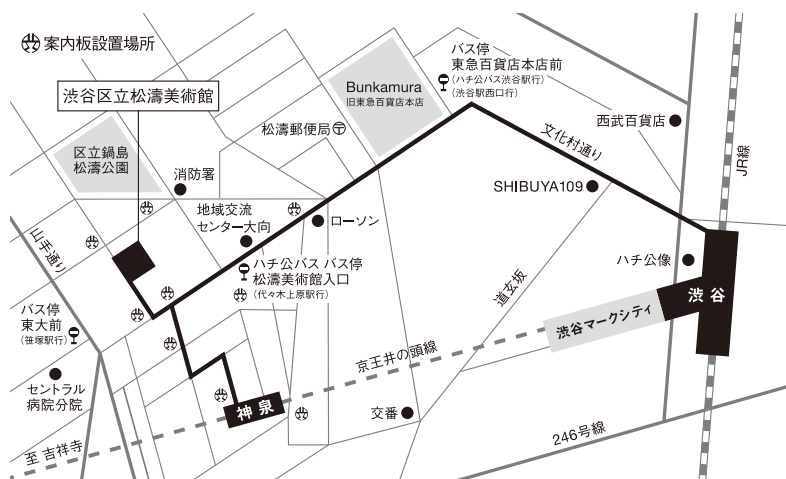
\* 団体（10名以上）のお客様が同時に入館される場合及び渋谷区民の入館料は、2割引となります。

\* 障がい者とその付添の方各1名は無料です。入館の際に障がい者手帳等をご提示ください。

\* 金曜日に入館される渋谷区民の方は無料です。入館の際に住所のわかるものをご提示ください。

\* 土・日曜日、休日、夏休み期間中、小中学生は無料です。

### 案内図



### 主要交通機関

京王井の頭線

ハチ公バス

JR山手線・東京メトロ・東急電鉄

\* 駐車場はありません。

神泉駅下車 徒歩5分

渋谷駅より「丘を越えてルート（上原・富ヶ谷ルート）」にて

「松濤美術館入口」下車 徒歩5分

渋谷駅ハチ公口下車 徒歩15分

# 渋谷区立松濤美術館 紀要 第3号

BULLETIN of The Shoto Museum of Art No.3

「塊人社」研究① 荒居徳亮

野城今日子（渋谷区立松濤美術館 学芸員）…………… 042

資料紹介

渋谷区立松濤美術館 野島康三関連美術作品及び資料一覧

大平奈緒子（渋谷区立松濤美術館 学芸員）…………… 057

## 「塊人社」研究①

あらいとくすけ  
荒居徳亮

野城今日子(渋谷区立松濤美術館 学芸員)

### はじめに — 「塊人社」の概要と研究課題について

当館では、2025(令和7)年6月21日から8月17日まで「黙然たる反骨 安藤照<sup>てる</sup> — 没後・戦後80年 忠犬ハチ公像をつくった彫刻家—」展を開催した。本展は、1934(昭和9)年に制作された《忠犬ハチ公像》(現存せず)の作者として知られる彫刻家の安藤照(1892-1945)に注目し、彼の活動と作品を紹介するとともに、彼が1929(昭和4)年に結成した団体「塊人社」にも触れ、その彫刻家と作品の一部を取りあげた。

この「塊人社」は、東京美術学校彫刻科の同窓生を中心とした彫刻家による団体である。展覧会では、同人の作品を多数出品し、主要な作家を紹介したほか、展覧会図録では、迫内祐司氏が「塊人社研究寄与」にて同人や社友の推移をまとめあげた<sup>註1</sup>。とはいえ、同団体の実態や、詳細については不明瞭な部分が数多くある。特に、同人の個々の活動については明らかになっていないことが多く、更なる調査と考察を重ねる必要がある。

そこで、この「塊人社研究」では、同人の活動や作品を紹介しながら、彼らにとって「塊人社」がどのような存在であったのかを検証していきたい。今回は、安藤の東京美術学校の1学年後輩にあたる彫刻家の荒居徳亮(1899-1985)【挿図1】について取りあげる。



【挿図1】 荒居徳亮肖像写真  
(千葉県教育庁文化課「県展史  
の人びと」千葉県教育庁文化課  
1972(昭和47)年より)

### 1 先行研究と本稿の目的について

荒居徳亮については、戦後に移り住んだ千葉県で顕彰がされている。例えば、『千葉県美術名鑑』では、同じく千葉県を拠点として活動を展開した彫刻家の藤野天光(瞬正、1903-1974)とともに「近代房総彫刻界の開拓者」として紹介された<sup>註2</sup>。また、住居兼アトリエがあった千葉県船橋市において美術連盟の発足に関わるなど、地域の文化美術振興に寄与したことが明らかとなっている<sup>註3</sup>。その一方で、「塊人社」での活動をはじめとする戦前期の動向について語る資料は乏しい傾向にあるとみられる。そして、作品や来歴をまとめた作品集などが刊行されていないことから、その活動を概観する機会がこれまで少なかったといえる。

そこで本稿では、基礎研究として、荒居の経歴と展覧会出品作品についてまとめることを目的とする。さいごに、作家の制作活動の中で「塊人社」の存在がどのように影響していたのかという点について簡単に触れたい。

## 2 経歴

### (1) 活気ある仲間たちの中で

#### ① 誕生から青山学院中等部卒業まで

荒居徳亮は1899(明治32)年6月5日に栃木県で父庄三郎、母ハナの三男として生まれた。荒居家は代々、栃木県で呉服店を営んでいたが、庄三郎の代で東京へ進出し、日本橋に錦織物や絹織物を販売する「荒庄商店」を開業した。庄三郎は、全国に販路を拡大して店の規模を大きくした敏腕の実業家であった<sup>註4</sup>。また、二番目の兄は、小室翠雲(1874-1945)に師事した南画家、荒居翠湖(本名:隆亮 1888-1945)である。裕福な家庭であったが、父の庄三郎は、子どもたちが金銭的な豊かさに甘んじることがないように、教養や品格が身につくような教育を施そうとしたという<sup>註5</sup>。こうした父の教育方針もあり、徳亮は青山学院(現・青山学院大学)中等部に入学したとみられる<sup>註6</sup>。当時の同校は、洋画家の東郷青児(1897-1978)や版画家の川上澄生(1895-1972)のほか、舞台美術家で美術監督の伊藤嘉朔(1899-1967)らが同窓生であった<sup>註7</sup>。こうした学友からの影響があったのか荒居は当時より美術に関心を寄せていたようで、絵画倶楽部「クロバ会」に所属している<sup>註8</sup>。同会は、1909(明治42)年から翌年頃にかけて中等部の生徒中心によって結成された倶楽部であった。代々木や源氏山(現在の神宮前周辺)にお

けるスケッチ会や、年に数回の部員による展覧会の開催のほか、会報誌の刊行もしていたという<sup>註9</sup>。また、同会は1913(大正2)年に北海道から東北地方の冷害による凶作で起きた大飢饉に際して、絵葉書展覧会を開催し、その売上を現地に寄付するなど、「所謂道楽的ではない」一面を持つ倶楽部であった<sup>註10</sup>。このような芸術や社会への関心が高い部員たちに囲まれながら、荒居は美術への造詣を深めていった。

## ② 東京美術学校彫刻科研究科卒業まで

青山学院卒業後は、親友の伊藤嘉朔に誘われ、1918(大正7)年より東京美術学校彫刻科塑造部に入学する<sup>註11</sup>。一学年上の先輩には、のちに「塊人社」を結成する安藤照、泉谷喜一郎(1897-1945)、小笠原貞弘(1893-1967)、児島矩一(1896-1934)、田中林蔵(1898-没年不詳)、堀江尚志(1897-1935)、松田尚之(1898-1995)がいた。翌年には、小室達(1899-1953)や三澤寛(1901-1993)が、さらにその翌1920(大正9)年には村田勝四郎(1901-1989)、藤澤古實(1897-1967)が同科に入学する。荒居は特に一学年下の三澤と親しかったようで、戦後も連絡を取り合っていたほか、互いの顔をモデルに彫刻をつくりあったという<sup>註12</sup>。

同世代に熱心な仲間たちがいた一方、入学してから彼らを指導していた彫刻科の教授陣は、教授の高村光雲(1852-1934)、白井雨山(1864-1928)、沼田一雅(1873-1954)、水谷鉄也(1876-1943)、助教授の畑正吉(1882-1966)らであった<sup>註13</sup>。のちに松田尚之が「結局クラスの連中と話し合うのが何よりの勉強さね」<sup>註14</sup>と回想しているように、教授たちから教わるよりも、学生同士で意見を交わしながら学ぶ時間が多かったようである。「塊人社」を結成した際、同人たちは月に一度の定例会で互いの作品を批評しあうことがあったが<sup>註15</sup>、こうした習慣は学生時代から積みあげたものだったとみられる。

このように当初は、学生同士で切磋琢磨しながら制作に挑んでいたが、本科2年生に進級した1920年頃から教授陣が増え、学内の雰囲気を変化していった。まず、同年に白井雨山が退任し、彫刻界の中で存在感を現していた建島大夢(1880-1942)が着任する。そして、翌春には帝国美術院第三部(彫刻)の二大巨頭で、ライバル関係にあった北村西望(1884-1987)と朝倉文夫(1883-1964)が同校の教授として着任した<sup>註16</sup>。また、同年1921(大正10)年に教室制(現在でいうゼミナール制)が導入され、荒居は北村教室で学ぶこととなる<sup>註17</sup>。

この頃、北村と朝倉文夫の官展の支配力をかけた抗争が激化していた。1921年に北村は、朝倉一派率いる「東台彫塑会」と対立し、彫刻家団体「曠原社」を結成している。同社は、技巧を重要視していた「東台彫塑会」に対して「人格主義芸術」を謳い、知識や技巧に囚われない自由な表現を目指した団体であった<sup>註18</sup>。反朝倉派を目指して「人格主義芸術」を打ち出し、感情に訴えかける表現を歓迎した北村の思想は、大正デモクラシーに代表される自由主義の流れを彫刻界にもたらした。

こうした自由主義的な思想を持つ北村より指導を受けた荒居の卒業制作《胸像》【挿図2】は、おおらかで、のびのびとした作風が特徴である。細部に迫る写実性で技巧をみせるわけではなく、穏やかな肉付けによってモデルの内面性を切り取ろうとしていることが確認できる。こうした作風からは、最初の師である北村の反技巧的な方向性が垣間みえるといえよう。



【挿図2】 荒居徳亮《胸像》1922年  
東京藝術大学蔵(画像提供：東京藝術大学大学美術館)

## (2) 中央での活動 —1923年から1945年まで

### ① 「ユーモア」の彫刻 —官展と「塊人社」での活動と評価

荒居は1923(大正12)年より東京美術学校彫刻科塑造部研究科に進学し(1925年に卒業)、在学中から官展に出品をはじめた。ここでは、展覧会出品作をまとめた【表1】をもとに、作家が日本橋区(現・中央区)中州町17号地<sup>註19</sup>や日本橋区浜町2丁目19番地(1933年頃に転居か)<sup>註20</sup>を拠点としていた頃の活動と作品をまとめた。

まず荒居は、1924(大正13)年に開催された帝国美術院第五回美術展覧会(以後、帝展と称す)に《黎明》(表1: no. 1)を発表し、初入選を遂げた。これを皮切りに第七回展(1926)、第八回展(1927)、第十～十三回展(1929-1932)、第十五回展(1934)で入選している。この中で、第八回展出品作《ア・プレリュード》(表1: no. 4)や第十回

出品作《構想》〈表1: no. 7〉といった初期の作品は、安藤の《踊りの構図》【挿図3】のようなモダン・ガールによるダンスの一場面を切り取ったポージングが特徴である<sup>註21</sup>。同様の作風の中では、第十二回展出品作《清朗》〈表1: no. 17〉が好評を博した。同作について、彫刻家の加藤顕清(1894-1966)は「一種のユーモアをもった態度が面白いと思ふ」<sup>註22</sup>と評価している。

帝展と並行して、1927(昭和2)年には朝倉塾彫塑習作展覧会へ、翌年には朝倉塾第2回彫塑展覧会に出品した。「朝倉塾」とは、朝倉文夫が主宰した私設の彫塑塾である<sup>註23</sup>。同塾では、学習の成果を発表するための展覧会を開催しており、塾の門下生や朝倉派の彫刻家たちが出品している。前述のとおり荒居は、東京美術学校在学中は北村に師事していたが、卒業後は、安藤たちを追って朝倉の門下生となったようである。

しかし、1928(昭和3)年、朝倉は帝国美術院第九回美術展において自身と門下生による作品の不出品を断行する。この不出品事件は、同展審査員が朝倉門下からは安藤のみが選出となり、ライバルである北村派からは多数の彫刻家が選出されたことに起因する。そのことに朝倉が異を唱え、展覧会への不出品を決めた。これに対し、安藤をはじめとする同志たちは夜通し朝倉を説得するが、ついに不出品は決行となる。

この一件をきっかけに、安藤たちは朝倉派を脱退することとなるが、荒居もそのひとりであった。そして、翌年にこの脱退したメンバーで結成した団体が「塊人社」である<sup>註24</sup>。同社は、代々木初台(現・代々木5丁目)にあった安藤や泉谷のアトリエを拠点とし、官展出品のための研究活動に励んだ。また、1931(昭和6)年からは塊人社彫塑展覧会(以後、塊人社展と称す)を開催している。彼らは団体名にもある「塊」(質量、重量感)を意識した彫刻を制作し、存在感を示していった。荒居も同展で毎年作品を発表し、たびたび美術雑誌で評価された。残念ながら、それらの作品の詳細は不明であるが、翌年の第二回展の出品作品群については「荒居徳亮氏の諸作には、その持ち味であるところの一種のユーモアが発散してゐる」<sup>註25</sup>と語られた。この評からは、先述の《清朗》から続いて「ユーモア」を感じさせる作風であったことがうかがえる。また、1933(昭和8)年の第三回展出品作《洋装の女》〈表1: no. 23〉は、襟が誇張されたジャケットを身につける女性を表しており、「これは桃色の女で、動き易い、身の軽い、銀幕のスターを連想する。ア・ラ・モードの帽子を被れる砂糖漬の顔と、洋服の質の説明らしい両腕のあらいタッチとは、全体のアクセントを散佚して渾然と来ない。併し自由でこだわりの無いところを採る」<sup>註26</sup>と評価された。ここで評されたような、軽やかで自由な雰囲気作風は、「塊」を重要視した作風を目指した「塊人社」の中では、異色の作品であったようにみえる。



【挿図3】 安藤照《踊りの構図》1925(大正14)年 帝国美術院第六回美術展覧会出品作 現存せず(『日展史』7巻 日展 1982(昭和57)年 より)

## ② 「ユーモア」から「安藤イズム」へ 一戦渦の表現

東京美術学校卒業から1930年代前半の荒居の作品は、「ユーモア」や軽やかさが特徴であったと確認できる。しかし、1935(昭和10)年の帝展改組(松田改組)後に開催された1937(昭和12)年の第一回文部省美術展覧会(以後、新文展と称す)以降は、作風に変化がみられる。例えば、第一回展出品作《影》〈表1: no. 33〉は、これまでの大きな身振りが影を潜め、膝立ちで両腕を頭に添えた控えめなポージングが特徴的だ。翌年の第二回展出品作《女》〈表1: no. 36〉においても、地に尻、両足、両手をつけた形の座像であり、大胆な動きがみられない。また、造形性についても細かな起伏の少ない、おおらかさが見受けられる。この《影》と《女》は、ともに新文展において連続で特選となり、高く評価された。ここで興味深いのは、《影》は「安藤イズムによつて若き女性感が見える」<sup>註27</sup>と評されており、この年の審査員であった安藤からの影響が指摘されていることである。そして、《女》についても、1932(昭和7)年に安藤の第二回塊人社展出品作《座像習作》【挿図4】に通じる形を呈しており、この時期に荒居の作風が安藤の作品に近づいていることがわかる。以降、1939(昭和14)年の第三回新文展出品作《芳紀》〈表1:



【挿図4】 安藤照《座像習作》1932(昭和7)年 第二回塊人社彫塑展出品作 現存せず(『美術新論』7巻5号 1932年 より)

no. 37)、翌年の紀元二千六百年奉祝美術展覧会出品作《二千六百年の作》〈表1：no. 39)、1941(昭和16)年の第四回展出品作《鳩と女》〈表1：no. 41)、1943(昭和18)年の第六回展出品作《女性像》〈表1：no. 46)は、いずれも「安藤イズム」を踏襲し、「塊」を意識した作品を制作している。

また、代表作のひとつ《女性マスク》(制作年不詳、千葉県立美術館蔵)【挿図5】もこの時期に制作された作品である。のちに荒居は、この作品について「自然描写がしたいと思い、克明に写実しました」<sup>註28</sup>と語っている。ここで登場する「自然」(ものごとのあるがままの姿)というワードは、安藤が彫刻で求めた重要な概念であった<sup>註29</sup>。「自然描写」を研究、追求する姿勢が「塊人社」で根付いていたことが理解できる。

このように作風が変化していく1937年は、いうまでもなく日中戦争が勃発した年にあたる。この年から1945(昭和20)年の第二次世界大戦終結までの期間に発表された作品の多くが「安藤イズム」に寄った作品であった。この戦時下という環境と作風の因果関係について、作家は語っていない。しかし、どんなに戦争の影が忍び寄り、社会の状況が変化しても彫刻表現を探究することに努め、牧歌的でのんびりとした作風を貫き通した安藤の姿勢や作品に影響を受けていることは確かだろう。

上記のような作風の変化を遂げ、評価された矢先の1945年3月10日、東京大空襲でアトリエが焼失する。荒居は1933年頃より、日本橋区浜町の明治座の裏手に住居とアトリエ「墨堤 河畔草舎」を構えていたようだが、このアトリエが爆撃され、戦前期に制作した作品のほとんどを失う。作家本人は、アトリエの目の前にあった、浜町駅へ続く地下鉄の入口に避難したことで無事だったようだ。小室達の日記には「荒居さんは全焼したが家族は無事だったのはせめてもの不幸中の幸いで、目下本村町令■宅に身を寄せてみると」(1945年3月12日)とあるため、市谷本村町(現・新宿区)に避難したようだが、安藤や泉谷が住んでいた渋谷区の初台にも身を寄せたという<sup>註30</sup>。また、「塊人社」は荒居のために見舞金を集金しており、生活の援助をしていたとみられる<sup>註31</sup>。その後の数か月間は、「塊人社」で立ち上げた戦闘機の部品の型を製作する「軍需造形」に従事したが<sup>註32</sup>、この初台の居住先も同年5月25日の空襲(山の手空襲)によって焼かれた<sup>註33</sup>。さらに、この山の手空襲によって、慕っていた安藤が命を落とす。

荒居は、新文展で連続で特選となり、これから邁進しようとしていた矢先、二度の空襲被災をきっかけに東京を離れることとなる。そして、戦後、荒居家が別荘を所有していた千葉県船橋市へ転居した。

### (3) 安住の地への転居と「ユーモア」への回帰 —1945年から1985年まで

#### ① 船橋への転居 —官展から地方美術展へ

荒居家は、戦前期から船橋市に別荘を有していたとみられる。小室が1930(昭和5)年に記した『日記』には、下記のように、「塊人社」で船橋へ赴き、釣りをしたことが記されている。

約束の六時半に十五分前だった。三沢[寛]君のみ来てゐた。半までに四人のみ。七時に十分前四人出発として両国駅行き。八時の汽車で船橋行。相川と言ふ船宿から三隻に分乗し沖に出る。安藤[照]児島[矩一]泉谷[喜一郎]と余の四人同船。児島君仲々釣る。他の三人釣れずいららす。昼食には捕ったハゼで天ぷらをしたが美味くもない。余のオ■■■は大勢で食べる。午後も思はしくなく場所を取りかへたがいづれも駄目だ。

海中は真夏の如く暑く皆日に焼けた。泉谷君藤沢[古實]君特に目立つ。

夕方上陸し荒居君の別荘に入る。トテモ立派な家だ。大変御馳走になる。露ゼンバリストの放送をきく。

矢張り良い。塊人社の今後の行動方針等協議し九時四十何分かで帰■■

小室達『日記』1930年10月13日 しばたの郷土館蔵



【挿図5】 荒居徳亮《女性マスク》  
制作年不詳 個人蔵(千葉県教育庁文化課『県展史の人びと』千葉県教育庁文化課 1972(昭和47)年より)

1945年3月10日と5月25日の空襲によって住む場所を無くした荒居は、「塊人社」の思い出の場所でもあった、

この別荘がある船橋に転居した。この別荘の近隣に兄の翠湖もアトリエを構えていたことから、戦前から馴染みのある場所だったのだろう<sup>註34</sup>。同地は、1985(昭和60)年に亡くなるまで終の棲家となる。戦後直後は経済的に苦しい状況が続いたようで、指輪作りや干支の彫刻を制作、販売してなんとか生活を繋いでいたという<sup>註35</sup>。

戦前までは官展や「塊人社」といった中央の団体展に出品を重ねていたが、船橋に移住してからは、1949(昭和24)年より発表の場を千葉美術会が主宰した千葉県美術展(以下、「県展」と称す)に移している。全国の彫刻家が集う団体へは、1953(昭和28)年から1964(昭和39)年まで「日本彫塑家倶楽部」及び「日本彫塑会」が開催した日彫展<sup>註36</sup>に全8回参加しているものの、1965(昭和40)年以降は県展での発表に集中するようになる。そして、県展では運営委員や審査員に選ばれているほか、第3回展(1951)では副委員長、1967(昭和42)年から1979(昭和54)年まで常任理事に着任しており、会の要職を担った。なお、この常任理事の在任時期にあたる1969(昭和44)年には、千葉美術会が『県立美術館設立について請願書』<sup>註37</sup>を千葉県に提出しているため、荒居も何らかの形でこの運動に加わっていたとみられる(千葉県立美術館は1974年に開館)。

県展で発表した作品は、三男の妻をモデルとした第21回展出品作《真理子(真理子の像)》〈表1: no. 83〉など、家族をモデルにした朗らかな作品が多い。また、孫ふたりをモデルにした第29回展出品作《姉弟》〈表1: no. 91〉は、1937年以前の作品にみられる遊び心あるポーズやユーモアあふれる表現に回帰していることがうかがえる。また、第20回展出品作《愛犬ワッポ》〈表1: no. 82〉や第30回展出品作《ラッキーの英姿》〈表1: no. 92〉などの可愛いらしい動物彫刻も手がけた。

そして、この県展とともに力を注いだのが、居を構えた船橋市における文化振興活動であった。1956(昭和31)年、「船橋市文化会」を清川尚道(医師、コレクター)、佐野翠波(歌人)、柏崎夢香(俳人)、秋山日出夫(合唱団指導者、指揮者)らと発足した。この組織は「市の文化運動を促進するため」に誕生した会で<sup>註38</sup>、美術の分野には限らない文化活動全般の後押しする組織だったことがうかがえる。また、1965年からは、前年より船橋市で構成された文化財審議委員に着任し<sup>註39</sup>、数々の文化財指定にかかわった。この仕事は1985年に亡くなるまで続けられ、1982(昭和57)年からは船橋市遺跡調査会にも理事として加わっている。

船橋市では上記の文化行政へのかかわりのほか、美術振興にも尽力した。1962(昭和37)年には「船橋市美術連盟」を船橋市ゆかりの工芸家、画家、書家とともに結成した。翌年には第1回目の船橋市美術展覧会を開催し、その際に荒居は連盟代表に就任している<sup>註40</sup>。本展では第1回展と2回展に出品しているが、第3回展からの図録が管見の限り残っていないため、それ以降の出品歴については不明である。

## ② モニュメントの制作と晩年の様子

このように1945年以降は、千葉県と船橋市において文化振興に尽力したが、晩年は地域のモニュメント設置についても積極的にかかわった。1961(昭和36)年から1992(平成4)年まで船橋市で開園していた知的障がい児施設の藤原学園には《希望の泉》(制作年不詳、現存せず)を、船橋市宮本小学校には1973(昭和48)年に次男をモデルにした《躍進の像》を制作した。また、同年、



【挿図6】 荒居徳亮《暁》1985(昭和60)年 場所: 船橋市福祉会館  
2026(令和8)年2月19日 著者撮影

千葉銀行本店に大同印刷より寄贈された《ひまわりの像》の原型も手がけた。そして、最晩年の1984(昭和59)年に船橋市社会福祉会館のシンボルとして《暁》を設置している【挿図6】。

この中で、《ひまわりの像》と《暁》の原型は県展にも出品した。《ひまわりの像》は1974(昭和49)年の第26回県展に《向日葵》〈表1: no. 88〉の題で出品した。この作品は、ヒマワリを一輪手にした少女がダチョウに乗る姿を表した彫刻である。本作を制作するために、荒居はいくつものヒマワリの試作を制作していたほか、ダチョウを観察しに多摩動物公園へ赴いたという<sup>註41</sup>。一方、《暁》は、自宅の庭に迷い込んだ雄鶏をモデルにした作品だ。最後に参加した1979年の第31回展に同名作が出品されている。船橋市社会福祉会館の開館を記念して《暁》が設置された際は、作品の背後に荒居によって新規で制作された太陽をイメージした彫刻が付け加えられた。本作

について、船橋市職員から「雄鶏の姿から障害を持った人たちにも、また朝が来て陽が昇るという気迫が感じられ、社会福祉の理念にふさわしいと思いました」<sup>註42</sup>というコメントが残されている。戦後、彫刻を通して地域へ社会貢献しようと奮闘した姿勢が、この作品に結実しているといえるだろう。

晩年、荒居は県展への出品を控え、庭仕事や自宅の手入れをしながら穏やかな生活を送っていたという。1985年6月25日に逝去した。

### 3 おわりに

本稿では、荒居徳亮の経歴と作品についてまとめた。

青山学院中等部、東京美術学校ともに熱心な級友たちに囲まれ、美術に親しむ青春を送った荒居は、東京美術学校卒業後は官展と「塊人社」で活動を展開した。しかし、第二次世界大戦下では、二度もの空襲の被害によって東京を離れることになり、敗戦後は千葉県船橋市に移り住んだ。そこでは、地方美術展覧会を基盤として作品制作を続けたほか、文化と芸術の振興にも尽くしている。

こうした活動の中でつくられた作品に目を向けると、初期は北村西望からの影響を感じさせる自由主義的な作風がみられる。官展に出品してからは「ユーモア」が感じられるような人物表現や、自由な造形性が評価された。しかし、1937年から1945年までは一転して安藤照の影響を強く受けた「塊」を感じさせる作品を制作した。この時期は、安藤や「塊人社」が目指した「塊」の表現に近づこうとしていることが理解できる。ただし、この作風は安藤が亡くなった第二次世界大戦終結後に変化を遂げ、戦前の作品にみられる軽やかなイメージに回帰していったことが明らかとなった。

さらに興味深いのは、第二次世界大戦前後での活動内容や作風に大きな違いがみられる中で、荒居が生涯「塊人社同人」と名乗り続けていることである<sup>註43</sup>。迫内氏が述べているとおり、1943年以降は、さまざまな美術団体が「日本美術報国会」に統一されて解散届を提出した中、「塊人社」はその流れに逆らい、最後まで解散をすることはなかったとみられる<sup>註44</sup>。また、1945年に代表の安藤が亡くなったあとも解散することはなかったようだ。とはいえ、リーダーの安藤がいなくなった影響は甚大であり、戦後に「塊人社」展が開催された形跡はない。第二次世界大戦の戦禍をくぐり抜けて生存していた同人の多くが先述の日彫展に出品しているため、「日本彫塑家倶楽部」及び「日本彫塑家連盟」が「塊人社」同人の受け皿となったとみられる。このように、戦後に彼らを取り巻く状況が大きく変わっても、ひとり「塊人社同人」の肩書を名乗り続けていた。この真意については明らかではないが、荒居にとってこの団体が非常に重要な位置にあったことは確かだろう。特に、指導者であった安藤との関わりを大切にしていたようで、安藤の制作した《鶉》の彫刻を所有していたほか、その作品に酷似した鶉の彫刻を制作している。そうしたことから、荒居にとって安藤、ひいては「塊人社」が重要な存在であり続けたことがわかる。







このように安藤からの影響は絶大であり、一時期はその作風を強く受けついでいたようにみられる。しかし一方で、初期と戦後の作品の多くは「ユーモア」や軽やかさを表現した彫刻であった。こうした作風は、安藤の作品群にはみられないのも事実である。他作家からの影響を強く受けつつも、それに縛られない、自由な創作を展開して、独自の世界感を構築しようとしたことも忘れてはならない。

「塊人社」の実態を考えると、安藤照という指導者からの影響があった一方で、各作家がそれに固執せずに作風を展開していったことも考慮していくべきなのだろう。今後も同社についての研究を深めていきたい。



【表1】展覧会出品作一覧









no.	画像	作品名	現存が確認できた作品	出品展覧会	西暦(年)	和暦(年)	会期	開催場所	参考文献
1		黎明		帝国美術院 第五回美術 展覧会	1924	大正13	10月15日～ 11月20日	竹ノ台陳列館	『日展史』7 日展 1982年

no.	画像	作品名	現存が確認できた作品	出品展覧会	西暦(年)	和暦(年)	会期	開催場所	参考文献
2		途上		帝国美術院 第七回美術 展覧会	1926	大正15	10月16日～ 11月20日	東京府美術館	『日展史』7 日展 1982年
3		足を立てし 女像		朝倉塾 彫塑習作 展覧会	1927	昭和2	4月22日～ 5月15日	東京府美術館	『朝倉塾 彫塑習作展覧会 目録』1927年
4		ア・ プレリュード		帝国美術院 第八回美術 展覧会	1927	昭和2	10月16日～ 11月20日	東京府美術館	『日展史』8 日展 1982年
5		猫		朝倉塾 第二回彫塑 展覧会	1928	昭和3	5月12日～ 6月3日	東京府美術館	『朝倉塾 第二回塾彫塑 展覧会 目録』1928年
6		女立像							
7		構想		帝国美術院 第十回美術 展覧会	1929	昭和4	10月16日～ 11月20日	東京府美術館	『日展史』9 日展 1982年
8		大地を慕ふ		帝国美術院 第十一回美 術展覧会	1930	昭和5	10月16日～ 11月20日	東京府美術館	『日展史』9 日展 1982年
9		馬		第一回 塊人社彫塑 展覧会	1931	昭和6	3月22日～ 31日	東京府美術館	『第一回「塊人社」彫塑展 覧会 出品目録』1931年 (しばたの郷土館蔵)
10		球を持つ女							
11		香爐(獅子)							
12		猫							
13		胸像							
14		N君の胸像							
15		老人習作							
16		新樹							
17		清朗		帝国美術院 第十二回美 術展覧会	1931	昭和6	10月16日～ 11月20日	東京府美術館	『日展史』10 日展 1982年
18		萌芽		第二回 塊人社彫塑 展覧会	1932	昭和7	3月20日～ 31日	東京府美術館	大蔵雄夫「塊人社彫塑展 を語る」 『アトリエ』9巻5号 1932年
19		魚							
20		獅子							
21		猿							
22		青陽		帝国美術院 第十三回美 術展覧会	1932	昭和7	10月16日～ 11月20日	東京府美術館	『日展史』10 日展 1982年

no.	画像	作品名	現存が確認できた作品	出品展覧会	西暦(年)	和暦(年)	会期	開催場所	参考文献
23		洋装の女		第三回 塊人社彫塑 展覧会	1933	昭和8	4月29日～ 5月8日	東京府美術館	『サウンド』2巻4号 1933年
24		首		第四回 塊人社彫塑 展覧会	1934	昭和9	4月20日～ 30日	東京府美術館	『第四回 塊人社彫塑展 出品目録』1934年(中野 克俊氏蔵)
25		猿							
26		梳		帝国美術院 第十五回 美術展覧会	1934	昭和9	10月16日～ 11月20日	東京府美術館	『日展史』11 日展 1982年
27		雉		第五回 塊人社彫塑 展覧会	1935	昭和10	5月26日～ 6月5日	東京府美術館	大蔵雄夫「塊人社と第一 美術の彫刻」『美之國』 11巻7号 1935年
28		蟹		大阪第一回 塊人社彫塑 展覧会	1935	昭和10	12月6日～ 11日	三角堂	『近代美術関係新聞資料 集成』 Vol. 63
29		獵犬		主線美術 協会 第1回展 〔塊人社展 第6回〕	1936	昭和11	12月8日～ 20日	東京府美術館	『主線美術協会 第1回展 目録』1936年(千葉市美 術館所蔵)
30		水鳥							
31		少女習作							
32		マスク習作							
33		影		第一回 文部省美術 展覧会 (新文展) ※特選	1937	昭和12	10月16日～ 11月20日	東京府美術館	『日展史』13 日展 1982年
34		首		主線美術 協会 第2回展 〔塊人社展 第7回〕	1938	昭和13	3月19日～ 28日	東京府美術館	『主線美術協会 第2回展 目録』1938年(千葉市美 術館所蔵)
35		裸婦試作							
36		女		第二回 文部省美術 展覧会 (新文展) ※特選	1938	昭和13	10月16日～ 11月20日	東京府美術館	『日展史』13 日展 1982年
37		芳紀		第三回 文部省美術 展覧会 (新文展)	1939	昭和14	10月16日～ 11月20日	東京府美術館	『日展史』13 日展 1982年
38		作品名不詳		第九回 塊人社彫塑 展覧会	1940	昭和15	3月3日～ 10日	東京府美術館	「二つの彫刻展を見る」 『美之國』 16巻4号 1940年
39		二千六百年の 作		紀元 二千六百年 奉祝美術展 覧会 前期展	1940	昭和15	10月1日～ 22日	東京府美術館	『日展史』14 日展 1982年

no.	画像	作品名	現存が確認 できた作品	出品展覧会	西暦 (年)	和暦 (年)	会期	開催場所	参考文献
40		鳩		第十回 塊人社彫塑 展覧会	1941	昭和16	4月10日～ 30日	東京府美術館	田澤田軒「四月の各展」 『造形芸術』第3巻6号 1941年
41		鳩と女		第四回 文部省美術 展覧会 (新文展)	1941	昭和16	10月16日～ 11月20日	東京府美術館	『日展史』14 日展 1982年
42		試作		第十一回 塊人社彫塑 展覧会	1942	昭和17	3月13日～ 23日	東京府美術館	大蔵雄夫「塊人社展評」 『日本美術』1巻1号 1942年
43		鳩							
44		鳩		全日本 彫塑家連盟 陸海軍献納 彫塑展覧会	1942	昭和17	6月5日～ 11日	東京府美術館	『全日本彫塑家連盟 陸 海軍献納彫塑展覧会目 録』1942年(しばたの郷 土館蔵)
45		小品(一)		第十二回 塊人社彫塑 展覧会	1943	昭和18	4月10日～ 20日	東京府美術館	大蔵雄夫「塊人社・正統 木彫・構造社展評」『日 本美術』2巻6号 1943年
46		女性像		第六回 文部省美術 展覧会 (新文展)	1943	昭和18	10月16日～ 11月20日	東京都美術館	『日展史』15 日展 1982年
47		兒の首		第1回 千葉県美術 展覧会	1949	昭和24	11月10日～ 16日	毎日ホール	『千葉県美術展覧会目録』 1949年
48		兎							
49		裸婦像		第2回 千葉県美術 展覧会	1950	昭和25	11月10日～ 19日	毎日ホール	『千葉県美術展覧会目録』 1950年
50		山鳩							
51		ポインター		第3回 千葉県美術 展覧会	1951	昭和26	11月15日～ 25日	毎日ホール	『県展 3』1951年
52		レリーフA		第4回 千葉県美術 展覧会	1952	昭和27	11月11日～ 21日	自治会館	『県展 4』1952年
53		レリーフB							
54		ポインター		第1回 日本彫塑 展覧会	1953	昭和28	4月27日～ 5月9日	東京都美術館	『第1回日本彫塑展覧会 出品目録』1953年
55		マスク							
56		鳩 (陶彫レリーフ)		第5回 千葉県美術 展覧会	1953	昭和28	11月13日～ 25日	千葉市 自治会館	『県展 第5回』1953年
57		或る装飾の為の 頭像							
58		習作		第2回 日本彫塑 展覧会 後期展	1954	昭和29	4月23日～ 5月13日	東京都美術館	『第2回日本彫塑展覧会 後期展 出品目録』 1954年
59		獵人		第6回 千葉県美術 展覧会	1954	昭和29	11月13日～ 23日	千葉市 自治会館	『県展 6』1954年
60		セメント試作		第8回 千葉県美術 展覧会	1956	昭和31	11月16日～ 25日	国松画廊	『県展 8』1956年
61		観音様							
62		真鳩		第5回 日本彫塑 展覧会	1957	昭和32	4月17日～ 5月6日	東京都美術館	『第5回日彫展 目録』 1957年

no.	画像	作品名	現存が確認できた作品	出品展覧会	西暦(年)	和暦(年)	会期	開催場所	参考文献
63		真鴨		第9回 千葉県美術 展覧会	1957	昭和32	11月15日～ 24日	国松画廊	『県展 9』1957年
64		首							
65		青年の首		第10回 千葉県美術 展覧会	1958	昭和33	11月14日～ 23日	千葉県 本町小学校	『10周年記念 県展』 1958年
66		首		第7回 日本彫塑 展覧会	1959	昭和34	4月15日～ 5月5日	東京都美術館	『第七回日彫展 目録』 1959年
67		山鳩		第11回 千葉県美術 展覧会	1959	昭和34	11月20日～ 29日	本町小講堂	『県展 11』1959年
68		鳩		第8回 日本彫塑 展覧会	1960	昭和35	4月17日～ 5月7日	東京都美術館	『第八回日彫展』1960年
69		女		第12回 千葉県美術 展覧会	1960	昭和35	11月11日～ 20日	扇屋	『県展』1960年
70		踊		第9回 日本彫塑 展覧会	1961	昭和36	4月16日～ 5月5日	東京都美術館	『第9回日彫展』1961年
71		ゴルフ		第13回 千葉県美術 展覧会	1961	昭和36	12月8日～ 14日	市川市民会館	『県展 13』1961年
72		小鳥と音楽		第10回 日本彫塑 展覧会	1962	昭和37	4月15日～ 5月4日	東京都美術館	『第10回日彫展 目録』 1962年
73		兎		第14回 千葉県美術 展覧会	1962	昭和37	11月10日～ 18日	千葉県庁 会議室	『県展』1962年
74		子供の首		第15回 千葉県美術 展覧会	1963	昭和38	11月9日～ 17日	千葉県庁 ホール	『県展』1963年
75		K氏の像		船橋市 美術展	1963	昭和38	11月1日～ 4日	船橋市 中央公民館	『船橋市美術展』目録 1963年
76		青年像		第12回 日本彫塑 展覧会	1964	昭和39	4月12日～ 5月2日	東京都美術館	『第12回日彫展 目録』 1964年
77		鯉		船橋市 美術展 第2回	1964	昭和39	5月1日～ 5日	船橋市 中央公民館	『船橋市美術展第2回 目録』1964年
78		花と女		第16回 千葉県美術 展覧会	1964	昭和39	11月19日～ 23日	奈良屋	『県展 16』1964年
79		体操		第17回 千葉県美術 展覧会	1965	昭和40	11月18日～ 23日	奈良屋	『県展 17』1965年
80		建設		第18回 千葉県美術 展覧会	1967	昭和42	3月18日～ 26日	千葉県 文化会館	『県展 18』1967年
81		トルソー		第19回 千葉県美術 展覧会	1968	昭和43	3月17日～ 24日	千葉県 文化会館、 奈良屋	『県展 第19回』1968年
82		愛犬ワッポ	○	第20回 千葉県美術 展覧会	1969	昭和44	3月16日～ 23日	千葉県 文化会館	『第20回記念 県展』 1969年

no.	画像	作品名	現存が確認できた作品	出品展覧会	西暦(年)	和暦(年)	会期	開催場所	参考文献
83		真理子 (真理子の像)	○	第21回 千葉県美術 展覧会	1969	昭和44	11月16日～ 23日	千葉県 文化会館	『第21回 県展』1969年
84		華		第22回 千葉県美術 展覧会	1970	昭和45	11月15日～ 22日	千葉県 文化会館	『第22回 県展』1970年
85		大地に立つ		第23回 千葉県美術 展覧会	1971	昭和46	11月14日～ 21日	千葉県 文化会館	『第23回 県展』1971年
86		聖火		第24回 千葉県美術 展覧会	1972	昭和47	11月19日～ 26日	千葉県 文化会館	『第24回 県展』1972年
87		面	○	第25回 千葉県美術 展覧会	1973	昭和48	10月14日～ 21日	千葉県 文化会館	『25回 千葉県展 若潮 国体芸術展』1973年
88		向日葵	○	第26回 千葉県美術 展覧会	1974	昭和49	10月24日～ 11月3日	千葉県立 美術館	『26回 県展 千葉県立 美術館開館記念』1974年
89		愛の主柱		第27回 千葉県美術 展覧会	1975	昭和50	11月2日～ 16日	千葉県立 美術館	『第27回 千葉県美術展 覧会』1975年
90		幻想	○	第28回 千葉県美術 展覧会	1976	昭和51	11月3日～ 14日	千葉県立 美術館	『第28回 千葉県美術展 覧会 昭和51年度 千葉 芸術祭』1976年
91		姉弟	○	第29回 千葉県美術 展覧会	1977	昭和52	11月2日～ 13日	千葉県立 美術館	『第29回 千葉県美術展 覧会 昭和52年度 千葉 芸術祭』1977年
92		ラッキーの 英姿	○	第30回 千葉県美術 展覧会	1978	昭和53	10月28日～ 11月19日	千葉県立 美術館	『第30回 千葉県美術展 覧会 昭和53年度 千葉 芸術祭』1978年
93		暁	○	第31回 千葉県美術 展覧会	1979	昭和54	10月27日～ 11月18日	千葉県立 美術館	『第31回 千葉県美術展 覧会 昭和54年度 千葉 芸術祭』1979年

【表2】年譜

西暦(年)	和暦	満年齢	
1899	明治32年	1歳	6月5日 栃木県に生まれる
1918	大正7年	20歳	東京美術学校彫刻科塑造部に入学。1学年先輩に安藤照、泉谷喜一郎、小笠原貞弘、児島矩一、堀江尚志、松田尚之がいた。また、彫刻科の教授陣は高村光雲、白井雨山、沼田一雅、水谷鉄也、畑正吉であった。
1919	大正8年	21歳	
1920	大正9年	22歳	白井雨山が退任。建畠大夢が教授となる。
1921	大正10年	23歳	北村西望、朝倉文夫が教授となる。北村教室に入る。
1922	大正11年	24歳	
1923	大正12年	25歳	
1924	大正13年	26歳	10月：帝国美術院第五回美術展覧会に《黎明》を出品、初入選(表1: no. 1)
1925	大正14年	27歳	
1926	大正15年(～12月25日) 昭和元年(12月26日～)	28歳	10月：帝国美術院第七回美術展覧会で《途上》が入選(表1: no. 2)
1927	昭和2年	29歳	4月：朝倉塾彫塑習作展覧会に《足を立てし女像》を出品 10月：帝国美術院第八回美術展覧会で《ア・プレリュード》が入選(表1: no. 4)
1928	昭和3年	30歳	5月：朝倉塾第二回彫塑展覧会に《猫》、《女立像》を出品 10月：帝国美術院第九回美術展覧会で朝倉文夫による不出品事件に連座する。
1929	昭和4年	31歳	6月：「塊人社」結成。同人となる。 10月：帝国美術院第十回美術展覧会で《構想》が入選(表1: no. 7)
1930	昭和5年	32歳	10月：帝国美術院第十一回美術展覧会で《大地を慕ふ》が入選(表1: no. 8)
1931	昭和6年	33歳	3月：第一回塊人社彫塑展覧会に《馬》、《球を持つ女》、《香爐(獅子)》、《胸像》、《猫》、《N君の胸像》、《老人習作》、《新樹》を出品 10月：帝国美術院第十二回美術展覧会で《清朗》が入選(表1: no. 17)
1932	昭和7年	34歳	3月：第二回塊人社彫塑展覧会に《萌芽》、《猿》、《獅子》、《魚》を出品 10月：帝国美術院第十三回美術展覧会で《青陽》が入選(表1: no. 22)
1933	昭和8年	35歳	3月：第三回塊人社彫塑展覧会に《洋装の女》(表1: no. 23)を出品
1934	昭和9年	36歳	4月：第四回塊人社彫塑展覧会に《首》、《猿》を出品 10月：帝国美術院第十五回美術展覧会で《梳》が入選(表1: no. 26)
1935	昭和10年	37歳	5月：第五回塊人社彫塑展覧会に《雉》を出品 12月：大阪第一回塊人社彫塑展覧会に《蟹》を出品
1936	昭和11年	38歳	12月：主線美術協会第1回展に《猿犬》、《水鳥》、《少女習作》、《マスク習作》を出品
1937	昭和12年	39歳	10月：第一回文部省美術展覧会(新文展)で《影》が入選、特選となる。(表1: no. 33)
1938	昭和13年	40歳	3月：主線美術協会第2回展に《首》、《裸婦試作》を出品 10月：第二回文部省美術展覧会(新文展)で《女》が入選、特選となる。(表1: no. 36)
1939	昭和14年	41歳	10月：第三回文部省美術展覧会(新文展)で《芳紀》が入選(表1: no. 37)
1940	昭和15年	42歳	3月：第九回塊人社彫塑展覧会に《作品名不詳》を出品 10月：紀元二千六百年奉祝美術展覧会前期展に《二千六百年の作》を出品(表1: no. 39)
1941	昭和16年	43歳	4月：第十回塊人社彫塑展覧会に《鳩》を出品 10月：第四回文部省美術展覧会(新文展)に《鳩と女》を出品。本展から無鑑査となる。(表1: no. 41)
1942	昭和17年	44歳	3月：第十一回塊人社彫塑展覧会に《試作》(表1: no. 42)、《鴨》を出品 6月：全日本彫塑家連盟 陸海軍献納彫塑展覧会に《鳩》を出品
1943	昭和18年	45歳	4月：第十二回塊人社彫塑展覧会に《小品(一)》を出品 10月：第六回文部省美術展覧会(新文展)に《女性像》を出品(表1: no. 46)
1944	昭和19年	46歳	4月：「塊人社」で航空機の部品の石膏型を製造する会社「軍需造形」を立ちあげる。
1945	昭和20年	47歳	3月：東京大空襲で浜町の住居兼アトリエが全焼。その後、本村町や初台に身を寄せる。 5月：山の手空襲で身を寄せていた初台が爆撃に会い、その後、千葉県船橋市に移住する。
1946	昭和21年	48歳	
1947	昭和22年	49歳	
1948	昭和23年	50歳	
1949	昭和24年	51歳	11月：第1回千葉県美術展覧会の運営委員になる。同展に《児の首》、《兎》を出品
1950	昭和25年	52歳	11月：第2回千葉県美術展覧会の県展委員になる。《裸婦像》、《山鳩》を出品
1951	昭和26年	53歳	11月：第3回千葉県美術展覧会の県展委員になる。同展に《ポインター》を出品
1952	昭和27年	54歳	11月：第4回千葉県美術展覧会の県展委員になる。同展に《レリーフA》、《レリーフB》を出品

西暦(年)	和暦	満年齢	
1953	昭和28年	55歳	4月:第1回日本彫塑展覧会に《マスク》、《ポインター》を出品 11月:第5回千葉県美術展覧会の運営委員になる。同展に《鴨(陶彫レリーフ)》《或る装飾の為の頭像》を出品
1954	昭和29年	56歳	4月:第2回日本彫塑展覧会 後期展に《習作》を出品 11月:第6回千葉県美術展覧会に《獵人》を出品
1955	昭和30年	57歳	11月:第7回千葉県美術展覧会の運営委員と審査員になる。
1956	昭和31年	58歳	「船橋市文化会」を結成 11月:第8回千葉県美術展覧会の運営委員と審査員になる。同展に《セメント試作》、《観音様》を出品
1957	昭和32年	59歳	4月:第5回日本彫塑展覧会に《真鴨》を出品 11月:第9回千葉県美術展覧会の運営委員と審査員になる。同展に《真鴨》、《首》を出品
1958	昭和33年	60歳	11月:第10回千葉県美術展覧会の運営委員と審査員になる。同展に《青年の首》を出品
1959	昭和34年	61歳	4月:第7回日本彫塑展覧会に《首》を出品 11月:第11回千葉県美術展覧会の運営委員と審査員になる。同展に《山鳩》を出品
1960	昭和35年	62歳	4月:第8回日本彫塑展覧会に《鳩》を出品 11月:第12回千葉県美術展覧会の運営委員と審査員になる。同展に《女》を出品
1961	昭和36年	63歳	4月:第9回日本彫塑展覧会に《踊》を出品 12月:第13回千葉県美術展覧会の運営委員となる。同展に《ゴルフ》を出品
1962	昭和37年	64歳	4月:第10回日本彫塑展覧会に《小鳥と音楽》を出品 11月:第14回千葉県美術展覧会の運営委員と審査員になる。同展に《兎》を出品
1963	昭和38年	65歳	11月:第15回千葉県美術展覧会の運営委員になる。同展に《子供の首》を出品 船橋市美術連盟代表となる。同連盟主催の船橋市美術展に《K氏の像》を出品
1964	昭和39年	66歳	4月:第12回日本彫塑展覧会に《青年像》を出品 5月:船橋市美術展第2回に《鯉》を出品 11月:第16回千葉県美術展覧会の運営委員と審査員になる。同展に《花と女》を出品
1965	昭和40年	67歳	船橋市文化財審議委員になる。 11月:第17回千葉県美術展覧会の運営委員になる。同展に《体操》を出品
1966	昭和41年	68歳	
1967	昭和42年	69歳	3月:第18回千葉県美術展覧会の常任理事と審査員になる。同展に《建設》を出品(表1: no. 80)
1968	昭和43年	70歳	3月:第19回千葉県美術展覧会の常任理事になる。同展に《トルソー》を出品
1969	昭和44年	71歳	3月:第20回千葉県美術展覧会の常任理事と審査員、20周年記念行事実行委員長主任になる。同展に《愛犬ワッポ》を出品(表1: no. 82)。また、千葉県美術会20周年にあたり、美術会功労者に選ばれる。 11月:第21回千葉県美術展覧会の常任理事と審査員になる。同展に《真理子(真理子の像)》を出品(表1: no. 83)。 12月:千葉県美術会で県議会に県立美術館設立についての請願書を提出。
1970	昭和45年	72歳	11月:第22回千葉県美術展覧会の常任理事になる。同展に《華》を出品
1971	昭和46年	73歳	11月:第23回千葉県美術展覧会の常任理事になる。同展に《大地に立つ》を出品
1972	昭和47年	74歳	11月:第24回千葉県美術展覧会の常任理事になる。同展に《聖火》を出品
1973	昭和48年	75歳	千葉銀行本店に《ひまわりの像》を設置 3月:船橋市立宮本小学校に《躍進の像》を設置 10月:第25回千葉県美術展覧会の常任理事になる。同展に《面》を出品(表1: no. 87)
1974	昭和49年	76歳	10月:第26回千葉県美術展覧会の常任理事と審査員になる。同展に《向日葵》を出品(表1: no. 88)
1975	昭和50年	77歳	11月:第27回千葉県美術展覧会の常任理事になる。同展に《愛の主柱》を出品(表1: no. 89)
1976	昭和51年	78歳	11月:第28回千葉県美術展覧会の常任理事と審査員になる。同展に《幻想》を出品(表1: no. 90)
1977	昭和52年	79歳	11月:第29回千葉県美術展覧会の常任理事になる。同展に《姉弟》を出品(表1: no. 91)
1978	昭和53年	80歳	10月:第30回千葉県美術展覧会の常任理事になる。同展に《ラッキーの英姿》を出品(表1: no. 92)
1979	昭和54年	81歳	10月:第31回千葉県美術展覧会の常任理事になる。同展に《暁》を出品(表1: no. 93)
1980	昭和55年	82歳	
1981	昭和56年	83歳	
1982	昭和57年	84歳	船橋市遺跡調査会理事になる。
1983	昭和58年	85歳	
1984	昭和59年	86歳	船橋市福祉会館に《暁》が設置される。
1985	昭和60年	87歳	6月25日:逝去

## 【脚注】

- 註1 迫内祐司「塊人社研究寄与」『黙然たる反骨 安藤照 一没後・戦後80年 忠犬ハチ公像をつくった彫刻家—』（展覧会図録）渋谷区立松濤美術館 2025(令和7)年 11-16頁(以下、本図録についての記載は「『安藤照展図録』」とする)
- 註2 齊藤泰嘉「千葉県美術界の系譜 一里山里海を生きる—」『千葉県美術家名鑑』千葉日報社 2005(平成17)年 20頁
- 註3 船橋市「船橋市バーチャル美術館 船橋美術年表」(<https://funabashi-virtual-museum.jp/chronology/>) (2026(令和8)年2月13日確認)
- 註4 猪野三郎監修『第五版 大衆人事録』帝国秘密探偵社、帝国人事通信社 1932(昭和7)年 110頁、『荒庄創業90周年特別感謝市』（パンフレット）株式会社荒庄 1974年
- 註5 荒居和彦氏よりご教示いただいた(2025(令和7)年9月25日)。
- 註6 青山学院中等部の卒業生で版画家の川上澄生が『版画』（東峰書院 1958(昭和33)年 38頁)の中で同校の同窓生のひとりとして荒居を紹介している。また、荒居和彦氏からもご教示いただいた(2025(令和7)年9月25日)。ただし、入学年や卒業年についての詳細は不明である。
- 註7 畑川克哉「クロバ会」『青山学院五十年史』青山学院 1932(昭和7)年 363-367頁
- 註8 塚本与三郎「クロバ会・入木会」『青山の学風』文川堂書店 1922(大正11)年 118-121頁
- 註9 前掲7
- 註10 前掲8 120頁
- 註11 「東京美術学校ニ於テ左記ノ者ニ入学ヲ許可セリ」『官報』1697号 1918(大正7)年 76頁
- 註12 前掲5
- 註13 東京美術学校編『東京美術学校一覽 従大正7年至8年』東京美術学校 1919(大正8)年 100-103頁
- 註14 松田尚之「こしかたの人々」『日展史 9 帝展編四』社団法人日展 1983(昭和58)年 619頁
- 註15 小室達『日記』1930(昭和5)年8月1日(しばたの郷土館蔵)など。
- 註16 1916(大正5)年の東京美術学校改革運動の頃より、東京美術学校彫刻科では高村光雲などの大御所の彫刻家たちが教授であることや、教育方法が古風であることが問題視されていた。この問題を受けて、官展で影響力があった建畠大夢、北村西望、朝倉文夫ら教授陣の招聘を行っていると思われる。また、1920(大正9)年から翌年にかけて沼田一雅が、1920年から1922(大正11)年にかけては畑正吉が渡欧しているため、1921(大正10)年の教授陣は高村光雲、水谷徹也、建畠大夢、北村西望、朝倉文夫となった。加えて、「教室制」も導入されたことから、同科は旧体制からのイメージ刷新をはかっている。
- 註17 千葉県教育庁文化課『県展史の人びと I』千葉県教育庁文化課 1972(昭和47)年 10頁
- 註18 拙稿「曠原社の活動と理念について—新出資料を中心に—」『屋外彫刻調査保存研究会』7号 屋外彫刻調査保存研究会 2021(令和3)年 25-60頁
- 註19 東京美術学校校友会編『東京美術学校卒業生名簿 昭和2年』東京美術学校校友会 1927(昭和2)年 69頁
- 註20 聯合通信社編『日本人事名鑑 昭和9年版 上巻』聯合通信社 1933(昭和8)年 94頁
- 註21 この時期、安藤のダンスをモチーフにした作品に影響を受けたのは荒居だけではない。同級生の松田尚之、小室達、村田勝四郎、藤澤古實(1897-1967)なども同様の作風の彫刻を制作した。
- 註22 加藤顕清「塑造群像」『美術新論』6巻11号 1931(昭和6)年 97頁
- 註23 「朝倉塾」については、齊藤祐子「安藤照と朝倉塾時代」(『安藤照展図録』7-10頁)に詳しい。
- 註24 『安藤照展図録』 53頁
- 註25 大蔵雄夫「塊人社彫塑展を語る」『アトリエ』9巻5号 1932(昭和7)年 65頁
- 註26 「塊人社第三回展」『サウンド』2巻4号 1933(昭和8)年 15頁
- 註27 長谷川義起「文展第三部に就いて」『手工研究』209号 1937(昭和12)年 18頁
- 註28 前掲 17
- 註29 拙論「安藤照の彫刻」『安藤照展図録』 97-100頁

註30 前掲 5

註31 小室達『日記』1945(昭和20)年3月19日(しばたの郷土館蔵)

註32 小室達『日記』1945(昭和20)年3月27日(しばたの郷土館蔵)など。

註33 前掲 5

註34 『現代画家番付』美術倶楽部出版部 1940(昭和15)年 70頁

註35 荒居和彦氏よりご教示いただいた(2026(令和8)年2月13日)。

註36 「日本彫刻家連盟」として1947(昭和22)年に結成。1953(昭和28)年に同連盟を発展改称した組織が「日本彫塑家倶楽部」である。さらに1962(昭和37)年に会則を改正、名称を「日本彫塑会」に変更した。その後、同会は社団法人化と名称変更をおこない、現在は「公益財団法人日本彫刻会」として組織運営されている。詳細は同会HP(<https://www.niccho.com/history/>)に詳しい(2026(令和8)年2月13日確認)。

註37 『県立美術館設立について請願書』千葉県美術会 1969(昭和44)年 1、2頁

註38 前掲 3

註39 船橋市教育委員会史編集委員会「船橋市文化財審議会」『船橋市教育委員会史 30年の歩み』(船橋市教育委員会 1981(昭和56)年 45頁)。ただし、船橋市史編さん委員会編『船橋市史(後編)上』(船橋市 1965(昭和40)年 483-484頁)では、1964(昭和39)年から文化財審議委員に就任している旨がかかかれている。

註40 船橋市美術連盟編『船橋市美術連盟の歩み(昭和38年～令和4年)』船橋市美術連盟 2023(令和5)年 4頁

註41 宝崎真由美氏よりご教示いただいた(2025(令和7)年11月7日)。

註42 「干支にちなんで 力強く時を告げる 福祉会館前の鶏像」『ふなばし朝日』1993(平成5)年1月3日 2面

註43 『美術家名鑑 昭和46年版』美術倶楽部出版部 1971(昭和46)年 344頁

註44 前掲 1

## 謝辞

本研究に関して、荒居和彦氏をはじめとするご遺族のみなさまには、お忙しい中、幾度にもわたる調査や取材にご協力をいただきました。本稿掲載につきましても資料の掲載を快くお許しいただきました。心より御礼申し上げます。

また、一部の作品調査と画像提供については、東京藝術大学大学美術館の村上敬氏、守本奈央氏にご協力を賜りました。そして、しばたの郷土館、千葉市美術館、船橋市教育委員会文化課、田中修二氏、中野克俊氏からはご所蔵品の資料について情報提供をいただきました。なお、一部の資料情報に関しては、追内祐司氏、本田悦久氏よりご教示を賜りました。みなさまにはご高配を賜りましたこと記して感謝申し上げます。

## 資料紹介

# 渋谷区立松濤美術館 野島康三関連美術作品及び資料一覧

大平奈緒子(渋谷区立松濤美術館 学芸員)

野島康三(1889-1964)は近代日本を代表する写真家である。自ら写真館を経営しながら、画廊・兜屋画堂を開き、『白樺』やヒュウザン会の関係者など多くの芸術家と交流し、彼らの活動を支援した。

当館では、以下に記すように1991年から2009年にかけて野島の展覧会を3回開催し、そのご縁でご遺族や関係者より複数の機会に分けて野島の関連資料をご寄贈いただいた。本一覧はそれらの美術作品及び資料をリスト化したものである。

### 当館での野島展

①「野島康三とその周辺 ー日本近代写真と絵画ー」1991年7月16日～9月1日

※京都国立近代美術館との共同企画

②「野島康三とレディス・カメラ・クラブ」1993年2月7日～3月21日

③「生誕120年 野島康三 ー肖像の核心展」2009年9月29日～11月15日

### 各寄贈の年度・寄贈者・概要

・1993年度 寄贈者:松永田鶴江氏

松永田鶴江氏は野島が顧問を務めた女性のための写真同好会「レディス・カメラ・クラブ」の会員で、野島作品のモデルにもなっている。野島や松永氏本人による写真作品30点をご寄贈いただいた。【挿図1】

・2006年度 寄贈者:星和子氏

野島の娘(養女)で、リスト中にも度々登場する「和子」本人。写真《にごれる海》や《婦人像》、油彩《びわ》【挿図2】、《作品名不詳〔裸婦〕》などの野島による作品のほか、野島が経営する野々宮写真館の支配人でもあった山崎静村撮影による《木喰上人作木彫仏》12点をご寄贈いただいた。また、柳宗悦や岸田劉生、萬鉄五郎らから野島に宛てられた書簡約450通も含まれる。

・2007年度 寄贈者:山崎定人氏

野島《Y君肖像》(Yは山崎のこと)のほか、山崎静村が岸田劉生や志賀直哉、武者小路実篤らを撮影した写真作品19点をご寄贈いただいた。【挿図3】



【挿図1】野島康三《無題〔和子と田鶴江〕》1938-39年、ゼラチンシルバープリント



【挿図2】野島康三《びわ》1926年、油彩・カンヴァス



【挿図3】山崎静村《武者小路夫妻と岸田劉生》1920-30年代、ゼラチンシルバープリント

・2010年度 寄贈者:星和子氏

野島家の系図や幼少期から青年期の写真【挿図4】、野島が開いた兜屋画堂【挿図5】での展覧会案内や目録、そのほか記念写真、原稿や手記、ネガフィルムなど、野島の生まれから晩年までの活動の一端がわかる資料一式をご寄贈いただいた。

・同年度 寄贈者:中村常子氏

中村氏は、野島と親しく交友していた建築家の土浦亀城・信子夫妻の秘書であった人物で、土浦信子の写真作品4点をご寄贈いただいた。信子は松永氏と同様にレディス・カメラ・クラブのメンバーでもあり、野島から写真の手ほどきを受けていた。【挿図6】



【挿図4】野島康三《セルフポートレート》1906-10年頃、ゼラチンシルバープリント



【挿図5】「兜屋封筒(堀進二宛)」年代不詳



【挿図6】野島康三《女の顔(土浦信子像)》1933年、ゼラチンシルバープリント

本稿での寄贈資料の分類は以下のとおりである。

【表1】美術作品(油彩、素描、写真)

【表2】資料(手記、原稿、目録、案内状、スケッチ等)

【表3】写真資料

【表4】野島宛書簡

### 本一覧公開の目的

当館は、2009年の「野島康三 一肖像の核心展」の際に赤々舎から『野島康三写真集』を出版し、あわせて当館より『渋谷区立松濤美術館所蔵 野島康三 作品と資料集』(以下『資料集』と記す)を刊行した。『資料集』は野島の活動の資料や家族とのスナップ写真、野島宛の書簡とその翻刻等、図版を交えながら紹介しており、現状、『資料集』が当館所蔵の野島資料について最も詳しく述べたものである。本一覧では、本書と併せて参照していただけるよう、資料類については『資料集』の掲載頁または資料番号を付した。美術作品については当館の所蔵品目録の番号を付している。

なお、本一覧は『資料集』やそれを作成する際の情報を基本とし、一部、リストの表記に合わせて整理した。またリスト作成にあたり新たに判明した情報を追記している。旧字は新字に改め、判読不能の文字は■とし、推定によるものには(?)を付している。

2025年、埼玉県立近代美術館での「野島康三と斎藤与里 一美を掴む手、美を興す眼」展や、東京ステーションギャラリー、ふくやま美術館をはじめとする「小林徳三郎」展が開催されるなど、近年、野島周辺に注目が集まっている。この機会に当館所蔵の資料一覧を作成し、広く参照していただきたく、本一覧を公開することとした。なお、今回の一覧は全体像の把握にとどめ、引き続き調査を進め、詳細を明らかにしていきたい。

【表1】美術作品(油彩、素描、写真)

目録番号	タイトル	作者	制作年	材質技法	サイズ 縦×横(cm)	寄贈者 (敬称略)	寄贈 年度	【資料集】 掲載頁
油37	びわ	野島康三	1926(大正15/ 昭和元)年	油彩、カンヴァス	24.4×41.0	星和子	2006	48
油38	作品名不詳〔手鏡の裸婦〕	野島康三	1926(大正15/ 昭和元)年	油彩、カンヴァス	19.4×13.5	星和子	2006	47
油39	作品名不詳〔風景〕	野島康三	1920年代か	油彩、カンヴァス	31.5×39.5	星和子	2006	48
油40	作品名不詳〔裸婦1〕	野島康三	1924(大正13)年	油彩、カンヴァス	25.0×17.7	星和子	2006	46
油41	作品名不詳〔裸婦2〕	野島康三	1920年代か	油彩、カンヴァス	25.0×17.7	星和子	2006	46
水79	作品名不詳〔裸婦〕	野島康三	制作年不詳	鉛筆、紙	28.0×21.5	星和子	2006	47
写463	湖	土浦信子	1938 (昭和13)年頃	ゼラチンシルバープリント	27.2×22.8	中村常子	2010	
写464	作品名不詳〔皿〕	土浦信子	1938 (昭和13)年頃	ゼラチンシルバープリント	30.4×25.0	中村常子	2010	
写465	作品名不詳〔人形〕	土浦信子	1938 (昭和13)年頃	ゼラチンシルバープリント	21.8×14.3	中村常子	2010	
写466	作品名不詳	野島稲子	1930年代後半	ゼラチンシルバープリント	30.0×25.0	松永田鶴江	1993	
写467	Typical Japanese Modern Girl 〔1〕	野島康三	1939(昭和14)年	ゼラチンシルバープリント	37.8×30.4	松永田鶴江	1993	39
写468	Typical Japanese Modern Girl 〔2〕	野島康三	1939(昭和14)年	ゼラチンシルバープリント	37.8×30.4	松永田鶴江	1993	
写469	無題 〔佐藤田鶴江像・毛糸帽子〕	野島康三	1939(昭和14)年	ゼラチンシルバープリント	38.5×30.5	松永田鶴江	1993	41
写470	無題 〔佐藤田鶴江像・毛糸帽子正面〕	野島康三	1939(昭和14)年	ゼラチンシルバープリント	38.5×30.5	松永田鶴江	1993	42
写471	無題〔佐藤田鶴江像・笠1〕	野島康三	1939(昭和14)年	ゼラチンシルバープリント	38.6×30.5	松永田鶴江	1993	40
写472	無題〔佐藤田鶴江像・笠2〕	野島康三	1939(昭和14)年	ゼラチンシルバープリント	38.6×30.5	松永田鶴江	1993	
写473	無題〔佐藤田鶴江像・スキー〕	野島康三	1939(昭和14)年	ゼラチンシルバープリント	35.9×30.5	松永田鶴江	1993	38
写474	ぎんれい花〔1〕	野島康三	1939(昭和14)年	ゼラチンシルバープリント	36.1×30.4	松永田鶴江	1993	44
写475	ぎんれい花〔2〕	野島康三	1939(昭和14)年	ゼラチンシルバープリント	29.0×25.7	松永田鶴江	1993	
写476	作品名不詳〔モデル1〕	野島康三	1938-39 (昭和13-14)年	ゼラチンシルバープリント	30.5×30.4	松永田鶴江	1993	43
写477	作品名不詳〔モデル2〕	野島康三	1938-39 (昭和13-14)年	ゼラチンシルバープリント	34.8×30.7	松永田鶴江	1993	31
写478	無題〔和子と田鶴江〕	野島康三	1938-39 (昭和13-14)年	ゼラチンシルバープリント	29.3×23.0	松永田鶴江	1993	34
写479	作品名不詳〔さざえ〕	野島康三	1938-39 (昭和13-14)年	ゼラチンシルバープリント	30.0×25.4	松永田鶴江	1993	32
写480	作品名不詳〔浜辺〕	野島康三	1938-39 (昭和13-14)年	ゼラチンシルバープリント	25.9×24.2	松永田鶴江	1993	37
写481	作品名不詳〔鬼押し出し〕	野島康三	1938-39 (昭和13-14)年	ゼラチンシルバープリント	15.4×23.1	松永田鶴江	1993	36
写482	作品名不詳 〔佐藤田鶴江像・ストール〕	野島康三	1938-39 (昭和13-14)年	ゼラチンシルバープリント	27.6×25.3	松永田鶴江	1993	38
写483	on a Plateau	野島康三	1939(昭和14)年	ゼラチンシルバープリント	35.5×29.7	松永田鶴江	1993	36
写484	作品名不詳〔花つみ1〕	野島康三	1938-39 (昭和13-14)年	ゼラチンシルバープリント	23.0×28.5	松永田鶴江	1993	35
写485	作品名不詳〔花つみ2〕	野島康三	1938-39 (昭和13-14)年	ゼラチンシルバープリント	30.3×25.0	松永田鶴江	1993	35
写486	作品名不詳〔白菜〕	野島康三	1938-39 (昭和13-14)年	ゼラチンシルバープリント	29.5×33.3	松永田鶴江	1993	32
写487	白菜	野島康三	1938 (昭和13)年頃	ゼラチンシルバープリント	35.5×29.5	松永田鶴江	1993	33
写488	和子像	野島康三	1940(昭和15)年	ゼラチンシルバープリント	35.0×29.0	星和子	2006	127
写489	Y君肖像	野島康三	1920(大正9)年	ゴム印画	22.7×21.8	山崎定人	2007	25
写490	女の顔〔土浦信子像〕	野島康三	1933(昭和8)年	ゼラチンシルバープリント	55.2×41.7	中村常子	2010	26
写491	女の顔	野島康三	1933(昭和8)年	ゼラチンシルバープリント	44.0×40.0	中村常子	2010	27
写492	女の顔	野島康三	1933(昭和8)年	ゼラチンシルバープリント	55.2×41.2	中村常子	2010	28
写493	女	野島康三	1933(昭和8)年	ゼラチンシルバープリント	29.0×24.0	中村常子	2010	29
写494	作品名不詳〔土浦信子像1〕	野島康三	1938 (昭和13)年頃	ゼラチンシルバープリント	12.0×9.2	中村常子	2010	30

目録 番号	タイトル	作者	制作年	材質技法	サイズ 縦×横 (cm)	寄贈者 (敬称略)	寄贈 年度	「資料集」 掲載頁
写495	作品名不詳[土浦信子像2]	野島康三	1938 (昭和13)年頃	ゼラチンシルバープリント	27.7×22.7	中村常子	2010	30
写516	扉	松永(佐藤) 田鶴江	1938-39 (昭和13-14)年	ゼラチンシルバープリント	28.8×22.5	松永田鶴江	1993	158
写517	作品名不詳 [洗濯場・野々宮ビル]	松永(佐藤) 田鶴江	1938-39 (昭和13-14)年	ゼラチンシルバープリント	30.0×23.8	松永田鶴江	1993	158
写518	作品名不詳[薔薇・野々宮ビル]	松永(佐藤) 田鶴江	1938-39 (昭和13-14)年	ゼラチンシルバープリント	28.4×24.8	松永田鶴江	1993	159
写519	作品名不詳[女性友人]	松永(佐藤) 田鶴江	1938-39 (昭和13-14)年	ゼラチンシルバープリント	30.3×25.0	松永田鶴江	1993	
写520	作品名不詳[野島父娘]	松永(佐藤) 田鶴江	1938-39 (昭和13-14)年	ゼラチンシルバープリント	33.8×26.9	松永田鶴江	1993	
写521	作品名不詳[野島稲子像]	松永(佐藤) 田鶴江	1938-39 (昭和13-14)年	ゼラチンシルバープリント	29.2×23.6	松永田鶴江	1993	
写522	作品名不詳[三番町野島邸]	松永(佐藤) 田鶴江	1938-39 (昭和13-14)年	ゼラチンシルバープリント	29.7×25.3	松永田鶴江	1993	159
写523	作品名不詳[やつで]	松永(佐藤) 田鶴江	1938-39 (昭和13-14)年	ゼラチンシルバープリント	28.0×25.4	松永田鶴江	1993	
写639	木喰上人作木彫仏	山崎静村	1925 (大正14)年頃		15.0×11.3	星和子	2006	157
写640	木喰上人作木彫仏	山崎静村	1925 (大正14)年頃		14.9×10.7	星和子	2006	
写641	木喰上人作木彫仏	山崎静村	1925 (大正14)年頃		14.1×11.1	星和子	2006	
写642	木喰上人作木彫仏	山崎静村	1925 (大正14)年頃		14.2×11.1	星和子	2006	
写643	木喰上人作木彫仏	山崎静村	1925 (大正14)年頃		14.3×11.3	星和子	2006	
写644	木喰上人作木彫仏	山崎静村	1925 (大正14)年頃		15.0×11.0	星和子	2006	157
写645	木喰上人作木彫仏	山崎静村	1925 (大正14)年頃		15.5×11.9	星和子	2006	
写646	木喰上人作木彫仏	山崎静村	1925 (大正14)年頃		13.8×11.1	星和子	2006	
写647	木喰上人作木彫仏	山崎静村	1925 (大正14)年頃		14.7×10.3	星和子	2006	
写648	木喰上人作木彫仏	山崎静村	1925 (大正14)年頃		15.1×11.3	星和子	2006	
写649	木喰上人作木彫仏	山崎静村	1925 (大正14)年頃		15.3×11.0	星和子	2006	
写650	木喰上人作木彫仏	山崎静村	1925 (大正14)年頃		14.4×10.6	星和子	2006	
写651	志賀直哉 一家	山崎静村	1920-30年代	ゼラチンシルバープリント	10.1×15.8	山崎定人	2007	92
写652	岸田劉生と武者小路一家	山崎静村	1920-30年代	ゼラチンシルバープリント	13.2×10.0	山崎定人	2007	92
写653	武者小路と犬	山崎静村	1920-30年代	ゼラチンシルバープリント	14.4×10.3	山崎定人	2007	92
写654	武者小路夫妻と岸田劉生	山崎静村	1920-30年代	ゼラチンシルバープリント	8.8×14.0	山崎定人	2007	156
写655	武者小路実篤	山崎静村	1920-30年代	ゼラチンシルバープリント	14.3×9.1	山崎定人	2007	156
写656	岸田劉生	山崎静村	1920-30年代	ゼラチンシルバープリント	14.1×10.1	山崎定人	2007	156
写657	少年立像	山崎静村	1920-30年代	ゼラチンシルバープリント	14.7×6.5	山崎定人	2007	63
写658	少年 VRAIE et BELL	山崎静村	1920-30年代	ゼラチンシルバープリント	14.9×10.5	山崎定人	2007	
写659	小山内薫像	山崎静村	1920-30年代	ゼラチンシルバープリント	13.3×10.6	山崎定人	2007	
写660	阪東箕介	山崎静村	1920-30年代	ゼラチンシルバープリント	14.0×9.5	山崎定人	2007	
写661	ベレー帽少年	山崎静村	1920-30年代	ゼラチンシルバープリント	13.9×9.1	山崎定人	2007	
写662	関東大震災	山崎静村?	1920-30年代	ゼラチンシルバープリント	8.6×13.7	山崎定人	2007	
写663	夏目漱石像	山崎静村	1920-30年代	ゼラチンシルバープリント	13.7×9.5	山崎定人	2007	63
写664	夏目漱石像	山崎静村	1920-30年代	ゼラチンシルバープリント	13.7×9.5	山崎定人	2007	63
写665	木喰上人作仏像	山崎静村	1920-30年代	ゼラチンシルバープリント	14.9×10.8	山崎定人	2007	
写666	木喰上人作仏像	山崎静村	1920-30年代	ゼラチンシルバープリント	14.7×11.1	山崎定人	2007	
写667	山崎静村像(野々宮時代)	山崎静村	1920-30年代	ゼラチンシルバープリント	14.4×9.4	山崎定人	2007	
写668	山崎静村像(三笠時代)	山崎静村	1920-30年代	ゼラチンシルバープリント	13.5×9.2	山崎定人	2007	63

【表2】資料(手記、原稿、目録、案内状、スケッチ等)

No.	タイトル	制作年	備考(枚数、内容等)	資料集掲載頁
資料類				
1	浦和 野島新左エ門宛 (差出人 相模鎌倉大佛高德院)	1889(明治22)年11月26日		53
2	野島家戸籍	明治期		54
3	野島康三 スケッチ 1	1906(明治39)年10月7日	両面	59
4	野島康三 スケッチ 2 汽車中ニテ	1906(明治39)年11月25日	両面	59
5	例会記録書	1907(明治40)年		
6	兵役ヲ免ズ	1911(明治44)年5月15日		55
7	野島泰次郎 弔詞	1924(大正13)年9月24日		54-55
8	初子見合いのためのメモ	不詳		
9	野島康三系図	不詳	1枚	
10	野島家家系図	不詳	5枚	
11	目録	不詳	5枚。文台、経机、食籠、煙草入セットなど	
12	請求書(陶香堂より)	1929(昭和4)年6月27日	125円 焼き物などを購入 東京市京橋区南鍋町一丁目四番地 竹井ビル三階 陶香堂 有尾佐治	
13	野島コレクションメモ	1945(昭和20)年以降	戦後にコレクションを整理した際のメモか	138
14	年賀状各種(未使用、試し刷りか)	1926(大正15)年、1928(昭和3)年、1929(昭和4)年、1930(昭和5)年	4枚	
15	野島 原稿下書き 1	1932-33(昭和7-8)年	全日本民芸品展覧会チラシ裏「本号には二枚の応募作品を載せることが出来て…」	
16	野島 原稿下書き 2	1932-33(昭和7-8)年	文房堂原稿用紙「人物(肖像)を写すもいろいろ、あると思ふ…」	
17	野島 原稿下書き 3	1932-33(昭和7-8)年	罫紙「過日は久しぶりで御目にかかれて…」	
18	野島 原稿下書き 4 (『光画』草稿)	1932-33(昭和7-8)年	光画原稿用紙「十二月上旬木村伊兵衛さんの作品…」	100
19	野島 原稿下書き 5	1932-33(昭和7-8)年	罫紙「雑記 野島 三号の写真版、極めて不出来で申し訳ない…」	
20	手帳〔1〕(戦時中の日記)	1943(昭和18)年		135
21	手帳〔2〕(戦時中の日記)	1944(昭和19)年		135
22	日記 軽井沢	1944-46(昭和19-21)年	昭和19年7月31日～昭和21年8月21日	135
23	ポリタミン広告の複写(馬に乗る和子の写真を使用) 『読売新聞』撮影:野島康三	1937(昭和12)年11月12日		126
24	長谷川如是閑『Girls of Japan』JPS Picture Books (国際報道写真協会)	1934(昭和9)年		125
25	第4回国画会展出品作絵葉書《裸婦》	1929(昭和4)年5月		91
26	第4回国画会展出品作絵葉書《裸婦立像》	1929(昭和4)年5月		91
27	絵葉書(国画会展出品作 ぎんれい花)	1939(昭和14)年		137
28	絵葉書 第十五回国画会展覧会 (ぎんれいの花) 野島康三作	1940(昭和15)年		137
29	絵葉書 第十五回国画会展覧会 (チュリップ) 野島康三作	1940(昭和15)年		137
30	安井曾太郎《女》(第四回二科會)絵葉書	1915(大正4)年 か		
31	土方定一 借用書	1965(昭和40)年2月23日		
32	弦田平八郎 和子宛借用書	1966(昭和41)年11月3日		
33	木喰の作品写真	不詳	写真野々宮の袋に「木食(ママ)上人作木彫佛像」「野島」と記入あり	
34	『木喰五行上人 和歌抄』	不詳		
35	アイヌの写真	不詳		
36	日本フォト・センター株式会社 パーク・スタジオ封筒	不詳		
37	さくら印画紙 八重 温調引伸用 東京六櫻社 外袋	不詳		

No.	タイトル	制作年	備考(枚数、内容等)	『資料集』掲載頁
<b>兜屋、展覧会関係</b>				
39	富本憲吉氏作品展覧会 案内状	1921(大正10)年12月	竹早町野島邸	87
40	野島邸岸田劉生展案内状	1922(大正11)年5月20日		82
41	岸田劉生個人展覧会出品目録	1922(大正11)年5月	竹早町野島邸 1922年夏半期作品	82
42	野島邸案内図	1922(大正11)年5月	竹早町野島邸	82、83
43	鐵人日本画展覧 案内状	1922(大正11)年7月	竹早町野島邸	146
44	鐵人日本画展覧 挨拶状	1922(大正11)年7月	竹早町野島邸	83
45	萬鐵人日本画展覧会目録	1922(大正11)年7月	竹早町野島邸	83
46	兼霞堂岸田劉生日本画小品展案内状	1922(大正11)年9月28日		72
47	横堀角次郎個人展覧会 招待状	1922(大正11)年10月	竹早町野島邸 横堀角次郎・岸田劉生	84
48	横堀角次郎油絵個人展覧会 出品目録	1922(大正11)年10月	竹早町野島邸	84
49	小林徳三郎個人展覧会 案内状	1922(大正11)年12月	竹早町野島邸	85
50	小林徳三郎個人展覧会目録	1922(大正11)年12月	竹早町野島邸	85
51	封筒 大正十一年十二月小林徳三郎氏個展会場及集合記念	1922(大正11)年12月	兜屋の名前入り	85
52	野島康三 封筒	1922(大正11)年	「竹早町宅・(大正十一年)展観紀(ママ)念 富本 萬 小林 横堀」と記入あり	なし
53	新聞切り抜き「小林徳三郎君の個展 萬鐵五郎」	1922(大正11)年	出典不明	
54	新聞切り抜き「小林徳三郎氏個展」	1922(大正11)年	出典不明	
55	新聞切り抜き「横堀角次郎君の畫に就いて 中川一政」	1922(大正11)年	出典不明	
56	新聞切り抜き「萬鐵五郎君の日本畫展 小林徳三郎」	1922(大正11)年	出典不明	
57	堀進二宛 兜屋閉堂案内状	1920(大正9)年6月		79
58	兜屋画堂披露宴招待状	1919(大正8)年3月25日		74
59	兜屋画堂案内状(開堂)	1919(大正8)年5月		74
60	兜屋画堂案内状(石井鶴三第一期発表会)封筒あり	1920(大正9)年正月		75
61	兜屋画堂案内状「鍋井克之氏作品個人展覧会」	1920(大正9)年2月		75
62	兜屋画堂案内状「中川一政氏個人展覧会」封筒あり	1920(大正9)年4月		75
63	兜屋画堂案内状(恩地孝四郎個人展覧会)	1920(大正9)年4月		75
64	兜屋画堂案内状「大森商二氏素描第二回個人展覧会」	1920(大正9)年5月		75
65	兜屋画堂案内状「山崎省三氏作品(油彩・素描)展覧会」	1920(大正9)年5月		75
66	兜屋画堂案内状「小山敬三氏作品(油絵・素描)展覧会」	1920(大正9)年5月		75
67	堀進二宛「富本憲吉氏作品展覧会」	1921(大正10)年11月または12月	封筒あり	
68	兜屋封筒(堀進二宛)	不詳		146
69	石井鶴三 第一期製作発表会 目録(兜屋画堂)	1920(大正9)年1月	写真2点、出品リスト、マークと住所	79
70	『中原悌二郎作品集』	1921(大正10)年		147~155
71	兜屋蔵章(富本憲吉、中川一政、清宮彬)	1923(大正12)年	全10枚、同種あり	145
72	「自家展覧会 案内状 目録」	不詳	封筒あり(野島用)	

『光画』関係				
73	『光画』挨拶状	1932(昭和7)年3月	同人 木村伊兵衛、中山岩太、野島康三 発行者 秋葉啓	97
74	芸樹写真雑誌 『光画』趣意及内容	1932(昭和7)年4月	光画同人 木村伊兵衛、中山岩太、野島康三 発行所 東京 聚楽社	98
75	『光画』同人封筒	1932(昭和7)年	光画同人 木村伊兵衛、中山岩太、野島康三 発行者 秋葉啓	97
76	『光画』草稿ノート	1932(昭和7)年頃	野島康三	95

野々宮関係				
77	『nonomiya vol.1』野々宮写真館機関誌	1934(昭和9)年		131
78	野々宮アパートメントパンフレット(複写)	1936(昭和11)年		124

No.	タイトル	制作年	備考(枚数、内容等)	『資料集』掲載頁
79	野々宮控帳	1936(昭和11)年	図面、居住者名簿	121、122
80	野々宮写真館軽井沢出張所 封筒	不詳		
81	写真野ノ宮 袋	不詳		

書籍、雑誌				
81	『梅原龍三郎近作画集(普及版)』石原求龍堂、1942(昭和17)年3月25日発行			
82	上野直昭著、小川晴陽写真『上代の彫刻』朝日新聞社、1942(昭和17)年6月25日発行			
83	野間清六編『埴輪美』聚楽社、1942(昭和17)年11月5日発行			
84	『宗元名畫集』第一輯～第五輯			
85	野島康三遺作集刊行会編集『野島康三遺作集』日本フォトセンター株式会社発行、1965(昭和40)年6月18日発行(装幀・本文レイアウト:原弘、非売品)			
86	『写真報国』写真報国編集、大阪近江屋写真用品株式会社発行 昭和10年 4月(第86号) 1冊 昭和10年 9月(第91号) 2冊 昭和10年10月(第92号) 4冊 昭和10年11月(第93号) 2冊 昭和10年12月(第94号) 1冊 昭和11年 1月(第95号) 2冊 昭和11年 2月(第96号) 1冊 昭和11年 3月(第97号) 4冊 昭和11年 7月(第101号) 1冊 昭和11年 9月(第103号) 1冊 昭和11年10月(第104号) 2冊 昭和12年 9月(第115号) 1冊 昭和12年10月(第116号) 1冊 昭和13年 2月(第120号) 1冊 昭和13年 3月(第121号) 1冊 昭和13年 5月(第123号) 1冊			

【表3】写真資料

No.	タイトル	撮影者	撮影年月日	撮影場所	備考(枚数、確認できる人物等)	『資料集』掲載頁
写真資料						
1	母かくと		1890年代初頭			56
2	野島康三		1900 (明治33)年頃			56
3	竹早町自宅の野島康三		1901-02 (明治34-35)年頃			
4	妹・千代と		1902-03 (明治35-36)年頃			56
5	野島泰次郎像	野島康三	1906-10 (明治39-43)年頃			58
6	セルフポートレート		1906-10 (明治39-43)年頃			587
7	稲垣従兄弟中村豊次と野島康三		1907(明治40)年 3月28日			56
8	小学校時代の同級生と		1907(明治40)年 6月9日			56
9	窓辺の野島康三		1909 (明治42)年頃			57
10	友人と		1910年代か	自宅か		57
11	野島泰次郎	野島康三	1910年代か	小石川水道町宅		59
12	舞台での父泰次郎		1910年代か			55
13	路上スナップ	野島康三	1906-10 (明治39-43)年頃			59
14	妹・千代	野島康三	1906-10 (明治39-43)年頃	水道町自宅か		58
15	不明(女性)		不詳(明治時代)			
16	不明(女性2人)		不詳(明治時代)			
17	東京写真研究会展か		1910(明治43)年	上野・竹之台陳列館か	「明治四十三年三月某日 雨ふる寒い夜 第一回展覧会々場にて 寄せ鍋会 宮内、長谷川、小西、結城、桑、久西、工藤、柵橋、軍地、荻生田、榎本貞徑」と記入あり	61
18	野島康三		明治末か			56
19	野島康三		明治末か			56

No.	タイトル	撮影者	撮影年月日	撮影場所	備考(枚数、確認できる人物等)	「資料集」 掲載頁
20	慶応義塾パレット倶楽部撮影会か		1900年代か			60
21	浪華写真倶楽部有志主催歓迎会		1912(大正元)年 10月21日	播半	「大正元年十月廿一日夜 大阪播半にて 浪華写真倶楽部 有志主催 歓迎会 芦田閑月、宗得蕪湖、青木葉嶺、吉田支芳、野島、森一兵、はる、佐々木基水、えい、桑田潤山」と記入あり	62
22	東京写真研究会撮影会にて		1914(大正3)年 6月7日	武州長瀬の宿	「東京写真研究会撮影会 武州長瀬 久野徹輔、荻生田文太郎、康三二十六才」と記入あり	62
23	野島靖代、中尾福		1915(大正4)年 1月7日	池田写真館(本郷元町二丁目)		
24	野島康三		1915 (大正4)年頃か	三笠写真館内部か		57
25	野島康三		1915 (大正4)年頃か	三笠写真館内部か		57
26	油彩画を描く野島康三		1920年代	竹早町自宅の画室	2枚	57 (1枚掲載)
27	地鎮祭の野島		1920 (大正9)年頃	竹早町か		66
28	岸田劉生個人展覧会会場	山崎静村	1922(大正11)年 5月	竹早町野島邸		82
29	横堀角次郎個展 記念写真		1922(大正11)年 10月		清宮彬、木平徳蔵、中川一政、横堀角次郎、野島、河野通勢	84
30	小林徳三郎個展 記念撮影		1922(大正11)年 12月		中央が小林、左に野島、埴原久和代	86
31	小林徳三郎個展 会場写真		1922(大正11)年 12月		4枚	85、86
32	(家族集合写真)		1923(大正12)年 2月			
33	富本憲吉展 会場風景 1		1924(大正13)年 5月	竹早町野島邸		88
34	富本憲吉展 会場風景 2		1924(大正13)年 5月	竹早町野島邸		88
35	富本憲吉展 会場風景 3		1924(大正13)年 5月	竹早町野島邸		89
36	富本憲吉展 会場風景 4		1924(大正13)年	竹早町野島邸		87
37	中禅寺湖畔の梅原龍三郎と野島稲子	野島康三	1925(大正14)年 10月	中禅寺湖	7枚	173
38	富本憲吉展覧会記念写真		1925(大正14)年 5月12日	竹早町自宅庭	小林徳三郎、富本憲吉、川島理一郎、野島、書生	89
39	野島稲子像	野島康三	1925 (大正14)年頃	竹早町自邸画室		64
40	和装の野島夫妻		1925 (大正14)年頃			
41	画室の野島夫妻		1925 (大正14)年頃	竹早町自邸の画室		64
42	庭にて		1926(大正15/ 昭和元)年頃	富本の新宿戸塚の仮寓先か	野島康三、富本憲吉	
43	野島康三	鹿兒島治朗	1927(昭和2)年	軽井沢	中国服姿	
44	千歳村(祖師谷)の富本憲吉新居にて		1928(昭和3)年		長男壯吉を抱く富本一枝、中江百合、福原信三、野島稲子、富本憲吉、福原やう、野島康三	
45	梅原龍三郎デッサン展会場にて		1928(昭和3)年 10月	竹早町野島邸	アトリエ社写真部スタンプ	90
46	野島一家		1929 (昭和4)年頃	野々宮写真館	野島、和子、稲子	65
47	密着焼 稲子と和子		1930(昭和5)年			

No.	タイトル	撮影者	撮影年月日	撮影場所	備考(枚数、確認できる人物等)	「資料集」掲載頁
48	神明宮御祭礼 水道町自邸		1930(昭和5)年 6月21日	水道町自宅庭	2枚	66
49	野島一家		1931(昭和6)年 9月4日	軽井沢別荘の庭	初子、野島、和子、稲子	64
50	和子像	中山岩太	1932-33 (昭和7-8)年頃	三番町自邸	全6枚。3枚はproofと書かれている。野島筆跡による「中山岩太撮影」と書かれた写真野々宮の袋に入っている	116
51	野島家パーティー 集合写真		1933(昭和8)年 2月15日	三番町自邸か	稲子、梅原夫人、野島、土浦信子、紅良、土浦、初子、西川	
52	「野島康三作・写真女の顔・20点」会場風景		1933(昭和8)年 7月	銀座・紀伊国屋画廊	伊奈信男、野島康三、木村伊兵衛	99
53	撮影会記念写真		1933-39 (昭和8-14)年頃		2枚。初子、モデル2人(ひとりとは樋田)、和子、稲子、佐藤田鶴江、野島	127
54	セルフポートレート	野島康三	1934(昭和9)年 3月25日	三番町自邸書斎		111
55	母かく		1934(昭和9)年 4月27日			55
56	軽井沢三度山にて 野島家スナップ		1935(昭和10)年			127
57	袋 下掛宝生会 宝生新 方		1935(昭和10)年 5月		「1935 軽井沢 三度山 岩村田」の記載あり No.56「軽井沢三度山にて 野島家スナップ」が入っていた袋か	
58	会場の梅原龍三郎	野島康三か	1935(昭和10)年 5月	竹早町野島邸	2枚	90
59	(野島家パーティー写真?)		1935(昭和10)年 9月3日		2枚	
60	野島家パーティー集合写真	田川勇	1935(昭和10)年 11月		桑田ゑそ子、藤野健、初子、山田肇、鍵富百合子、有松誠子、村田政真、土浦信子、小安三平、稲子、山田正子、藤野正彦、山田清子、上中省三、藤野節子、鷺崎林子、野島、桑田員弘、鈴木俊雄、佐々木猛、藤野忠彦、土浦亀城、野上素一、西川武郎	
61	野々宮ビル落成披露日記念写真		1936(昭和11)年 9月	九段 野々宮ビル	全6枚。ロビー 3枚、屋上3枚(うち1枚の裏面に「アパート玄関 1936.9.28」と記入あり)	122、123
62	野々宮従業員集合写真		1936 (昭和11)年～		堀不佐夫、錦古里孝司、佐久間兵衛、鹿兒島治朗	132
63	(軽井沢での写真か)		1936-37 (昭和11-12)年頃		6枚	
64	野島一家		1938(昭和13)年 6月12日	野々宮写真館	台紙つき	65
65	軽井沢の野島家 スナップ		1938(昭和13)年 9月7-8日		65枚	
66	袋 写真野々宮 軽井沢出張所		1938(昭和13)年 9月7-8日		表に「1938.9.7-8 軽井沢 Leica」との記入あり。No.65「軽井沢の野島家 スナップ」が入っていた袋か	131
67	(岩場での写真 野島、和子、2人不明)		不詳(昭和10～ 13年頃か)			
68	(湖での写真 初子と和子か)		不詳(昭和10～ 13年頃か)			
69	野島康三ポートレート		1939(昭和14)年			129
70	野々宮会展会場		1930年代	銀座・紀伊国屋画廊	錦古里孝司	132
71	集合写真 野々宮写真館 (紀元2600年奉祝美術展覧会記念集合写真か)		1940(昭和15)年 11月10日		梅原龍三郎、富本憲吉、安井曾太郎	134
72	盛装した梅原龍三郎		1940(昭和15)年 11月10日			134

No.	タイトル	撮影者	撮影年月日	撮影場所	備考(枚数、確認できる人物等)	【資料集】 掲載頁
73	従業員の送別会 記念集合写真 裏に「山脇重之助君送別 昭和 十九年二月」記載あり		1944(昭和19)年 2月	三番町自邸庭	右から二人目稲子、和子、母か く、野島 山脇重之助夫妻(自 邸ポイラーマン)	139
74	不明		1948(昭和23)年 7月29日			
75	祖師谷自邸にて 慶応カメラクラブの元メンバー たちと		1950(昭和25)年 4月9日	祖師谷自邸	裏面に「狩野写ス 大佛、掛下、 船山、大谷、藤井、桜井、芳賀 1950_4_9」と記入あり	139
76	和子 軽井沢別荘にて		1950(昭和25)年 9月30日	軽井沢別荘	9枚。密着焼き	
77	祖師谷自邸にて 木村伊兵衛らと		1951(昭和26)年 4月10日	祖師谷自邸	木村伊兵衛、中央野鳥	139
78	国画会展会場にて		1951(昭和26)年 4月	東京都美術館	中川一政夫妻と野鳥。裏面「1951 4_ 国展会場にて 中川一政夫 妻」と記入あり	136
79	野々宮会 集合写真	西村	1952(昭和27)年 2月19日	葉山自邸	裏面「佐久間、西成田、鹿見島、 古館、いね子、康、和子、植松、 吉川、高森、村松、堀、西村写 す 1952_2_19」と記入あり	140
80	国画会展の野鳥夫妻		1953(昭和28)年 4月18日	東京都美術館		136
81	富本憲吉像	吉川富三	1954(昭和29)年	京都か		
82	葉山自邸の野鳥康三	吉川富三	1954(昭和29)年 12月18日	葉山自邸	5枚。浜田庄司の火鉢が見える	143
83	葉山自邸写真(インテリア)		1958(昭和33)年 2月6日		2枚	141
84	国画会審査における野鳥	内田美胤	1958(昭和33)年 4月21日	東京都美術館		136
85	葉山自邸写真	大野松二郎	1958(昭和33)年 4月22日	葉山自邸	8枚。葉山一色の自邸は野鳥の 設計	141
86	水上温泉 松の井ホテル (集合写真)		1958(昭和33)年 6月9日			
87	葉山自邸書斎の野鳥	藤井利雄	1958(昭和33)年 9月21日	葉山町一色		143
88	不明	井上	1962(昭和37)年 6月17日		2枚	
89	一色会 (慶応カメラクラブ同窓会) 集合写真		1963(昭和38)年 4月14日	葉山自邸前	野鳥夫妻とモデルを囲む一色会 メンバー。裏面「勝男、前聖、 芳賀、石川、井上、大谷、石崎 のり子、いね、康井、小林、高 山、大佛 1963_4_14 一色會」と 記入あり	140
90	野鳥康三展記念集合写真		1976(昭和51)年	キッド・アイラッ ク・ホール	藤井、吉川、芳賀、ハナヤ	

写真アルバム						
91	アルバム(青)	詳細は【別表1】 参照のこと				
92	アルバム(康)	詳細は【別表2】 参照のこと				

作品としての写真						
93	婦人像	野鳥康三				
94	にごれる海	野鳥康三				
95	セルフポートレート	野鳥康三				
96	作品名不詳(和子?)	野鳥康三?				
97	読書	野鳥康三	1940(昭和15)年			45
98	Nu	野鳥康三	1958(昭和33)年 10月21日	葉山自邸	全23枚。野鳥によるトリミング 線がある。「Nu」と書かれた封 筒に入った密着焼き	141

No.	タイトル	撮影者	撮影年月日	撮影場所	備考(枚数、確認できる人物等)	「資料集」 掲載頁
ネガ						
1	ネガケース		1958(昭和33)年 10月21日		Model Nu /Rolleiflex Fuji Neopan SS model miss Ui	
2	軽井沢光画社 ネガケース					
3	ネガ入れ 1		1937(昭和12)年、 1946(昭和21)年			
4	ネガ入れ 2		1946-48 (昭和21-23)年			
5	ネガ入れ 3		1947(昭和22)年、 1949-53 (昭和24-28)年			
6	ネガ入れ 4		1946(昭和21)年、 1951(昭和26)年			
7	ネガ PHOTO NONOMIYA		1940-51 (昭和15-26)年		15袋	
8	ネガ FILM 6×6		1951(昭和26)年 6月18日 1953(昭和28)年 10月17日 1959(昭和34)年 4月6日		スード 1951年6月18日13枚 1953年10月17日7枚-モデルNu 1959年4月6日16枚、不明6枚	
9	ネガ(箱 "Dayot" Negative Covers Box) 21袋		1951-62 (昭和26-37)年		ネガ21袋、その他「野島初子様」 宛袋、「金子泰三」の肖像写真、 日本大学工学部昭和16年4月1日 発行の身分証明書等あり	

#### 【別表1】アルバム(青)

野島邸でのパーティーの記念写真や集合写真が所収されるアルバム。野島自身が参加者の名を書き記している。本リストでは、野島の記載と『資料集』の記載双方を参照し、整理して転載した。

No.	タイトル	撮影年月日	撮影場所	確認できる人物	「資料集」 掲載頁
1	兜屋披露宴	1918(大正7)年	上野精養軒	藤井、柚木久太、野島、織田一磨、 石井柏亭、梅原龍三郎、斎藤与里、 正宗得三郎、津田青楓、山本鼎、長 原孝太郎、岡田三郎助、藤島武二、 近藤、小川千麿、山脇信徳、藤井達 吉、高村豊周	74
2	富本憲吉氏作品展覧会 記念集合写真	1921(大正10)年12月19日	竹早町野島邸	江渡狄嶺、梅原龍三郎、柳宗悦、富 本憲吉、岸田劉生、野島、柳敬助 富本一枝、柳兼子、岸田泰	146
3	富本憲吉氏陶器展 記念集合写真	1924(大正13)年5月29日	竹早町野島邸	萬鉄五郎、石井鶴三、野島、野上豊 一郎 富本一枝、富本憲吉、小林徳 三郎	81
4	岸田劉生個展(山崎静村撮影)	1922(大正11)年5月	竹早町野島邸	岸田劉生、野島、河野通勢	83
5	桃源会第一回展覧会	1924(大正13)年11月19日	丸善	山下品藏、竹添履信、野島、青山二 郎、益田信義、斎藤一郎、小林和作、 梅原龍三郎、中川一政	
6	久和会(町会) 1	不詳	小早川竹早町		
7	久和会(町会) 2	不詳	小早川竹早町		
8	すいやう会パーティー集合写真	1932(昭和7)年11月12日	竹早町野島邸	和田、竹内昇、石原龍一、宮田重雄、 益田信義、高橋とも子、東幸六郎、 伊達里子、菊地、土浦亀城、福嶋繁 太郎、野島、伊奈信男、梅原龍三郎、 中山岩太、谷口みどり、竹内夫人、 吉田正子、須江やま、有松得子、野 島初子、梅原紅良、土浦信子、中川 暢子、梅原艶子、野島稲子、梅原成 四、西川武郎、国東清、木村伊兵衛	112
9	すいやう会パーティー 1	1932(昭和7)年11月12日			
10	すいやう会パーティー 2	1932(昭和7)年11月12日			
11	すいやう会パーティー集合写真	1933(昭和8)年5月27日	竹早町野島邸	市浦健、土浦信子、鹿取圭一、東幸 六郎 野島稲子、相良守峰、野島初 子、谷川徹三、莊とよ子、原弘、黒 田米子、板垣鷹穂 長尾みね子、土 浦亀城、谷川夫人、時田、山田田鶴 子、永田一脩、相良夫人、佐々木猛、 田辺ゆき子、山田肇、山内夫人 山 内光、伊奈信男、木村伊兵衛、野島	113

No.	タイトル	撮影年月日	撮影場所	確認できる人物	「資料集」 掲載頁
12	すいやう会パーティー集合写真	1933(昭和8)年2月15日	三番町野島邸	西川武郎、野島初子、土浦亀城、梅原紅良、板垣鷹穂、土浦信子、野島、野島稲子、梅原艶子	113
13	(集合写真)	1935(昭和10)年11月13日			
14	すいやう会パーティー集合写真	1933(昭和8)年12月20日	三番町野島邸	土浦亀城、谷川徹三、村田政真、山田肇、原弘、富永惣一、富永夫人、野島初子、山内夫人、山田夫人、東儀親枝、野島稲子、土浦信子、鏑木泰子、吉田雅子、有松誠子、西川夫人、鷺崎林子、野口彌太郎、西川武郎、野島、佐々木猛、草間寿雄、奥田一夫、斎藤文護	113
15	すいやう会クリスマス・パーティー 集合写真	1934(昭和9)年12月12日	三番町野島邸	田川勇、稲垣、黒田米子、東儀親枝、福嶋繁太郎、谷川徹三、梅原艶子、奥田一夫、村田政真、谷川多喜子、草間、伊村三五子、草間寿雄、野島初子、鷺崎林子、富本陶、茅野節子、富本陽、茅野、市浦健、梅原紅良、エリノア、小林はつ子、土浦信子、荘とよ子、野島稲子、山田夫人、西川、山田正子、有松、奥田ゑそ子、市浦英子、山内夫人、土浦亀城、山田肇、藤野、野上素一、福島慶子、荘、佐々木猛、野島、斎藤文護、西川武郎	114
16	すいやう会クリスマス・パーティー 集合写真	1935(昭和10)年12月21日	三番町野島邸	上中省三、野島初子、伊村三五子、鷺崎林子、村田政真、市浦英子、西川武郎、西川憲、茅野節子、野島稲子、有松誠子、土浦信子、奥田ゑそ子、河瀬すみ子、斎藤文護、土浦亀城、野島、鈴木俊雄、田川勇、野上素一、奥田一夫、市浦健	114
17	『光画』座談会 記念写真	1933(昭和8)年4月21日	三番町野島邸	木村伊兵衛、原弘、山内光、山田肇、伊奈信男、野島、衣笠貞之助、長谷川如是閑、板垣鷹穂、遠藤宏	99
18	(集合写真)	不詳			
19	(集合写真)	1936(昭和11)年6月7日			
20	富士フィルム懸賞写真審査 記念撮影	1936(昭和11)年7月6日		木村伊兵衛、野島	119
21	(集合写真)	不詳			
22	(集合写真)	不詳			
23	(集合写真)	不詳			
24	(集合写真)	不詳			
25	(集合写真)	1933(昭和8)年10月12日			
26	(集合写真)	1934(昭和9)年3月27日			
27	宿泊せる兵隊 十五日から廿七日迄 昭和十四年十一月	1939(昭和14)年11月26日		一等兵 落合秀之助、一等兵 前沢利廣、上等兵 高波男三郎、伍長 安達保、伍長 井坂強、上等兵 宮永仁	
28	(集合写真)	1934(昭和9)年			
29	(宴会風景)	1936(昭和11)年12月4日			
30	土浦邸にて	1933(昭和8)年10月6日	五反田土浦邸	野島稲子、市浦健、野口彌太郎、村田政真、土浦亀城、野口菊枝、土浦信子、背後の鏡のなかに野島	115
31	謡会 記念写真 伊藤さん松山より上京 謡会 三輪、砧、山姥	1942(昭和17)年9月29日	祖師谷野島邸	野島、安倍能成、野島稲子、伊藤秀夫、野上豊一郎、高浜清(虚子)、宝生新	230
32	(野島邸サロンにて)	1930年代	一番町野島邸		
33	(梅原龍三郎 熱海?)	不詳			
34	(野島)	不詳			
35	野島邸にて	1930年代			115
36	(野島康三、稲子?)	不詳	三番町野島邸		
37	富本憲吉氏陶器展	1924(大正13)年	竹早町野島邸		88

## 【別表2】アルバム(康)

本アルバムに所収される写真は、全て野島の後輩や教え子たちが撮影したもの。撮影年月日と撮影者の名前が記入されている。

No.	タイトル	撮影者	撮影年月日	『資料集』掲載頁
1	野島康三ポートレート(国会会出品)	吉川富三	1956(昭和31)年3月18日	144
2	野島康三ポートレート(東京写真研究会展出品)	吉川富三	1956(昭和31)年3月18日	
3	野島康三ポートレート(祖師谷の家にて)	吉川富三	1951(昭和26)年7月8日	142
4	野島康三ポートレート 2枚(軽井沢)	Funayama	1951(昭和26)年8月11日	142
5	野島康三と和子	佐藤田鶴江	1939(昭和14)3月9日	129
6	レディス・カメラ・クラブ撮影会風景	津田三重子	1938(昭和13)年4月10日	128
7	野島康三ポートレート	佐藤田鶴江	1939(昭和14)年	129
8	(野島康三ポートレート、庭での写真 5枚)(軽井沢)		1946(昭和21)年7月31日	
9	雨上り(軽井沢 藤井氏宅にて)	小寺	1946(昭和21)年7月31日	
10	(野島康三ポートレート)(軽井沢)	小寺	1946(昭和21)年7月31日	
11	(野島康三ポートレート)		1946(昭和21)年	
12	猫	小寺	1946(昭和21)年7月31日	
13		Mrs. Y. Shimada	1937(昭和12)年7月25日	
14		Miss. M. Miyamoto	1937(昭和12)年5月23日	
15		Miss. T. Sato	1937(昭和12)年	
16		記載なし	1938(昭和13)年2月27日	
17		Mr. M. Nemoto	1938(昭和13)年2月27日	
18		Miss. M. Tsuda	1938(昭和13)年4月10日	
19		Mrs. A. Hoshi	1938(昭和13)年4月10日	
20		Mrs. Ayako Hoshi	1938(昭和13)年4月10日	
21		Mrs. Y.Kuroda	1938(昭和13)年4月10日	
22	レディス・カメラクラブ撮影会風景	Miss. Mieko Tsuda (津田三重子)	1938(昭和13)年4月10日	128
23		K. Nishigori	1938(昭和13)年6月18日	
24		Miss. T. Sato	1938(昭和13)年	
25		Miss. N. Tsuchiura	1938(昭和13)年5月1日	
26		Miss. N. Tsuchiura	1938(昭和13)年5月1日	
27		Miss. M. Tsuda	1938(昭和13)年8月10日	
28		Miss. M. Tsuda	1938(昭和13)年8月10日	
29		Miss. M. Tsuda	1938(昭和13)年8月11日	
30		Miss. M. Tsuda	1938(昭和13)年8月11日	
31		Miss. M. Tsuda	1938(昭和13)年8月11日	
32		Miss. M. Tsuda	1938(昭和13)年8月20日	
33		Miss. T. Sato	1938(昭和13)年9月7日	
34		Miss. M. Tsuda	1938(昭和13)年9月18日	
35		Miss. Hatsuko	1938(昭和13)年9月18日	
36		記載なし	記載なし	
37		Miss. M. Tsuda	1938(昭和13)年9月26日	
38		Mr. M. Kudo	1938(昭和13)年9月26日	
39		Ineko N.	1939(昭和14)年1月7日	
40		Ineko N.	1939(昭和14)年3月5日	
41		Ineko N.	1939(昭和14)年3月9日	
42		Ineko N.	1939(昭和14)年3月5日	
43	野島康三と和子	Miss. T. Sato (佐藤(松永)田鶴江)	1939(昭和14)年3月9日	129
44		Miss. T. Sato	1939(昭和14)年3月9日	
45		Miss. T. Sato	1939(昭和14)年3月9日	
46		Miss. T. Sato	1939(昭和14)年	
47		Mr. T. Takayama	1940(昭和15)年	

No.	タイトル	撮影者	撮影年月日	「資料集」 掲載頁
48	野島康三ポートレート	Miss. T. Sato (佐藤(松永)田鶴江)	1939(昭和14)年	129
49		Miss. Kondo	1939(昭和14)年3月19日	
50		記載なし	1939(昭和14)年3月19日	
51		Mr. S. Yamaguchi	1939(昭和14)年6月10日	
52		Mr. S. Inoue	1939(昭和14)年6月10日	
53		Mr. T. Kimura	1939(昭和14)年6月10日	
54		Ineko N.	1939(昭和14)年	
55		Mr. S. Ito	1939(昭和14)年6月10日	
56		Miss. T. Sato	1939(昭和14)年	
57		記載なし	1937(昭和12)年5月	
58		Mr. T. Fujii	1940(昭和15)年	
59		Mr. T. Fujii	1940(昭和15)年	
60		Mr. K. Murai	1940(昭和15)年	
61		Mr. K. Murai	1940(昭和15)年	

【表4】野島宛書簡

凡例

個人宅の住所のうち番地の記載があるものは、本リスト上ではアルファベット(A、B、C等)で記した。同じ人物の住所でアルファベットが同じものは同じ番地である。

日付は、手紙や封書に記載された年月日を優先し、書かれていないものは消印を参照した。

No.	住所、差出人	宛先、宛名	日付	備考(種類等)	「資料集」 掲載番号
<b>安倍能成</b>					
1	淀橋区下落合A 安倍能成	麴町区三番町 野島康三様	昭和年不詳10月16日	絵はがき	Ab-1
2	淀橋区下落合A 安倍能成	麴町区三番町 野島康三様	1934(昭和9)年4月10日	はがき	Ab-2
3	淀橋区下落合A 安倍能成	麴町区三番町A-1 野島康三様	1934(昭和9)年12月28日	はがき	Ab-3
4	淀橋区下落合A 安倍能成	麴町区三番町A-1 野島康三様	1942(昭和17)年9月15日	はがき	Ab-4
<b>有島武郎</b>					
5	有島武郎	小早川区竹早町 野島様	1915(大正4)年(?) 12月25日	封書	Ar-2
6	有島武郎	封筒なし	年不詳11月2日	封筒なし	Ar-1
<b>石井柏亭</b>					
7	荒川区日暮里渡辺町 石井柏亭	信州軽井沢G-1 野鷲(ママ)康三様	1933(昭和8)年8月24日	封書	Ih-1
8	荒川区日暮里渡辺町 石井柏亭	麴町区三番町A-1 野島康三様	1934(昭和9)年2月25日	封書 本文は印刷(石井柏亭、石井貞次、石井鶴三連名)	Ih-2
<b>石井鶴三</b>					
9	府下板橋町中丸 石井鶴三	小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1922(大正11)年11月7日	封書	It-1
10	板橋町中丸 石井鶴三	小石川区竹早町C-1 野島康三様	1926(大正15)年3月22日	封書	It-2
11	板橋町中丸A 石井鶴三	麴町区一番町B 野島熙正様	1930(昭和5)年2月2日	封書	It-3
<b>梅原龍三郎</b>					
12	京都市綾小路通 油小路東入 梅原龍三郎	東京市神田区裏神保町兜屋画堂 にて 野島様	1920(大正9)年5月15日	封書	U-1
13	鎌倉材木座A 梅原龍三郎	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1921(大正10)年12月6日	封書	U-2
14	鎌倉材木座A 梅原龍三郎	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1922(大正11)年(?) 2月15日	封書	U-3
15	相州鎌倉材木座A 梅原龍三郎	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1922(大正11)年2月21日	封書	U-4
16	鎌倉材木座A 梅原龍三郎	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1922(大正11)年3月7日	はがき	U-5

No.	住所、差出人	宛先、宛名	日付	備考(種類等)	【資料集】 掲載番号
17	相州鎌倉材木座 梅原龍三郎	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1922(大正11)年3月23日	封書、書留	U-6
18	相州鎌倉材木座 梅原龍三郎	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1922(大正11)年6月2日	封書、書留	U-7
19	梅原龍	東京市小石川区竹早町 野嶋(ママ)熙正様	1922(大正11)年6月19日	絵はがき	U-8
20	麻布区新瀧土町B 梅原龍三郎	小石川区竹早町C-1 野嶋(ママ)熙正様	1922(大正11)年8月12日	はがき	U-9
21	梅原龍三郎	小石川区竹早町C-1 野嶋(ママ)熙正様	1922(大正11)年10月28日	封書	U-10
22	麻布新瀧土町B 梅原龍三郎	小石川区竹早町C-1 野嶋(ママ)熙正様	1924(大正13)年1月29日	封書	U-11
23	麻布新瀧土町B 梅原龍三郎	小石川区竹早町C-1 野嶋(ママ)熙正様	1924(大正13)年3月13日	封書	U-12
24	京都市醒ヶ井四条南 梅原長兵衛 方 梅原龍三郎	小石川区竹早町C-1 野嶋(ママ)熙正様	1924(大正13)年4月1日	封書	U-13
25	東京麻布新瀧土町B 梅原龍三郎	相州鎌倉塔ノ辻 野嶋(ママ)熙正様	1924(大正13)年5月8日	はがき	U-14
26	麻布新瀧土町B 梅原龍三郎	小早川区竹早C-1 野嶋(ママ)熙正様	1924(大正13)年5月10日	はがき	U-15
27	麻布新瀧土町B 梅原龍三郎	市内小石川区竹早町C-1 野嶋(ママ)熙正様	1924(大正13)年6月18日	はがき	U-18
28	麻布新瀧土町 梅原龍三郎	小早川区竹早町C-1 野島熙正様	1924(大正13)年6月25日	封書	U-16
29	麻布新瀧土町B 梅原龍三郎	相州鎌倉塔の辻 辻様方 野嶋(ママ)熙正様	1924(大正13)年6月25日	はがき	U-17
30	麻布新瀧土町B 梅原龍三郎	小石川区竹早町C-1 野嶋(ママ)熙正様	1925(大正14)年4月13日	封書	U-19
31	麻布新瀧土B 梅原龍三郎	小石川区竹早町C-1 野嶋(ママ)熙正様	1925(大正14)年7月13日	はがき	U-20
32	梅原龍三郎	小石川区竹早町C-1 野嶋(ママ)熙正様	1925(大正14)年(?) 12月7日	封書、手渡ししか	U-21
33	梅原龍三郎 田中喜作	野島熙正様	1925(大正14)年(?) 月不詳17日	封書、手渡ししか	U-59
34	麻布新瀧B 梅原龍三郎	小石川区竹早町C-1 野嶋(ママ)熙正様	1926(大正15)年1月21日	封書	U-22
35	梅原龍三郎	小石川区竹早町C-1 野嶋(ママ)熙正様	1926(大正15)年2月18日	はがき	U-23
36	麻布新瀧土町B 梅原龍三郎	小石川区竹早町C-1 野嶋(ママ)熙正様	1926(大正15)年3月1日	はがき、速達	U-24
37	京都市醒ヶ井通四条南 梅原長兵衛 方 梅原龍三郎	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1926(大正15)年(?) 4月4日	封書	U-28
38	上海北蘇州路四〇号 旅館東和洋 行 梅原龍三郎	日本東京市小石川区竹早町C-1 野嶋(ママ)康三様	1926(大正15)年4月12日 (消印29日)	封書、4Cts切手貼付 (中華民国郵政)	U-25
39	上海北蘇州路四〇号 旅館東和洋 行 梅原龍三郎	大日本東京市小石川区竹早町C-1 野嶋(ママ)康三様	1926(大正15)年4月13日 (消印29日)	封書、4Cts切手貼付 (中華民国郵政)	U-26
40	麻布区新瀧土町B 梅原龍三郎	小石川区竹早町C-1 野嶋(ママ)康三様	1926(大正15)年5月15日	封書、速達	U-27
41	麻布新瀧土町B 梅原龍三郎	小石川区竹早町C-1 野嶋(ママ)熙正様	大正年不詳12月4日	封書	U-57
42	龍	小石川区竹早町C-1 野島康三様	1927(昭和2)年1月20日	絵はがき	U-29
43	麻布新瀧土町B 梅原龍三郎	小石川区竹早町C-1 野嶋(ママ)康三様	1927(昭和2)年2月14日	封書	U-30
44	梅原龍三郎	小石川区竹早町C-1 野嶋(ママ)熙正様	1927(昭和2)年4月9日	はがき	U-31
45	麻布新瀧土町B 梅原龍三郎	小石川区竹早町C-1 野嶋(ママ)康三様	1927(昭和2)年4月15日	封書	U-32
46	京トにて 梅原龍三郎	東京市小石川区竹早町C-1 野嶋(ママ)熙正様	1927(昭和2)年5月26日	はがき	U-33
47	麻布区新瀧土町B 梅原龍三郎	小石川区竹早町C-1 野嶋(ママ)康三様	1927(昭和2)年6月15日	封書	U-34

No.	住所、差出人	宛先、宛名	日付	備考(種類等)	『資料集』 掲載番号
48	麻布区新龍土町B 梅原龍三郎	小石川区竹早町C-1 野嶋(ママ)熙正様	1927(昭和2)年7月1日	封書	U-35
49	麻布新龍土町B 梅原龍三郎	小石川区竹早町C-1 野嶋(ママ)熙正様	1927(昭和2)年8月1日	封書	U-36
50	東京麻布新龍土町B 梅原龍三郎	信州軽井沢G-1 野嶋(ママ)熙正様	1927(昭和2)年9月9日	はがき	U-37
51	麻布区新龍土町B 梅原龍三郎	小石川区竹早町C-1 野嶋(ママ)熙正様	1927(昭和2)年9月27日	封書	U-38
52	麻布新龍土町B 梅原龍三郎	小石川区竹早町C-1 野嶋(ママ)熙正様	1927(昭和2)年10月7日	封書	U-39
53	梅原龍三郎氏小品展覧会 於銀座 鳩居堂 主催 石原求龍堂 東京 代々木初台六〇七 梅原龍三郎	小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1927(昭和2)年10月10日	封書、印刷物(鳩居 堂での梅原の展覧会 の案内)	U-40
54	麻布区新龍土町B 梅原龍三郎	小石川区竹早町C-1 野嶋(ママ)熙正様	1927(昭和2)年10月20日	封書	U-41
55	梅原龍三郎	信州軽井沢三笠I 野嶋(ママ)康三様	1928(昭和3)年9月7日	絵はがき	U-42
56	東京市麻布区新龍土町B 梅原龍三郎	小石川区竹早町C-1 野嶋(ママ)康三様	1928(昭和3)年12月31日	はがき	U-43
57	梅原	東京市麴町区一番町B 野嶋(ママ)康三様	1930(昭和5)年2月3日	絵はがき	U-44
58	梅原龍三郎	信州軽井沢G-1 野嶋(ママ)康三様	1933(昭和8)年8月22日	絵はがき	U-45
59	台南にて 梅原龍三郎	東京市麴町区三番町A-1 野嶋(ママ)康三様	1933(昭和8)年11月15日	絵はがき	U-46
60	麻布区新龍土町B 梅原龍三郎	麴町区三番町A-1 野嶋(ママ)康三様	1934(昭和9)年9月25日	封書	U-47
61	鹿見嶋(ママ)市山下町 岩崎谷荘 梅原龍三郎	東京市麴町区三番町A-1 野嶋(ママ)康三様	1935(昭和10)年1月29日	絵はがき	U-48
62	東京麻布新龍土町B 梅原龍三郎	信州軽井沢G-1 野嶋(ママ)康三様	1935(昭和10)年7月18日	封書	U-49
63	熱海西山 梅原龍三郎	信州軽井沢G-1 野嶋(ママ)康三様	1935(昭和10)年7月25日	封書	U-50
64	梅原龍三郎(消印:別府)	東京市麴町区一番町 野嶋(ママ)康三様	1935(昭和10)年11月5日	絵はがき	U-51
65	別府市北浜海岸花菱方 梅原龍三郎	東京市麴町区三番町(警察講習所 隣) 野嶋(ママ)康三様	1937(昭和12)年2月8日	絵はがき	U-52
66	梅原龍	伊豆国熱海 熱海ホテルにて 野嶋(ママ)熙正様	1937(昭和12)年または 1939(昭和14)年2月24日	はがき	U-53
67	熱海西山にて 梅原龍三郎	東京市麴町区三番町A-2 野嶋(ママ)康三様	1937(昭和12)年7月18日	封書	U-54
68	熱海にて 梅原龍三郎	信州軽井沢G-1 野嶋(ママ)康三様	1937(昭和12)年9月20日	封書	U-55
69	東京都新宿区市谷加賀町C 梅原龍三郎	神奈川県葉山町一色L 野嶋(ママ)いね子様	1957(昭和32)年4月26日	封書、速達	U-64
70	東京都新宿区市谷加賀町D 梅原龍三郎	神奈川県葉山町一色M 野島康三様 いね子様	1963(昭和38)年1月6日	はがき	U-56
71	梅原龍三郎	野嶋(ママ)熙正様	年不詳2月8日	封書、手渡し	U-58
72	北品川E 梅原龍三郎	神田区裏神保町六 兜屋画堂に て 野島熙正様	年不詳3月14日	封書	
73	森亀之助代 持参 北品川E 梅原龍三郎	神田区裏神保町六 兜屋画堂 野島様	年不詳5月12日	封書、手渡し	
74	熱海西山 野嶋(ママ)別荘にて 梅原龍三郎	麴町区三番町A-1 野嶋(ママ)康三様	年不詳7月17日	封書	U-61
75	梅原龍三郎	信州軽井沢G-1 野嶋(ママ)康三様	年不詳8月28日	絵はがき	U-60
76	麻布区新龍土町B 梅原龍三郎	麴町区三番町A-1 野嶋(ママ)康三様	年不詳9月9日	封書	U-63
77	梅原	野嶋(ママ)康三様	年月不詳(昭和以降か) 29日	封書、手渡し	U-62

No.	住所、差出人	宛先、宛名	日付	備考(種類等)	『資料集』 掲載番号
<b>金子清次</b>					
78	孚水畫房 上野廣小路(本郷湯島同朋町一五)	小石川区竹早町C-1 野島康三様	大正または 1938(昭和13)年9月27日	封書	K-1
<b>加山四郎</b>					
79	東京市外下保谷A 加山四郎(岡鹿之助)	麹町区三番町A-1 野島康三様 全 いね子様	1941(昭和16)年 4月29日~5月2日	封書、岡鹿之助(No.80)、木村莊八(No.81、82)からの手紙を同封して野島へ送った。	Ky-1
(岡鹿之助)					
80	封筒なし	野嶋(ママ)様 奥様	1941(昭和16)4月30日		Oka-1
(木村莊八)					
81	封筒なし	封筒なし	封筒なし	便箋(布)のみ	Km-1
82	木村莊八	北多摩郡保谷町下保谷A 加山四郎兄	1941(昭和16)年4月29日	封緘はがき	Km-3
<b>川島理一郎</b>					
83	大森区新井宿A 川島理一郎	麹町区三番町A-2 野島康三様 全御令室様	1934(昭和9)年11月27日	封書、速達	Kr-1
84	大森区新井宿A 川島理一郎	麹町区三番町A-2 野島康三様	1935(昭和10)年8月15日	封書	Kr-2
<b>河東乗五郎(碧梧桐)</b>					
85	牛込区 河東乗五郎	小石川区竹早町 野島康三様	1936(昭和11)年頃(?) 3月15日	はがき	Kh-1
86	牛込区市ヶ谷加賀町A 河東乗	小石川区竹早町 野島熙正様	1936(昭和11)年頃(?) 9月4日	はがき	Kh-2
87	宝生使の物持来 根岸 河東乗	野島様	年不詳2月1日	封書、手渡し	Kh-3
<b>岸田劉生</b>					
88	相州鶴沼海岸 岸田劉生	小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1922(大正11)年1月21日	はがき	Kd-1
89	相州鶴沼 岸田劉生	東京小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1922(大正11)年2月2日	はがき	Kd-2
90	相州鶴沼 岸田劉生	小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1922(大正11)年4月14日	はがき	Kd-3
91	岸田劉生	東京小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1922(大正11)年 4月22日(28日?)	はがき	Kd-4
92	鶴沼 岸田 内	野島様	1922(大正11)年5月31日	封書、手渡し	Kd-5
93	岸田劉生	東京小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1922(大正11)年6月22日	はがき	Kd-6
94	相州鶴沼海岸 岸田劉生	東京小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1922(大正11)年8月16日	封書	Kd-7
95	相州鶴沼 岸田劉生	東京小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1922(大正11)年9月19日	はがき	Kd-8
96	相州鶴沼 岸田劉生	東京小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1922(大正11)年9月20日	はがき	Kd-9
<b>木村莊八</b>					
97	木村莊八	小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1924(大正13)年5月7日	はがき	Km-4
98	本郷森川町A 木村莊八	小石川区竹早町C-1 野島熙正様	年不詳 (大正10年~昭和5年)	封書	Km-5
99	木村莊八	野島様	年月日不詳	封書、手渡し	Km-6
<b>小林徳三郎</b>					
100	芝白金今里A 小林徳三郎	小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1924(大正13)年10月15日	封書	Ko-1
101	千葉県館山町御屋敷 小林徳三郎	東京市麹町区三番町A-2 野島 康三様	1935(昭和10)年1月17日	封書	Ko-2
102	沼津市外静浦村江の浦 眞崎屋方 小林徳三郎	東京市麹町区A-2 野島康三様	1941(昭和16)年6月24日	封書	Ko-3
<b>斎藤與里</b>					
103	大阪市外天王寺村A 斎藤與里	東京市小石川区水道町D 野島熙正様	1921(大正10)年5月21日	封書	S-1
104	大阪市外天王寺村A 斎藤與里	東京市小石川区水道町 野島熙正様	1921(大正10)年8月1日	封書	S-2

No.	住所、差出人	宛先、宛名	日付	備考(種類等)	『資料集』 掲載番号
105	大阪市外天王寺村A 斎藤与里	相州鎌倉町大町塔ノ辻K 野嶋(ママ)熙正様	1921(大正10)年9月30日	封書	S-3
106	大阪市外天王寺村A 斎藤与里	相州鎌倉町大町塔の辻K 野嶋(ママ)熙正様	1921(大正10)年10月4日	封書	S-4
<b>高濱清</b>					
107	東京丸ビル八階 ホトトギス発行 所 高濱清	東京市三番町A-1 野島康三様	1942(昭和17)年10月1日	はがき	Th-1
<b>田中喜作</b>					
108	大森山王A 田中喜作	鎌倉塔ノ辻K 野島熙正様	1921(大正10)年6月13日	はがき	Tn-1
109	田中喜作	鎌倉塔ノ辻K 野島熙正様	1921(大正10)年10月14日	はがき	Tn-2
110	大森山王A 田中喜作	鎌倉塔ノ辻K 野島熙正様	1921(大正10)年10月14日	はがき	Tn-3
111	大森山王A 田中喜作	東京小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1922(大正11)年2月4日	はがき	Tn-4
112	大森山王A 田中喜作	東京小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1922(大正11)年7月7日	はがき	Tn-5
113	大森山王A 田中喜作	東京小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1922(大正11)年9月18日	封書	Tn-6
114	大森山王A 田中喜作	東京小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1925(大正14)年6月29日	封書	Tn-7
115	大森山王A 田中喜作	東京小石川区竹早町C-1 野島康三様	1926(大正15)年7月25日	封書	Tn-8
116	大森山王A 田中喜作	東京小石川区竹早町C-1 野島康三様	1926(大正15)年11月2日	封書	Tn-9
117	大森山王A 田中喜作	東京市小石川区竹早町C-1 野島康三様	1926(大正15)年11月24日	封書	Tn-10
118	東京美術学校 東京市下谷区上野 公園内 田中喜作	東京市小石川区竹早町C-1 野島康三様	年月日不詳(昭和2年?)	封書	Tn-11
119	東京美術学校 東京市下谷区上野 公園内 田中喜作	東京小石川区竹早町C-1 野島康三様	1927(昭和2)年7月29日	封書	Tn-12
120	大森山王A 田中喜作	東京小石川区竹早町C-1 野島康三様	1927(昭和2)年11月7日	封書	Tn-13
121	大森山王A 田中喜作	東京市小石川区竹早町C-1 野島康三様	1927(昭和2)年11月29日	封書	Tn-14
122	大森山王A 田中喜作	東京小石川区竹早町C-1 野島康三様	1927(昭和2)年12月9日	封書	Tn-15
123	大森山王A 田中喜作	東京市小石川区竹早町C-1 野島康三様	1929(昭和4)年1月3日	封書	Tn-16
124	東京上野公園 美術研究所 田中喜作	長野県軽井沢G-1 野島康三様	1934(昭和9)年5月6日	封書	Tn-17
125	大森山王A 田中喜作	小石川竹早町C-1 野島熙正様	年月日不詳	封書	Tn-18
126	田中喜作	野島熙正様	年不詳12月20日	手渡ししか	Tn-19
127	兵庫西出町B 田中喜作	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	年不詳12月9日	はがき	Tn-20
<b>津田青楓</b>					
128	小石川区関口台町A 津田青楓	小石川区竹早町 野島熙正様	1922(大正11)年2月17日	封書、印刷物2枚	Ts-1
<b>椿貞雄</b>					
129	東京日本橋 三越美術部	東京麹町区一番町B 野島康三様	1933(昭和8)年8月日不詳	封書、印刷物2枚	Tsu-1
130	千葉県船橋町九日市三丁目A 椿貞雄	東京麹町区三番町A-2 野島康三様	1937(昭和12)年2月8日	封書	Tsu-2
131	千葉県舟橋町九日市三丁目 椿貞雄	東京麹町区三番町A-1 野島康三様	1937(昭和12)年2月13日	封書	Tsu-3
<b>富本憲吉</b>					
132	大和安堵村 富本憲吉	東京市小石川区水道町 野島熙正様	1921(大正10)年6月1日	封書	
133	富本生	東京市小石川区水道町 野島熙正様	1921(大正10)年6月6日	封書	
134	富本憲吉 大和安堵村	東京市小石川区水道町D 野島熙正様	1921(大正10)年6月27日	封書	
135		相模国鎌倉大町塔ノ辻K 野島熙正様	1921(大正10)年10月3日	封書	

No.	住所、差出人	宛先、宛名	日付	備考(種類等)	【資料集】 掲載番号
136		相模国鎌倉大町塔辻K 野島熙正様	1921(大正10)年10月8日	はがき	
137		相模国鎌倉大町塔之辻K 野島熙正様	1921(大正10)年10月10日	はがき	
138	大和安堵村 富本憲吉	相模国鎌倉大町塔之辻K 野島熙正様	1921(大正10)年10月15日	封書	
139	大和安堵村 富本憲吉	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1921(大正10)年12月3日	はがき	
140	大和安堵村 富本憲吉	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1921(大正10)年12月8日	封書	
141	富本生	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1922(大正11)年2月8日	封緘はがき	
142	富本憲吉 安堵村	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1922(大正11)年2月9日	封緘はがき	
143	富本憲吉	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1922(大正11)年3月2日	封緘はがき	
144		東京市小石川区竹早町C-3 野島熙正様	1922(大正11)年4月14日	封書	
145	大和安堵村 富本憲吉	東京市小石川区竹早町C-3 野島熙正様	1922(大正11)年4月17日	封書	
146	大和安堵村 富本生	東京市小石川区竹早町C-4 野島熙正様	1922(大正11)年4月28日	封書	
147	富本生	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1922(大正11)年5月13日	封書	
148		東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1922(大正11)年6月16日	封書	
149	大和国安堵村 憲吉生	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1922(大正11)年6月25日	封書	
150	憲吉	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1922(大正11)年8月15日	封書	
151	越後木浦村 富本生	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1922(大正11)年9月2日	封書	
152	大和国安堵村 富本憲吉	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1922(大正11)年9月20日	封書	
153	大和安堵村 富本憲吉	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1922(大正11)年10月23日	封書	
154	大阪への電車中	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1922(大正11)年11月3日	はがき	
155	憲吉	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1922(大正11)年11月14日	はがき	
156	車中	相模国酒匂松濤園内 野島熙正様	1922(大正11)年12月26日	封緘はがき	
157	信越車中	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正兄	1923(大正12)年1月3日	封緘はがき	
158	富本憲吉	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1923(大正12)年1月13日	封書	図版のみ p.160に 掲載
159	憲吉	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1923(大正12)年1月 日付不明	封書	
160	憲生	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1923(大正12)年2月11日	封書	
161	憲吉	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1923(大正12)年3月1日	封書	
162	憲吉	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1923(大正12)年 3月7日(?)	封書	
163	富本憲吉 大和安堵村	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1923(大正12)年3月10日	封書 伊藤蔵章1枚	
164		東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1923(大正12)年3月17日	封書	
165	富本生 大和安堵村	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1923(大正12)年4月6日	封書	
166	富本憲吉	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1923(大正12)年4月12日	封書	

No.	住所、差出人	宛先、宛名	日付	備考(種類等)	【資料集】 掲載番号
167	富本憲吉	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1923(大正12)年4月13日	封書 自彫自摺の罫線が 入った便箋使用	
168	富本憲吉	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1923(大正12)年4月22日	封書	
169	大和安堵村 富本憲吉	相模国鎌倉町塔之辻 野島熙正様	1923(大正12)年6月18日	封書	
170	大和安堵 富本憲吉	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1923(大正12)年7月5日	封書	
171	大和安堵村 富本憲吉	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1923(大正12)年7月15日	封書	
172	大和安堵村 富本憲吉	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1923(大正12)年8月2日	封書	
173	富本生	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1923(大正12)年8月14日	封緘はがき	
174	大和安堵村 富本憲吉	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1923(大正12)年8月19日	封書	
175	大和国安堵村 富本憲吉	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1923(大正12)年9月30日	封書	
176	大和国安堵村 富本憲吉	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1923(大正12)年11月4日	封書	
177	大和国生駒郡安堵村 富本憲吉	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1923(大正12)年12月11日	封書	
178	大和安堵村 富本憲吉	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1924(大正13)年2月8日	封書	
179	大和生駒郡安堵村 富本憲吉	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1924(大正13)年4月21日	封書	
180	富本生	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1924(大正13)年4月24日	はがき	
181	富本憲吉	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1924(大正13)年4月30日	封書	
182	安堵村 富本憲吉	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1924(大正13)年6月18日	封書	
183	安堵村 富本憲吉	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1924(大正13)年8月30日	封書	
184	富本生	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1924(大正13)年9月4日	封書	
185	大和安堵村 富本憲吉	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1924(大正13)年9月30日	封書	
186		東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1924(大正13)年10月1日	はがき	
187	大和安堵村 富本憲吉	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1924(大正13)年10月15日	封書	
188	法隆寺■■■■にて 富本生	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1924(大正13)年10月15日	はがき	
189	富生	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1924(大正13)年10月19日	封書	
190	富本憲吉 大和安堵村	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1924(大正13)年10月24日	封書	
191	富本憲吉	京都市麩屋町二条下ル沢文旅籠 野島熙正様	1924(大正13)年11月23日	封書	図版のみ p.160に 掲載
192	富生	奈良市奈良ホテル 野島熙正様	1924(大正13)年12月16日	はがき	
193	大和安堵村 富本生	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1925(大正14)年1月5日	封書	
194		東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1925(大正14)年1月20日	封書	
195	富本	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1925(大正14)年1月26日	封書	
196	安堵村 富本憲吉	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1925(大正14)年3月11日	封書	
197	大和安堵村 富本憲吉	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1925(大正14)年4月16日	封書	

No.	住所、差出人	宛先、宛名	日付	備考(種類等)	【資料集】 掲載番号
198	憲吉	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1925(大正14)年5月3日	封書	
199	富本生	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1925(大正14)年6月2日	封書	
200	大和国安堵村 富本憲吉	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1925(大正14)年7月20日	封書	
201	富本生	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1925(大正14)年9月15日	封緘はがき	
202	憲吉	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1925(大正14)年9月21日	封書	
203	安堵村	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1925(大正14)年10月13日	封書	
204	富本生 安堵村	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1925(大正14)年11月5日	封書	
205	大和国安堵村 富本憲吉	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1925(大正14)年12月27日	封書	
206	大和安堵村 富本憲吉	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1926(大正15)年1月21日	封書	
207	大和安堵村 富(ママ)本憲吉	東京市小石川区竹早町C-1 野島康三様	1926(大正15)年1月25日	封書	
208	富本生	東京市小石川区竹早町C-1 野島泰(ママ)三様	1926(大正15)年3月22日	封書	
209	大和安堵村 富本憲吉	東京市小石川区竹早町C-1 野島泰(ママ)三様	1926(大正15)年5月24日	封書	
210	大和国生駒郡安堵村 富本憲吉	東京市小石川区竹早町C-1 野島泰(ママ)三様	1926(大正15)年6月24日	封書	
211	大和安堵村 富本生	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1926(大正15)年7月22日	封書	
212	安堵村 富本生	東京市小石川区竹早町C-1 野島康三様	1926(大正15)年7月24日	封書	
213	安堵村 富本生	東京市小石川区竹早町C-1 野島康三様	1926(大正15)年7月29日	封書	
214	大和安堵村 富本生	東京市小石川区竹早町C-1 野島康三様	1926(大正15)年8月4日	封書	
215	大和国安堵村 富本生	東京市小石川区竹早町C-1 野島康三様	1926(大正15)年8月5日	封書	
216		東京市小石川区竹早町 野島熙正様	1926(大正15)年8月9日	封緘はがき	
217	富本生 (消印:出雲玉造)	東京市小石川区竹早町C-1 野島康三様	1926(大正15)年8月10日	封緘はがき	
218	玉造温泉 富本憲吉	東京市小石川区竹早町C-1 野島康三様	1926(大正15)年8月17日	封緘はがき	
219	大和国安堵村 富本生	東京市小石川区竹早町C-1 野島康三様	1926(大正15)年9月5日	封書	
220	安堵村 富本生	長野縣軽井沢三笠I 野島康三様	1926(大正15)年9月11日	封書	
221	大和国安堵村 富本憲吉	東京市小石川区竹早町C-1 野島康三様	1926(大正15)年9月25日	封書	
222	安堵村 富本生	東京市小石川区竹早町C-1 野島康三様	1926(大正15)年10月1日	封書	
223	大和国安堵村 富本生	東京市小石川区竹早町C-1 野島康三様	1926(大正15)年10月6日	封書	
224			年不詳10月6日	封筒なし	
225	市外上之塚A 富本憲吉	市内小石川区竹早町C-1 野島康三様	1926(大正15)年12月22日	封緘はがき	
226	早稲田(消印)	市内小石川区竹早町C-1 野島康三様	1926(昭和元)年12月26日	封緘はがき	
227	早稲田(消印)	市内小石川区竹早町C-1 野島康三様	1927(昭和2)年1月2日	封緘はがき	
228	子(ママ)歳村下祖師ヶ谷B 富(ママ)本憲吉	市内小石川区竹早町C-1 野島康三様	1927(昭和2)年5月30日	封書、速達	
229	東京駅にて 富本生	小石川区竹早町C-1 野島康三様	1927(昭和2)年7月4日	はがき	

No.	住所、差出人	宛先、宛名	日付	備考(種類等)	『資料集』 掲載番号
230	東京駅第二信 四日市行五時 富本生	小石川区竹早町C-1 野島康三様	1927(昭和2)年7月4日	はがき	
231	東京千歳村下祖師谷 富本生	市外小石川区竹早町C-1 野島康三様	1927(昭和2)年7月17日	封書	
232	下祖師谷 富本生	市内小石川区竹早町C-1 野島康三様	1927(昭和2)年7月21日	封書	図版のみ p.160に 掲載
233	千歳村下祖師谷B 富(ママ)本拝	小石川竹早町C-1 野島康三様	1927(昭和2)年7月23日	封書	
234	東京市外千歳村 富本生	信濃国軽井沢G-1 野島康三様	1927(昭和2)年8月4日	封書	
235	東京市外千歳村 富本生	信濃国軽井沢G-1 野島康三様	1927(昭和2)年8月10日	陶器会の申込書4枚 木村要(莊?)八、高 松茂、出上定吉、柏 木納之助(?)	
236	東京府北多摩郡千歳村下祖師ヶ谷 富(ママ)本憲吉代	信州軽井沢G-1 野島康三様	1927(昭和2)年8月22日	封書	
237	東京市外千歳村 富本生	信濃国軽井沢G-2 野島康三様	1927(昭和2)年9月1日	封書	
238	東京市外千歳村 富本生	信濃国軽井沢G-1 野島康三様	1927(昭和2)年9月3日	封書	
239	東京府下北多摩郡千歳村下祖師ヶ 谷B 富(ママ)本憲吉内	信濃国軽井沢G-1 野島康三様	1927(昭和2)年9月10日	封書	
240	東京 富生	信濃国軽井沢G-1 野島康三様	1929(昭和4)年8月18日	封書	
241	東京市外千歳村 富本憲吉	信濃国軽井沢G-1 野島康三様	1929(昭和4)年9月5日	封書	
242	長崎県 波佐見 富本生	東京市麹町区一番町B 野島康三様	1930(昭和5)年1月2日(?)	封緘はがき	
243	市外千歳村 富本生	麹町区一番町B 野島康三様	1930(昭和5)年1月2日	封書	
244	長崎市桶屋町光永寺内 富本生	東京市麹町区一番町B 野島康三様	1930(昭和5)年1月17日	はがき	
245	長崎市桶屋町光永寺内 富本憲吉	東京市麹町区一番町B	1930(昭和5)年1月22日	封書	
246	三河内駅にて 富本生	東京市麹町区一番町B 野島康三様	1930(昭和5)年2月7日	封緘はがき	
247	富(ママ)本憲吉 長崎にて	東京麹町区壱番町B 野島康三様	1930(昭和5)年2月10日	はがき	
248	波佐見にて中尾山にて 富本憲吉 長崎県東彼杵郡上波佐見村中尾山 一瀬隆保	東京市麹町区一番町B 野島康三様	1930(昭和5)年2月15日	封緘はがき	
249	光永寺にて	東京市麹町区一番町B 野島康三様	1930(昭和5)年2月19日	封緘はがき	
250	会場にて	東京市麹町区一番町B 野島康三様	1930(昭和5)年2月24日	封緘はがき	
251	汽車中 富本生 (消印:長崎波佐見)	東京市麹町区一番町B 野島康三様	1930(昭和5)年3月3日	封緘はがき	
252	市外千歳村下祖師谷 富本憲吉	長野県軽井沢G-1 野島康三様	1930(昭和5)年(?)9月1日	封書	
253	東海道燕号列車内にて 富本生 (消印:京都五條)	東京市麹町区一番町B 野島康三様	1931(昭和6)年1月24日	はがき	
254	市外千歳村 富本憲吉	麹町区一番町B 野島康三様	1931(昭和6)年6月24日	封書	
255	東海道汽車中	東京市麹町区一番町 野島康三様	1932(昭和7)年6月2日	封緘はがき	
256	富本生	麹町区一番町B 野島康三様	1933(昭和8)年6月6日	はがき	
257	東京市渋谷区代々木山谷町C 富 本憲吉内 ■■■一枝	麹町区九段坂上野々宮写真館 野島康三様	1933(昭和8)年12月23日	封書	
258	東京市世田谷区祖師谷町二丁目B 富本憲吉	麹町区三番町A-1 野島康三様	1935(昭和10)年1月25日	封書	
259	市外千歳村下祖師谷 富本憲吉	麹町区三番町A-1 野島康三様	1935(昭和10)年10月12日	封書	
260	東京市世田谷区祖師谷町二丁目B 富本憲吉	麹町区三番町 野島康三様	1938(昭和13)年5月27日	封書	
261	東京市世田谷区祖師谷町式丁目B 富本憲吉	麹町区三番町A-1 野島康三様	1938(昭和13)年6月17日	封書	
262	京都市上京区新烏丸頭町D 富本憲吉	神奈川県葉山町一色 野島康三様	1957(昭和32)年2月9日	封書	
263	憲吉	野兄	年不詳1月2日	封筒なし、便箋2枚	
264		東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	年不詳1月22日	はがき	

No.	住所、差出人	宛先、宛名	日付	備考(種類等)	『資料集』 掲載番号
265	小城久次郎持参 富本生	小石川竹早町 野島康三様	年不詳1月31日	封書、手渡し	
266	大和国安堵村 富本陶	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	年不詳2月4日	封書	
267	小城久次郎持参 富本憲吉	野島康三様	年不詳3月3日	封書、手渡し	
268	大和安堵村 富本憲吉	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	年不詳3月17日	封書	
269	小城久次郎持参 上之塚寓居 富本憲吉	野島康三様	年不詳3月30日	封書、手渡し	
270	奈良京都間車中 富本生 新潟県西頸城郡木浦村奥舞 伊藤助左エ門方	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	年不詳6月27日	封緘はがき	
271	東京市外千歳村 富本憲吉	信濃国軽井沢G-1 野島康三様	年不詳8月9日夜	封書	
272	富本憲吉	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正様	年不詳12月30日	はがき	
273	上之塚寓居にて 富本生		年不詳12月30日	封書、切手なし	
274	世田谷區祖師谷町二ノB 富(ママ)本憲吉代	麹町區三番町A-1 野島康三様	年月不詳1日	封書	
275	富(ママ)本生 市外千歳村下祖師谷 富本憲吉	野島康三様	年月不詳21日	封書、手渡しか	
276	櫻井君持参 富本憲吉	麹町區一番町B 野島康三様 奥様	年月日不詳	封書、手渡し	
277	市外千歳村下祖師谷 富本憲吉	野島康三様	年月日不詳	封書、手渡しか	
278	小城久次郎持参 北多摩郡千歳村下祖師ヶ谷B 富本憲吉	小石川区竹早町C-1 野島康三様	年月日不詳	封書、手渡し	
<b>中川一政</b>					
279	中川一政	小石川水道町D 野島熙正様	1921(大正10)年5月6日	はがき	Na-1
280	中川一政	小石川水道町D 野島熙正様	1921(大正10)年5月9日	はがき	Na-2
281	西巢鴨 中川一政	小石川水道町D 野島熙正様	1921(大正10)年7月13日	はがき、速達	Na-3
282	中川一政	小石川水道町D 野島熙正様	大正(年不詳10年?) 8月28日	はがき	Na-5
283	中川一政	相州鎌倉大町塔ノ辻K 野島熙正様	1921(大正10)年10月(?) 12日	はがき	Na-6
284	西巢鴨A 中川一政	小石川竹早町C-1 野島熙正様	1922(大正11)年(?) 3月2日	封書	Na-7
285	市外西巢鴨A 中川一政	小石川竹早町C-1 野島熙正様	1922(大正11)年3月27日	封書	Na-8
286	(中川一政?)	小石川竹早町C-1 野島熙正様	1922(大正11)年6月12日	はがき	
287	新橋駅 中川一政	小石川竹早町C-1 野島熙正様	1922(大正11)年7月14日	はがき	Na-9
288	愛子持参 西巢鴨A 中川一政	小石川竹早町C-1 野島熙正様	1922(大正11)年8月24日	封書、手渡し	Na-10
289	秋田土崎港町 大橋茂三郎君方 中川一政	東京市小石川竹早町C-1 野島熙正様	1922(大正11)年8月26日	絵はがき	Na-11
290	秋田土崎港 中川一政	東京小石川竹早町C-1 野島熙正様	1922(大正11)年9月18日	絵はがき	Na-12
291	秋田土崎 中川一政	東京小石川竹早町C-1 野島熙正様	1922(大正11)年9月18日	絵はがき	Na-13
292	中川一政	小石川竹早町C-1 野島熙正様	1922(大正11)年9月25日	はがき	Na-14
293	中川一政	小石川竹早町C-1 野島熙正様	1922(大正11)年10月1日	はがき	Na-15
294	中川一政	小石川竹早町C-1 野島熙正様	1922(大正11)年10月8日	はがき	Na-53
295	市外西巢鴨町向原 中川一政	小石川竹早町C-1 野島熙正様	1923(大正12)年3月17日	封書	Na-16
296	西巢鴨A 中川一政	小石川竹早町C-1 野島熙正様	1923(大正12)年4月29日	はがき	Na-17
297	中川一政	小石川竹早町C-1 野島熙正様	1923(大正12)年8月31日	はがき	Na-18
298	市外西巢鴨町向原A 中川一政 伊藤暢(ルビ:ノブ)子	小石川竹早町C-1 野島熙正様	1923(大正12)年10月 (結婚の挨拶) 1923(大正12)年11月7日 (消印)	封書	Na-19
299	中川一政	小石川竹早町C-1 野島熙正様	1924(大正13)年1月23日	はがき	Na-20
300	中川一政	東京小石川竹早町C-1 野島熙正様	1924(大正13)年2月29日	はがき	Na-21

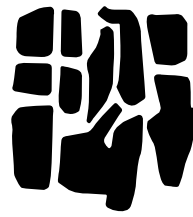
No.	住所、差出人	宛先、宛名	日付	備考(種類等)	『資料集』 掲載番号
301	伊豆下田 中川一政	東京小石川竹早町C-1 野島熙正様	1924(大正13)年3月26日	はがき	Na-22
302	中川一政	野島熙正様	1924(大正13)年9月24日	封書、手渡ししか	Na-24
303	東京市外西巢鴨A 中川一政	奈良市奈良ホテル止宿 野島熙正様	1924(大正13)年12月18日	封書	Na-25
304	中川一政	野島熙正様	1924(大正13)年 月不詳20日	手渡ししか	Na-26
305	市外笹塚B 中川一政	小石川竹早町C-1 野島熙正様	1925(大正14)年5月18日	封書	Na-27
306	笹塚B 中川一政	小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1925(大正14)年6月25日	はがき	Na-28
307	東京笹塚B 中川一政	長野県下軽井沢H 野島熙正様	1925(大正14)年8月16日	はがき	Na-30
308	笹塚B 中川一政	小石川竹早町C-1 野島熙正様	1925(大正14)年8月15日 (消印9月15日)	はがき	Na-29
309	和田堀内永福寺 中川一政	小石川竹早町C-1 野島熙正様	1925(大正14)年11月6日	はがき	Na-31
310	和田堀内永福寺 中川一政	小石川竹早町C-1 野島熙正様	1925(大正14)年12月22日	はがき	Na-32
311	和田堀 中川一政	小石川竹早町C-1 野島熙正様	1926(大正15)年4月28日	はがき	Na-33
312	和田堀永福寺隣 中川一政	野島熙正兄	年不詳(大正15年?) 10月27日	封書、手渡ししか	Na-34
313	和田堀永福寺隣 中川一政	小石川竹早町C-1 野島熙正兄	1926(大正15)年11月26日	封書	Na-35
314	中川一政	小石川水道町D 野島熙正様	大正年不詳6月22日	はがき	Na-4
315	東京和田堀永福寺隣 中川一政	長野県軽井沢G-1 野島康三様	1927(昭和2)年9月12日	封書	Na-36
316	市外和田堀町永福寺C 中川一政	小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1928(昭和3)年12月31日	封書	Na-37
317	和田堀町永福寺 中川一政	小石川区竹早町C-1 野島康三様	1929(昭和4)年1月21日	封書	Na-38
318	和田堀永福寺 中川一政	小石川区竹早町C-1 野島康三様	1929(昭和4)年2月5日	封書、書留	Na-39
319	中川一政	小石川区竹早町C-1 野島康三様	1929(昭和4)年3月11日	はがき	Na-40
320	永福寺 中川一政	小石川区竹早町C-1 野島康三様	1929(昭和4)年6月17日	絵はがき	Na-41
321	豊後竹田町 中川一政	東京小石川区竹早町C-1 野島康三様	1929(昭和4)年8月26日	絵はがき	Na-42
322	和田堀町永福寺 中川一政	麹町一番町B 野島康三様	1931(昭和6)年5月14日	封書、速達	Na-43
323	城ノ崎 中川一政	東京麹町区下一番町B 野島康三様	1931(昭和6)年6月3日	絵はがき	Na-44
324	徳三郎 中川一政	長野県軽井沢G-1 野島康三様	1931(昭和6)年7月10日 (消印は8月10日)	はがき	Na-45
325	東京市外和田堀町永福寺隣 中川一政	麹町区下一番町 野島康三様	1932(昭和7)年2月17日	はがき	Na-46
326	東京市杉並区永福町C 中川一政 六潮会 中村岳陵、中川紀元、山口蓬春、 牧野虎雄、福田平八郎、木村荘 八、外狩素心庵、横川毅一郎	麹町区三番町A-1 野島康三様	1935(昭和10)年1月25日	封書、印刷物1枚	Na-47
327	杉並区永福町 中川一政	麹町区三番町A-1 野島康三様	1940(昭和15)年10月6日	封書	Na-48
328		麹町区三番町 野島康三様	1941(昭和16)年5月13日	はがき	Na-49
329	神奈川県真鶴町D 中川一政	東京都世田谷区成城町E 野島康三様	1953(昭和28)年2月23日	はがき	Na-50
330	杉並区永福町C 中川一政	世田谷区成城町E 野島康三様	1953(昭和28)年5月24日	封書	Na-51
331	杉並区永福町 中川一政	世田谷区成城町E 野島康三様	1953(昭和28)年10月28日	はがき	Na-52
332	中川一政	小石川竹早町C-1 野島熙正様	年不詳1月26日	はがき	Na-54
333	中川一政	野島熙正様	年不詳3月11日	封書、手渡ししか	Na-61
334	中川一政	封筒なし	年不詳4月3日	封書なし	Na-59
335	永福寺 中川一政	野島熙正様	年不詳4月11日	封書、手渡ししか	Na-64
336	笹塚B 中川一政	小石川竹早町C-1 野島熙正様	年不詳4月24日	はがき	Na-23
337	托小倉氏 和田堀内村 中川一政	野島康三兄	年不詳5月17日	封書、手渡ししか	Na-62
338	菓一 「中川一政」印	野島熙正様	年不詳5月21日	封書、手渡ししか	Na-60
339	和田堀永福寺隣 中川一政	小石川竹早町C-1 野島熙正様	年不詳9月23日	封書	Na-58
340	和田堀内村永福寺 中川一政	小石川竹早町C-1 野島熙正様	年不詳11月27日	封書	Na-57
341	和田堀永福寺 中川一政	小石川竹早町 野島康三様	年不詳12月18日	封書、手渡ししか	Na-63
342	一政印	小石川竹早町C-1 野島熙正様	年月日不詳10日	はがき	Na-56
343	中川一政	小石川竹早町C-1 野島熙正様	年月日不詳	はがき	Na-55

No.	住所、差出人	宛先、宛名	日付	備考(種類等)	「資料集」 掲載番号
<b>長與善郎</b>					
344	麻布区飯倉A 長与善郎	麹町区一番町B 野島熙正様	1932(昭和7)年10月16日	封書	Ng-1
<b>野上豊一郎</b>					
345	日暮里渡辺町A 野上豊一郎	市内小石川区竹早町 野島熙正様	1924(大正13)年3月13日	はがき	No-1
346	下谷局日暮里渡辺町A 野上豊一郎 (高浜虚子、河東碧梧桐、野上豊一郎)	市内小石川区竹早町 野島熙正様	1924(大正13)年6月17日	封書、ガリ版刷り1枚	No-2
347	東京市麹町区富士見町四丁目新見付内 法政大学 野上豊一郎	市内小石川区竹早町C-1 野島康三様	1925(大正14)年6月30日	封書、速達	No-3
348	下谷局日暮里渡辺町A 野上豊一郎	小石川区竹早町C-1 野島康三様	1925(大正14)年7月11日	封書	No-4
349	日暮里渡辺町A 野上豊一郎	小石川区竹早町C-1 野島康三様	1925(大正14)年7月27日	封書	No-5
350	日暮里渡辺町 野上豊一郎	市内九段局九段坂 野々宮写真館 野島熙正様	1925(大正14)年9月7日	封書	No-6
351	下谷局日暮里渡辺町A 野上豊一郎	市内小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1925(大正14)年10月12日	封書、速達	No-7
352	東京日暮里渡辺町 野上豊一郎	栃木縣日光中禪寺レイクサイド ホテル方 野島熙正様	1925(大正14)年10月26日	はがき	No-8
353	日暮里渡辺町A 野上豊一郎	小石川区竹早町C-1 野島熙正様	1925(大正14)年12月8日	封書	No-9
354	東京市麹町区富士見町四丁目新見付内 法政大学 野上豊一郎	小石川区竹早町C-1 野島康三様	1926(大正15)年1月23日	封書、速達	No-10
355	下谷局日暮里渡辺町A 野上豊一郎	小石川区竹早町C-1 野島康三様	1926(大正15)年1月30日	封書、速達	No-11
356	日暮里渡辺町A 野上豊一郎	小石川区竹早町C-1 野島康三様	1926(大正15)年1月31日	はがき	No-12
357	日暮里渡辺町 野上豊一郎	小石川区竹早町C-1 野島康三様	1926(大正15)年2月12日	封書	No-13
358	日暮里渡辺町 野上豊一郎	小石川区竹早町C-1 野島康三様	1926(大正15)年4月5日	封書	No-14
359	下谷局日暮里渡辺町A 野上豊一郎	小石川区竹早町C-1 野島熙正様	年不詳(大正?)12月23日	封書	No-15
360	東京市麹町区富士見町 法政大学 野上豊一郎	小石川区竹早町C-1 野島康三様	1927(昭和2)年3月1日	封書	No-16
361	東京市麹町区富士見町 法政大学 野上豊一郎	小石川区竹早町C-1 野島康三様	1927(昭和2)年3月15日	封書、速達	No-17
362	東京日暮里渡辺町A 野上豊一郎	信州軽井沢G-1 野島康三様	1927(昭和2)年9月5日	封書	No-18
363	日暮里渡辺町A 野上豊一郎	小石川区竹早町C-1 野島康三様	1927(昭和2)年10月21日	封書	No-19
364	日暮里渡辺町A 野上豊一郎	小石川区竹早町C-1 野島康三様	1927(昭和2)年11月11日	封書	No-20
365	日暮里渡辺町A 野上豊一郎 北軽井沢新市街 法政大学村	麹町区一番町B 野島康三様	1929(昭和4)年10月15日	絵はがき	No-21
366	日暮里渡辺町A 野上豊一郎	麹町区一番町 野島康三様	1930(昭和5)年6月2日	はがき	No-22
367	群馬県吾妻郡北軽井沢法政大学村 一ノノ三 野上豊一郎	長野県軽井沢旧軽井沢警察署横丁 野島康三様	1931(昭和6)年8月10日	はがき	No-23
368	下谷局日暮里渡辺町A 野上豊一郎	麹町区一番町B 野島康三様	1932(昭和7)年10月29日	封書	No-24
369	荒川区日暮里九一 A 野上豊一郎	麹町区三番町A-1 野島康三様 いね子様	1933(昭和8)年4月8日	封書	No-25
370	法政大学 野上豊一郎	麹町区三番町 野島康三様	1933(昭和8)年10月12日	封書	No-26
371	荒川区日暮里渡辺町九一 A 野上豊一郎	麹町区一番町B 野島康三様 いね子様	1935(昭和10)年5月23日	はがき	No-27
372	日暮里渡辺町A 野上豊一郎	麹町区三番町A-1 野島康三様	1936(昭和11)年1月10日	はがき	No-28
373	荒川区日暮里渡辺町A 野上豊一郎	麹町区三番丁(ママ) 野島康三様 令夫人	1936(昭和11)年5月24日	絵はがき	No-29
374	荒川区日暮里渡辺町九一A 野上豊一郎	麹町区三番丁(ママ) A-1 野島康三様 奥様	年不詳(昭和11年?) 10月11日	封書、1936年 謡会 の記念写真【別表1】 No.31を描いた絵あり	No-30
375	朝鮮江原道温井里外金剛ホテルにて 野上豊一郎	麹町区麹町区三番町A-1 野島康三様 いね子様	1936(昭和11)年10月15日	絵はがき、写真「朝鮮・新金剛、千十数尺の懸崖に躍る十二瀑」	No-31
376	荒川区日暮里渡辺町A 野上豊一郎	麹町区三番町A-1 野島康三様	1937(昭和12)年9月20日	はがき	No-32

No.	住所、差出人	宛先、宛名	日付	備考(種類等)	『資料集』 掲載番号
377	荒川区日暮里渡辺町A 野上豊一郎	麹町区三番町A-1 野島康三様	1938(昭和13)年12月16日	封書	No-33
378	荒川区日暮里渡辺町A 野上豊一郎	麹町区三番町A-1 野島康三様	1940(昭和15)年11月16日	封書、速達	No-34
379	日暮里渡辺町九-A 野上豊一郎	麹町区三番町A-1 野島康三様	1941(昭和16)年3月14日	はがき	No-35
380	荒川区日暮里九ノA 野上豊一郎	麹町区三番丁(ママ) A-1 野島康三様	1941(昭和16)年12月10日	はがき	No-36
381	日暮里渡辺町A 野上豊一郎	麹町区三番丁(ママ) A-1 野島康三様	1942(昭和17)年6月27日	はがき	No-37
382	荒川区日暮里九ノA 野上豊一郎	世田谷区祖師ヶ谷F 野島康三様 いね子様	1944(昭和19)年5月2日	はがき	No-38
383	大阪市北区中之島 新大阪ホテル 野上豊一郎	東京市麹町区三番町A-1 野島康三様	昭和年不詳11月18日	封書、速達	No-39
384	野上生	野島様	年不詳6月21日	封書、手渡ししか	No-40
385	安城健二氏御紹介 東京市麹町区富士見町四丁目新見 付内 法政大学 野上豊一郎	野々宮写真館 野島熙正様	年不詳9月18日	封書、手渡ししか	No-41
386	野上豊一郎	野島康三様	年月不詳14日	封書、手渡ししか	No-42
<b>野上彌生子</b>					
387	荒川区日暮里渡辺町A 野上弥生子	麹町区三番町A-1 野島康三様 いね子様	昭和年不詳1月28日	封書	No-43
<b>野島泰次郎</b>					
388	東京市日本橋区金吹町A 野島泰次郎	相州箱根小涌谷 三河屋ホテル 野島康三殿	1906(明治39)年 8月(5月?)28日	封書	Noj-1
389	東京市日本橋区金吹町A 野嶋(ママ)	相州箱根底倉 千石屋方ニテ 野嶋(ママ)康三殿	1906(明治39)年8月14日	封書	Noj-3
390	東京市日本橋区金吹町A 野嶋(ママ)泰次郎	相州箱根小涌谷 三河屋ホテル 内 野嶋(ママ)康三殿	1906(明治39)年8月25日	封書	Noj-2
<b>濱田庄司</b>					
391	東京市外灘野川町上中里二十 井 關双山 不昧庵主方 濱田	野島様	年不詳5月10日	封書、手渡ししか	Ha-1
392	栃木県芳賀郡益子町サヤド 浜田庄司	神奈川県葉山町一色1M 野島康三様	1961(昭和36)年10月23日	封書	Ha-2
<b>寶生新</b>					
393	東京 上根岸A 寶生新	日光中禅寺湖畔 レーキサイド ホテル ニテ 野島熙正様 全 稲子様	1939(昭和14)年10月24日	はがき	Ho-1
394	寶生新	野島熙正様	年不詳11月14日	封書、手渡ししか	Ho-2
<b>柳宗悦</b>					
395	赤・高木・A 柳宗悦	小石川区竹早町 野島熙正兄	1922(大正11)年1月21日	はがき	Y-1
396	赤坂区高樹町A 柳宗悦	小石川区竹早町 野島熙正兄	1922(大正11)年7月17日	封書	Y-2
397	高木町A 柳宗悦	小石川区竹早町 野島熙正兄	1922(大正11)年8月4日	はがき	Y-6
398	柳宗悦	小石川区竹早町 野島熙正兄	1922(大正11)年8月24日	はがき	Y-3
399	青山高木町A 柳宗悦	小石川区竹早町 野島熙正兄	1922(大正11)年9月3日	はがき	Y-4
400	柳宗悦	小石川区竹早町 野島熙正兄	1922(大正11)年11月9日	はがき	Y-5
401	青山高木町A 柳宗悦	小石川区竹早町 野島熙正兄	1923(大正12)年7月12日	封書	Y-7
402	京都吉田山、下大路 柳宗悦	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正兄	1924(大正13)年10月3日	封書	Y-8
403	柳宗悦	小石川区竹早町 野島熙正兄	1925(大正14)年3月12日	はがき	Y-9
404	京城にて 柳宗悦	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正兄	1925(大正14)年4月18日	はがき	Y-10
405	柳宗悦	東京小石川竹早町C-1 野島熙正兄	1925(大正14)年4月23日	はがき	Y-11
406	宗悦	東京市小石川区竹早町C-1 野島康三 いね子様	1926(大正15)年1月1日	はがき	Y-12
407	京都吉田神東岡B 柳宗悦	東京市小石川区竹早町C-1 野島康三兄	1926(大正15)年2月4日	封書、書留	Y-13
408	京都にて 柳宗悦	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正兄	1926(大正15)年4月7日	封書	Y-14

No.	住所、差出人	宛先、宛名	日付	備考(種類等)	『資料集』 掲載番号
409	宗悦	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正兄	1926(大正15)年4月15日	はがき	Y-15
410	宗悦	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正兄	1926(大正15)年6月1日	はがき	Y-16
411	洛東吉田 柳宗悦	東京市小石川区竹早町C-1 野島康三兄	1926(大正15)年6月29日	封書、書留	Y-17
412	信州軽井沢C 柳宗悦	東京小石川区竹早町C-1 野島熙正兄	1926(大正15)年7月6日	はがき	Y-18
413	京都吉田 神楽丘B 柳宗悦	東京小石川区竹早町C-2 野島康三兄	1926(大正15)年10月13日	封書	Y-19
414	宗悦	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正兄	1926(大正15)年11月23日	はがき	Y-20
415	宗悦	東京市小石川区竹早町C-2 野島康三兄	1926(大正15)年12月11日	はがき	Y-21
416	宗悦	東京市小石川区竹早町C-1 野島熙正兄	1927(昭和2)年2月26日	はがき	Y-22
417	柳宗悦	東京市小石川区竹早町C-1 野島康三兄	1927(昭和2)年3月1日	はがき	Y-23
418	京都吉田 神楽丘B 柳宗悦	東京市小石川区竹早町C-1 野島康三兄	1927(昭和2)年3月16日	封書、書留	Y-24
419	洛東吉田 柳宗悦	東京市小石川区竹早町C-1 野島康三兄	1927(昭和2)年4月14日	封書	Y-25
420	柳宗悦	東京市小石川区竹早町C-2 野島熙正兄	1927(昭和2)年8月8日	はがき	Y-26
421	M. Yanagi, Fogg Museum, Cambridge, Mass, U.S.A.	Mr. & Mrs. Nojima Takehayacho Koisi-Kawa, Tokyo, Japan 東京小石川区竹早町C-1 野島熙正兄	1930(昭和5)年1月1日	絵はがき	Y-27
422	京都下鴨膳部町D 柳宗悦	東京市麴町区一番町B 野島熙正兄	1931(昭和6)年1月21日	封緘はがき	Y-28
423	宗悦	東京市麴町区番町B 野島康三兄	1932(昭和7)年3月10日	はがき	Y-30
424	京都下鴨膳部町D 柳宗悦	信州軽井沢 野島康三兄	1932(昭和7)年7月27日	封書	Y-31
425	京都下鴨膳部町D 柳宗悦	信州軽井沢G-1 野島康三兄	1932(昭和7)年8月1日	封書	Y-32
426	京都下鴨膳部町D 柳宗悦	東京市麴町区一番町B 野島康三兄	1932(昭和7)年11月13日	封書	Y-33
427	宗悦	東京市麴町区一番町B 野島熙正兄	1933(昭和8)年11月28日	はがき	Y-29
428	目黒区駒場E 柳宗悦	糝(ママ)町区一番町B 野島康三兄	1935(昭和10)年3月23日	はがき	Y-34
429	目黒区駒場F 柳宗悦	東京都世田谷区祖師ヶ谷F 野島康三兄	不詳(昭和26年頃?)	はがき	Y-35
430	目黒区駒場町F 柳宗悦	東京都世田谷区祖師ヶ谷町F 野島康三兄	1952(昭和27)年1月2日	お年玉くじ付年賀は がき	Y-36
431	柳宗悦	野島熙正兄	年不詳8月7日	封書、手渡ししか	Y-37
432	柳宗悦	小石川区竹早町 野島熙正兄	年不詳8月11日	はがき	Y-39
433	柳宗悦	小石川区竹早町 野島熙正兄	年月不詳28日	封書	Y-38
<b>萬鐵五郎</b>					
434	相州茅ヶ崎天王山 萬鐵五郎	東京小石川区竹早町C-1 野嶋(ママ)熙正様	1921(大正10)年11月18日	はがき	Yo-1
435	相州茅ヶ崎天王山 萬鐵五郎	東京小石川区竹早町C-1 野嶋(ママ)熙正様	1921(大正10)年11月30日	はがき	Yo-2
436	相州茅ヶ崎天王山 萬鐵五郎	東京小石川区竹早町C-1 野嶋(ママ)熙正様	1922(大正11)年2月4日	はがき	Yo-3
437	神奈川県茅ヶ崎天王山 萬鐵五郎	東京小石川区竹早町C-1 野嶋(ママ)熙正様	1922(大正11)年5月12日	はがき	Yo-4
438	相州茅ヶ崎天王山 萬鐵五郎	東京小石川区竹早町C-1 野嶋(ママ)熙正様	1922(大正11)年7月4日	はがき	Yo-5
439	神奈川県茅ヶ崎天王山 萬鐵五郎	東京小石川区竹早町C-1 野嶋(ママ)熙正様	1922(大正11)年8月2日	はがき	Yo-6
440	神奈川県茅ヶ崎天王山 萬鐵五郎	東京小石川区竹早町C-1 野嶋(ママ)熙正様	1922(大正11)年8月5日	はがき	Yo-7

No.	住所、差出人	宛先、宛名	日付	備考(種類等)	『資料集』 掲載番号
441	神奈川県茅ヶ崎天王山 萬鐵五郎	東京小石川区竹早町 野嶋(ママ)熙正様	1922(大正11)年8月22日	はがき	Yo-8
442	神奈川県茅ヶ崎町天王山 萬鐵五郎	東京小石川区竹早町C-1 野嶋(ママ)熙正様	1922(大正11)年8月29日	はがき	Yo-9
443	神奈川県茅ヶ崎町天王山 萬鐵五郎	東京小石川区竹早町C-1 野嶋(ママ)熙正様	1923(大正12)年6月1日	封書	Yo-10
444	相州茅ヶ崎天王山 萬鐵五郎	東京小石川区竹早町C-1 野嶋(ママ)熙正様	1924(大正13)年3月14日	封書	Yo-11
445	神奈川県茅ヶ崎町天王山 萬鐵五郎	東京小石川区竹早町C-1 野嶋(ママ)熙正様	1924(大正13)年5月10日	封書	Yo-12
446	茅ヶ崎町天王山 萬鐵五郎	縣下鎌倉町塔の辻J 野嶋(ママ)熙正様	1924(大正13)年(?) 6月25日	封書	Yo-13
447	神奈川県茅ヶ崎町天王山 萬鐵五郎	東京小石川区竹早町C-1 野嶋(ママ)熙正様	1924(大正13)年7月26日	封書	Yo-14
448	神奈川県茅ヶ崎町天王山 萬鐵五郎	東京小石川区竹早町C-1 野嶋(ママ)熙正様	1924(大正13)年8月29日	封書	Yo-15
449	神奈川県茅ヶ崎町天王山 萬鐵五郎	東京小石川区竹早町C-1 野嶋(ママ)熙正様	1924(大正13)年10月11日	封書	Yo-16
450	神奈川県茅ヶ崎町天王山 萬鐵五郎	東京小石川区竹早町C-1 野嶋(ママ)熙正様	1926(大正15)年3月6日	封書	Yo-18
451	神奈川県茅ヶ崎町天王山 萬鐵五郎	東京小石川区竹早町C-1 野嶋(ママ)熙正様	1926(大正15)年12月7日	封書	Yo-20
452	相州茅ヶ崎町天王山 萬鐵五郎	東京小石川区竹早町C-1 野嶋(ママ)熙正様	年代不詳12月29日	はがき	Yo-21



渋谷区立松濤美術館  
THE SHOTO MUSEUM OF ART